

第三十九回 帝國議會 貴族院議事速記錄第五號

大正六年七月八日(日曜日)

午前九時十二分開議

議事日程 第五號 大正六年七月八日

午前九時開議

第一 大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)審查期限ヲ定
ムルノ件

第二 大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)審
查期限ヲ定ムルノ件

第三 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件審查
期限ヲ定ムルノ件

第四 大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審查期限ヲ定
ムルノ件

第五 大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)審查期限ヲ定
ムルノ件

第六 臨時軍事費豫算追加案審查期限ヲ定ムルノ件

第七 大正六年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特第二號)審查
期限ヲ定ムルノ件

第八 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追
第一號)審查期限ヲ定ムルノ件

第九 大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第四號)審查期限ヲ定
ムルノ件

第十 大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第三號)審
查期限ヲ定ムルノ件

第十一 裁判所ノ設立ニ關スル法律案(政府提出、衆議
院送付)

第十二 大正二年法律第九號中改正法律案(政府提出、
衆議院送付)

第一讀會

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス
〔岡書記官朗讀〕

去ル五日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送

第十三 北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律
案(政府提出、衆議院送付)

輕便鐵道補助法中改正法律案(政府提出、衆議
院送付)

第一讀會

第十四 軍人恩給法中改正法律案(政府提出、衆議院送
付)

第一讀會

第十五 軍事救護法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十六 大正五年法律第四號中改正法律案(政府提出、
衆議院送付)

第一讀會

第十七 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出、衆議
院送付)

第一讀會

第十八 電話事業公債法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十九 朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案(政府提
出、衆議院送付)

第一讀會

第二十 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出
金ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十一 京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律
案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十二 學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會
衆議院送付)

第一讀會

第二十三 計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案(政府提出、
衆議院送付)

第一讀會

第二十四 農業倉庫業法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十五 戰時海上再保險法案(政府提出、衆議院送
付)

第一讀會

第二十六 臨時國庫證券法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第二十七 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提
出、衆議院送付)

第一讀會

付セリ

銃砲火薬類取締法中改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

工業所有權戰時法案

同日豫算委員分科會ニ於テ當選シタル主査ノ氏名左ノ如シ

第一分科主査

子爵前田 利定君 第二分科主査 男爵小澤 武雄君

第三分科主査

伯爵林 博太郎君 第四分科主査 男爵村上敬次郎君

第五分科主査

男爵武井 守正君 第六分科主査 子爵稻垣 太祥君

同日豫算委員長ヨリ分科擔當委員ノ兼務ヲ左ノ如ク決定セル旨ノ報告書ヲ提出セリ

第六分科兼務

第五分科擔當委員 藤 田 四 郎 君

同日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表第二回報告書

從三位勳二等功三級 男爵 坂 本 俊 篤 君

同日男爵議員補闕選舉ニ當選セラル

一昨六日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願委員會特別報告第一號

從五位 子爵 板 倉 勝 憲 君

昨七日子爵議員補闕選舉ニ當選セラル

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

裁判所ノ設立ニ關スル法律案

大正二年法律第九號中改正法律案
北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律案
輕便鐵道補助法中改正法律案

軍事救護法案

軍人恩給法中改正法律案
大正五年法律第四號中改正法律案

電話事業公債法案
朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案
東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案

京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案
學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案

農業倉庫業法案

戰時海上再保險法案

臨時國庫證券收入金特別會計法案

大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)

大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)

大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第三號)

大正六年度歲入歲出豫算追加案(特第二號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)

大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第四號)

大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第三號)

大正六年度歲入歲出總豫算追加案(第五號)

大正六年度歲入歲出豫算追加案(特第二號)

大正三年度歲入歲出總決算、大正三年度各特別會計歲入歲出決算審查報告書

同日決算委員副委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

大正三年度歲入歲出總決算、大正三年度各特別會計歲入歲出決算審查報告書

○議長(公爵德川家達君) 去ル五日本院議員ニ當選セラレマシタ男爵坂本俊

篤君ノ席次ハ小笠原ノ次席ト確定イダシマシタ、其部屬ヲ第四部ニ定メマシ

タ、又昨七日本院議員ニ當選セラレマシタ子爵板倉勝憲君ノ席次ハ小笠原子

爵ノ次席ト確定イタシ、其部屬ヲ第八部ニ定メマシタ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、諸君ニ御諮リヲ致シマスコトガゴザイマス、本會期中委員會ハ必要ニ應ジ本會議開會中ト雖モ開會シテ宜シウゴザイマスカ、豫メ諸君ノ許可ヲ得テ置キタク思ヒマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス。大正六年度歲入歲出總豫算追加案第一號、大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、特

第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、大正六年度歲入歲出總豫算追加案、第二號、大正六年度歲入歲出豫算追加案、第三號、

臨時軍事費豫算追加案、大正六年度特別會計歲入歲出豫算追加案、特第二號、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、大正六年度歲

歲入歲出總豫算追加案、第四號、大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、特第三號、審查期限ヲ定ムルノ件、本日モ通牒文ノ朗讀ハ總テ省略イタシテ

御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
〔左ノ送付文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ徵フ〕

(第一號)大正六年度歲入歲出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

(特第一號)大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

(第四號)大正六年度歲入歲出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長公爵徳川家達殿

(第二號)大正六年度歲入歲出豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

入歲出總豫算追加案第一號、第二號、大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、特

第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、大正六年度歲

歲入歲出豫算追加案、第三號、大正六年度歲入歲出豫算追加案、特第二號、

臨時軍事費豫算追加案、大正六年度特別會計歲入歲出豫算追加案、特

第三號、審查期限ヲ定ムルノ件、本日モ通牒文ノ朗讀ハ總テ省略イタシテ

御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
〔左ノ送付文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ徵フ〕

(第一號)大正六年度歲入歲出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

臨時軍事費豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

(特第一號)大正六年度特別會計歲入歲出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

(特第三號) 大正六年度各特別會計歲入歲出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(勝田主計君) 私ハ此場合ニ、大正六年度歲計豫算追加案ヲ皆様ニ御紹介致シテ、併セテ政府ノ財政、經濟ニ關シマスル所ノ施設ノ一般ヲ申上ゲタイト思フノデアリマスル、抑、政府ノ財政並ニ經濟ニ關係イタシマスル所ノ大體ノ方針ハ既ニ現内閣ノ成立ノ當初、竝ニ三十八議會等ニ於キマシテ申上ゲテゴザイマス通リデアリマシテ、即チ政府ハ時局ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ、時局ノ進展ニ順應イタシマス所ノ諸般ノ施設ヲ講ジマシテ、内ハ生産事業ノ發達ヲ促進シ、外ハ海外ニ於ケル經濟ノ伸張ヲ圖ルト共ニ、戰爭ノ終熄ニ伴ヒ生ズベキ財界ノ變動ニ準備ヲ致シマスシ、財界ノ好況ヨリ生ジマス所ノ各種ノ影響ノ中其利アルモノハ之ヲ助長シテ行キマスルシ、其害アリト認ムルモノヲ防止シテ行キマスルト云フ大體方針ヲ定メテ居リマス、殊ニ日支ノ經濟的提携ハ今日ノ事情ニ於テ誠ニ必要ナルコト考ヘマシテ、著々其經畫ヲ進メツツアル次第ゴザイマス、又聯合與國トノ親誼協力ノ關係ヲ助長イタシマスルガ爲ニ財政等ノ援助ヲ爲スコトニ付テモ亦是レ努力ヲ致シテ居ル次第ゴザイマス、曩ニ第三十八議會ニ於キマシテ提出イタシマシタル大正六年度總豫算ハ御承知ノ如クニ不幸ニシテ其成立ヲ見ルコトヲ得マセヌガ、隨テ前年度豫算ヲ施行スルノ已ムヲ得ザル狀態ニナリマシタノデ、御承知ノ通りニ實行豫算ヲ編製イタシマシテ此年度當初ヨリ施行イタシテ居リマスル、其實行豫算ノ金額ハ歲入總額ガ六億八百餘萬圓デゴザイマシテ、歲出總額五億五千百餘萬圓デゴザイマスル、差引五千七百餘萬圓ノ歲入超過ト云フ計算ニナッテ居リマス、此實行豫算ハ無論前年度豫

算ノ範圍内ニ於キマシテ、編製ヲ致シマシタルノデゴザイマス、各般ノ施設ニトデアリマス、依ッテ政府ハ今回追加豫算ヲ編製シマシテ、皆様ノ御協賛ヲ經ルコトニ致シマシタルノデアリマス、此追加豫算ヲ編製イタシマスルニ際シマシテ、政府ハ努メテ注意ヲ致シマシテ、成ルベク緊縮ノ方針ヲ執リ、既定ノ経畫若クハ政策ニ關シ時局ニ伴ヒ國力發展ニ必要ナリトスル所ノモノノ中デ、緊要ナル經費ヲ計上イタシマシタル次第デアリマス、茲ニ追加豫算ノ大體ヲ皆様ニ申上ゲタイト思フノデアリマスルガ、大正六年度總豫算追加第一號、即チ此冊子ニ謂ハユル一般會計ノ普通經費ノ追加豫算ニ載ッテ居ルノデアリマスルガ、此追加第一號ノ歲入ハ經常部ニ屬シマスルモノガ千六百餘萬圓、臨時部ニ屬シマスモノガ千七百餘萬圓、合計三千三百餘萬圓ト云フコトニナツテ居リマス、歲出ハ經常部ニ屬シマスルモノガ四千百餘萬圓、臨時部ニ屬スルモノガ四千七百餘萬圓ニナツテ居リマシテ、其合計八千八百餘萬圓ト云フコトニナツテ居リマシテ、歲出歲入ヲ差引ヲ致シテ見マスルト、五千四百餘萬圓ノ不足ヲ生ズルコトニナツテ居リマス、此不足ハ曩ニ申上ゲマシタル所ノ實行豫算ノ上ニ於テ、五千七百餘萬圓ノ歲入剩餘ガアリマスルカラ、之ヲ以テ填補スルノ經畫ヲ立てマシタルノデアリマス、追加第二號デアリマスルガ、是ハ一般會計ニ屬スル所ノ臨時事件費ノ追加豫算デゴザイマスル、此歲出ト臨時軍事費特別會計繰入金ガ千五百餘萬圓、臨時事件豫備費五千三百餘萬圓、合計六千九百餘萬圓ニ相成ツテ居リマス、歲入ノ總額ガ六千六百餘萬圓デアリマシテ、歲出歲入ヲ差引イテ見マスルト、是亦二百九拾餘萬圓バカリノ不足デゴザイマス、此不足ハ前ニ申上ゲマシタル第一號ノ不足額ヲ實行豫算ノ剩餘額ヨリ引去リマシテ、其剩餘ガ尙ホアリマスルカラシテ、是等ノ殘額ヲ以テ補填イタシマス所ノ經畫ヲ立てタ次第ゴザイマス、追加第三號ハ電話擴張ニ關シマスル其豫算案デアリマシテ、其歲入總額ガ三百十九萬餘圓デアリマス、歲出總額ガ三百十三萬餘圓デ、歲入歲出差引六萬餘圓ノ剩餘ヲ生ズル所ノ計算ニ相成ツテ居リマス、追加第四號ト云フノガゴザイマスルガ、是ハ簡單ニ申上ゲマスレバ、追加第一號ノ又追加ト云フコトニナリマスルノデ、豫算ノ編製ノ次第カラ致シマシテ、多少遲レマシタルノデ別號ト致シテ提出シタノデゴザイマス、此第四號ニ掲ゲテゴザイマスル歲入ハ、百十九萬餘圓デゴザイマシテ、歲出ガ百二十五萬餘圓ニナツテ居リマス、結局差引不足額ガ六萬餘圓

ト云フコトニ相成ツテ居リマス、此不足額ノ六萬餘圓ハ是ハ曩ニ申上グマシタ所ノ追加第三號ノ剩餘ノ六萬餘圓ト云フモノヲ以テ之ヲ補填スル經畫ヲ立テマシタノデゴザイマス、以上追加ノ大體ヲ申上ダマシタガ、以下少シク詳細ニ瓦リマシテ、尙ホ申上ゲタイト思フノデゴザイマス、即チ第一號ノ追加豫算ニ計上イタシテアリマスル所ノ歲入ノ主ナルモノヲ列舉イタシマスレバ、經常部ニ於キマシテハ官業及官有財產收入ノ增加イタスモノガ約一千萬圓ゴザイマス、預金部特別會計繰入金ノ增加イタシマスルモノガ四百萬圓ゴザイマス、臨時部ニ於キマシテ朝鮮及臺灣事業費公債及借入金ニ於テ千五百餘萬圓、港灣修築費納付金ニ於テ百餘萬圓、地方分擔納付金ニ於キマシテ八十五萬圓等ガ其主要ナルモノデアリマス、歲出ノ主ナルモノヲ申上ダマスレバ、經常部ニ於キマシテハ、國債整理基金繰入ノ增加ガ二千餘萬圓、國庫豫備金ノ增加ガ三百萬圓、預金利子及預金利子ノ支拂手數料ノ增加ガ四百餘萬圓、新艦船ニ要シマスル經費二百餘萬圓、是ガ主ナルモノデアリマス、臨時部ニ於キマシテ軍艦製造費ノ追加千五百餘萬圓、造船獎勵費ノ增加三百餘萬圓、兵器製造所ノ新設費ガ二百餘萬圓、製鐵所擴張工事繰上ニ依ル年割額ノ增加百餘萬圓、斯様ナモノガ主ナルモノデゴザイマス、右ノ内國債整理基金ノ繰入金ガ二千萬圓ヲ增加イタシマシテ、此二千萬圓ヲ增加イタシタモノヲ以チマシテ、謂ハユル五千萬圓國債償還ヲ現實イタスコトガ出來マス次第デゴザイマス、又軍艦製造費ノ追加ハ御承知ノ通リ、其總額ガ二億六千五百五十二萬圓デゴザイマシテ、今年度ヨリ以降七箇年度ノ繼續支出ニ屬シテ居リマスルノデ、本年度即チ前申上ダマシタ如ク千五百餘萬圓ニナツテ居リマス、是等ノ追加ニ依リマシテ謂ハユル八四艦隊ト云フ編成ガ現實ニ出來ルト云フコトニナルノデアリマス、次ニ臨時事件ニ關シマス臨時軍事費特別會計ノ豫算ノコトヲ申上ダマスト、臨時軍事費ガ三千百六十餘萬圓デゴザイマシテ、之ニ對シマシテ二千萬圓ノ豫備費ヲ計上イタシマシタ、即チ合計五千百六十三萬餘圓ト云フモノヲ計上イタシマシタ、之ニ對シマスル所ノ歲入ハ一般會計ノ繰入金及事業收入等ノ二千百餘萬圓ノ外三千萬圓ハ公債又ハ借入金ト致シマシテ計上ヲ致シマシタ、又臨時事件費軍事費特別會計ニ於キマスル所ノ臨時事件關係ノ費用ト一般會計費用ニ於キマスル所ノ臨時事件關係ノ費用ヲ合計イタシテ見マスルト、本追加豫算ニ於キマシテ要求ヲ致シマシタ總額ガ一億五百餘萬圓ト云フモノニナツテ居ル次第デゴザイマス、此臨時事件ニ關係ノコト

ヲ申上ダマスル際ニ私ハ茲ニ一言附加イタシタイト思フノデゴザイマス、即チ我國ガ此戰爭ニ參加シテ以來御承知ノ如クニ青島ノ戰役以來我ガ軍事的行動ハ頗ル廣汎ニ瓦ツテ來マシテ、我ガ交通貿易ノ保護ヲ致シマスルト共ニ與國ノ策戰ニ對シテ常ニ出來得ル限リノ援助ヲ與ヘテ居リマスノデ、從ツテ此臨時事件ニ關係イタシマスル所ノ經費ノ増大ヲ致シマシタト云フコトハ洵ニ已ムヲ得ザル次第デゴザイマス、即チ本年度ニ於キマシテモ前ニ申上ダマシタ所ノ此追加豫算ニアリマス額ト、尙ホ本年度ノ實行豫算ニ計上イタシテアリマスル所ノ額トヲ、之ヲ合計計上イタシテ見マスルト、一億四千二百萬圓ノ多キニ達シテ居リマスル、開戰當初ヨリ本年度ニ瓦リマシテ通算ヲ致シテ見マスルト、三億二千九百餘萬圓ト云フコトニナツテ居ルノデゴザイマス、是等ノ事件費ヲ支出ヲ致シマシテ、今日ニ至リマシタト云フコトハ、特別ノ財源ノ收入ノアルモノハ是ハ別ト致シマシテ、大體ニ於キマシテ此戰爭ノ當時ニ於テ豊富ナル剩餘金ガアリマシタト云フコトト、仕合セニモ其以後我ガ收入ノ状態、即チ國庫收入ノ状態ガ非常ニ良好デアッタト云フコトガアリマシタノデ、要シマスルニ主トシテ是等ノモノニ依ツテ此經費ト云フモノヲ支辨スルト云フコトニナツテ居リマスノデアリマス、併ナガラ此戰局ノ前途ヲ考ヘマスルト、其範圍ノ擴大ハ勿論其繼續スルト云フヤウナコトニ付キマシテモ今日断定ガ出來マセヌノデ、何ノ時此戰爭ガ休止スルカト云フコトハ何人モ、是ト云フコトニナツテ居リマスノデアリマス、併ナガラ此戰局ノ前途ヲ考ヘマスルト、其範圍ノ擴大ハ勿論其繼續スルト云フヤウナ傾ニナリハシナイカト考ヘテ居リマスヤウナ次第デゴザイマス、ソレデアリマスノデ、將來此戰時財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルノ方法ニ付キマシテハ政府ニ於キマシテモ慎重ニ考慮ヲ盡シテ居ル次第デゴザイマス、併シ此特別議會ニ於キマシテ是等ニ付キマスル所ノ計畫ヲ十分ニ立テ得ナイト云フコトハ是ハ皆様モ御諒知下サルコトト思ヒマスルガ、免ニ角差向キ此臨時軍事費ト云フモノニ從來ハ豫備費ガゴザイマセナシダ、ソレニ今回ハ豫備費ヲ設ケマシテ、尙ホ是等ノ財源調達ヲ便利ニ致シマスル爲ニ御承知ノ大正五年法律第四號ニ修正ヲ加ヘマシテ、之ヲ當期議會ニ提出イタシマシテ、既ニ衆議院デ可決イタシマシテ、今皆様ノ御協賛ヲ經ムト致シテ居ル次第デゴザイマス、右ノ外電話擴張ニ關係イタシマシテ一般會計歲入支辨ニ屬スベキ既定年割額ノ四百五十萬圓ノ外ニ尙ホ三

百萬圓ヲ追加イタシマシテ、後年度ニ於ケル既定及追加總額九千九百五十萬圓ト共ニ之ヲ公債又ハ借入金ノ財源ニ依ルト云フコトニ計畫ヲ立テマシタノデアリマス、電話ノ停滯イタシテ、一般ノ需要ニ應ズルコトノ出來ヌト云フコトノ實況ノアルコトハ、是ハ私カラ申上ゲルマデモナイコトデアラウト思ヒマス、是等ノ實況ガアリマスルカラシテ、何トカシテ此問題ト云フモノモ解消シテ置カナケレバナラヌノデアリマシテ、ソレ故ニ斯様ナ計畫ヲ立テマシテ、此計畫ノ遂行ニ依リマシテハ恐ラクハ商工業等ニ於キマシテ有利ナル影響ヲ生ズルコトト政府ハ信ジテ疑ハナイノデアリマス、尙ホ大正六年度追加豫算中ニ國債ノ發行ニ關スル所ノ主ナルモノヲ茲ニ申上ゲテ見マスルナラバ、朝鮮事業費ノ財源ニ充ツベキモノ千三百餘萬圓、臺灣事業費ノ財源ニ充ツベキモノ二百萬圓、電話交換擴張ニ要スルモノ三百萬圓、帝國鐵道改良費ノ追加豫算ノ財源ニ充ツベキモノ百餘萬圓、其他大正五年法律第三十四號ニ依リマシテ、内債ヲ募集シテ、外債ヲ償還スルト云フモノガ一千萬圓、朝鮮國庫債券ノ借換額ガ三千萬圓、ソレ等ガ主ナルモノデゴザイマス、以上大體提出ヲ致シテ居リマスル所ノ追加豫算等ニ對シマシテノ説明ヲ終ッタノデアリマスルガ、是ヨリ序ヲ以チマシテ私ハ我ガ經濟界ニ關スル所見ヲ皆様ノ御耳ニ達シタイト思フノデゴザイマス、御承知ノ如ク我國經濟界ノ狀態ハ頗ル良好デゴザイマシテ、時局發生以來、昨年ノ末ニ到リマスルマデノ間ニ外國貿易輸出超過額並ニ貿易以外ノ收入超過額合計約八億六千萬圓程ニ上テ居ルノデゴザイマス、是等ノ好況ハ本年ニ入リマシテモ幸ニシテ繼續イタシテ居リマシテ、本年當初ヨリ致シマシテ五月ノ末ニ及ビマスル所ノ外國貿易上ノ輸出超過額ハ二億三千百餘萬圓ニナツテ居ルノデアリマス、之ヲ前年ノ同期ノ輸出超過額ニ比較ヲシテ見マスルト、三倍餘ノ増加ヲ致シタト云フ次第ニナツテ居リマスル、此趨勢ヲ以テ假ニ此經濟界ガ持續イタスト云フコトデアリマスレバ、本年中ニ輸出超過額及貿易外ノ收入超過額ト云フモノヲ通算イタシテ見マスルト、約八億圓ノ收入超過トナル見込デゴザイマス、是ハ勿論見込デゴザイマシテ、斷定ハ出來マセヌガ、多分是位ニハナルダラウト政府第二ナツテ居リマスル、此趨勢ヲ以テ假ニ此經濟界ガ持續イタスト云フコトデアリマスレバ、本年中ニ輸出超過額及貿易外ノ收入超過額ト云フモノヲ通算イタシテ見マスルト、此正貨ノ蓄積ニ依リマシテ、自然内地ノ資金ニ豊富ヲ來スト云フコトハ勿論ノコトデゴザイマス、此資金ヲ如何ニシテ利用スルカト云フコトニ付キマシテハ、餘程是ハ慎重ノ考慮ヲ要サヌケレバナラヌコトダラウト思フノデゴザイマス、左様ニシマシテ是等ノ方法

手段ヲ豫メ定メテ置キマスルト云フコトハ今日ノ現狀ニ於テ御承知ノ通り時々刻々變リ行ク所ノ此時局ノ現狀ニ於テハ餘程困難ナコトデゴザイマス、併ナガラ大體ヲ申上ゲマスレバ申スマデモナク財政ノ變理上並ニ民間ノ生產事業ニ必要ナル資金ニ之ヲ利用シ、尙ホ之ヲ海外ニ投資スルト云フコトハ即チ現下ノ經濟狀態ニ於テハ最モ適切ナル所ノ手段デアルト確信ヲ致シテ居ルノデアリマス、內地生產事業ノ發達ハ御承知ノ通りニ非常ニ好況デゴザリマシテ、時局發生以來昨年ノ末マデニ銀行會社等ノ新設又ハ增加ノ計畫資本額ハ殆ド十四億萬圓ニ上ボツテ居ルノデアリマス、本年一月以降五月ノ末マデノ計數ヲ見マスルト、十四億三千四萬圓ニ上ボツテ居リマス、昨年ノ同期ニ之ヲ比較イタシマスルト云フト、是亦倍額以上ニ上ボツテ居ルト云フ狀況デゴザイス、斯様ナ狀況デアリマスルガ、尙ホ此時運ヲ利用イタシマシテ大ニ產業ノ勃興スベキモノガアルデアラウト政府ニ於テハ考ヘテ居リマスルノデ、依ツテ確實ナル生產事業ヲ獎勵イタシマシテ、戰時並ニ戰後ノ經濟的活躍ニ資スル素地ヲ作リタイト云フコトヲ考ヘテ居ル次第デアリマス、支那ニ對シマズル投資ニ付キマシテハ、無論對支金融機關ノ統一整備ト云フコトガ心要デアルト共ニ、合辦事業ヲ獎勵スルト云フコトハ是亦必要デアリマス、之ヲ要スルニ利害共通ノ實ヲ擧ゲ兩國經濟的ノ實績ヲ擧ゲルト云フコトガ最モ必要ノコトト信ジマシテ、是等ノコトニ付キマシテ、政府ハ慎重ナル注意ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、支那ノ政治借款ニ對シマシテハ、列強ト共同イタシマシテ、是ガ成立ニ盡力ヲ致シテ居リマスルガ、不幸ニシテ支那ハ今日ノ狀況デアリマスノデ、未だ成立ヲ見マセヌ、又經濟借款ニ付キマシテハ既ニ成立ヲ致シマシタモノガ渺カラヌノデアリマスガ、尙ホ茲ニ申上ゲテ置キタイコトハ近時支那ノ經濟的投資ニ付キマシテ、日米資本家ノ間ノ意思ノ疏通ガ稍々出來ムト致シテ居ルト云フコトハ、是ハ私ガ皆様ト共ニ非常ニ喜ブ所ノ次第デゴザイマス、歐米ニ對シマスル所ノ投資ニ付キマシテハ與國ノ軍需品製造ノ如キハ作戰援助ノ爲ニ極力之ヲ引受クルノ覺悟ヲ要スルコトデアラウト思フノデアリマス、サウシマシテ是ガ代金調達ニ關シマシテハ又出來得ル限り是ニ應ジテヤルト云フコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、加之、先刻申上ゲマシタ如クニ我國ノ正貨ノ歐米ニ堆積サレル數ガ益々多いノデアリマス、之ヲニシテ利用スルカト云フコトニ付キマシテハ、餘程是ハ慎重ノ考慮ヲ要サヌ又一面ニ於キマシテハ與國ノ財界ヲ動モスレバ動搖セシムルト云フヤウナ所

ノ憂モアリマスコトデ、此爲替相場ノ如キモノガ今日ノ所御承知ノ通リニ甚
ダ順當ニ往ツテ居リマセヌノデ、即チ謂ハユル片爲替ノ状況ニ於テ進ンデ居リ
マスノデ、是等ノ現象ハ我國ノ生産品ノ輸出ヲ阻礙スルト云フ憂慮スペキ所
ノ結果ヲ來スト云フコトハ私ガ申上ゲルマデモナイコトデゴザイマス、是等
ノ状態ニ鑑ミマシテ歐米ニ對スル所ノ投資モ亦刻下ノ急務ナリト信ジマシ
テ、政府ハ國際金融ヲ調節スル所ノ目的ヲ以チマシテ今回臨時國庫證券法律
案ヲ帝國議會ニ提出イタシ、既ニ衆議院ヲ通過イタシマシテ當院ノ御協贊ヲ
仰グヤウナ次第ニナツテ居リマス、我國ノ經濟狀態ハ右申シタ如ク頗ル好調デ
アリマスルガ、反面ガ又アルト云フコトヲ忘レテハナラヌト云フコトハ勿論
デアリマス、即チ裏面ニ於テハ大ニ省慮警戒スベキ所ノ幾多ノ現象ガアルト
云フコトハ勿論デアリマス、ソレ故ニ是等ノコトニ付キマシテハ政府ハ深甚
ナル注意ヲ拂ツテ居リマス、就中此經濟界ノ好景氣ノ爲ニ一般ガ奢侈ニ流レ、
勤儉ノ美風地ヲ掃ハムトスルノデアリマス、此事柄ト云フモノハ誠ニ憂慮ス
ベキ事柄デアラウト思フノデアリマス、ソレ故ニ一般國民ニ對シテ勤儉貯蓄
ヲ獎勵スルコトニ付テハ有ラユル手段ヲ以テ致サナケレバナラヌノデアリマ
シテ、特ニ彼ノ勞働階級ニ屬シマスル所ノ謂ハユル貨銀收入ノ如キモノハ之
ヲ貯蓄セシメテ置クト云フコトハ今日ノ場合ニ最モ必要ナコトデアラウト考
ヘマスルノデ是等、零碎ノ資金ヲ時局ニ應ズル方法トシテ吸收ヲ致シタイト
云フ考カラ致シマシテ、戰時貯金券法案ト云フモノヲ帝國議會ニ提出イタシ
マシテ、衆議院ニ於テ本案ハ目下尙ホ審査中デアリマスルガ、他日又皆様ノ
御考ヲ煩ハスコト信ズルノデアリマス、曩ニ述べマシタル如クニ、内ハ生
産事業ノ發展ヲ促進シ、外ハ海外ニ於ケル經濟ノ伸張ヲ圖ルト云フコトヲ致
シマスルノニハ、各種ノ手段方法ガアルト云フコトハ勿論デアリマス、併ナ
ガラ此各種ノ手段方法ノ中デ最モ此金融機關ノ完備ヲ期スルコトガ必要デア
ルト政府ハ考ヘマシテ、既設金融機關ノ機能ヲ發揮セシムルト共ニ、金融上
必要ナル其他ノ施設ニ付テモ慎重ニ考慮ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、此中
ニハ既ニ成案ヲ得マシテ、當議會ニ其一部分ヲ提出イタシマシタノデゴザイ
マス、第一ハ既ニ當院ニ於テ御協贊下サレマシタ所ノ產業組合法ノ改正ニ依
リテ下層金融機關ノ金融ヲ滑ニスル、之ニ關聯シテ日本勸業銀行、或ハ農工
銀行、北海道拓殖銀行、斯様ナ法案ノ改正ヲ提出イタシマシテ、幸ニシテ既
ニ皆様ノ御協贊ヲ經テ衆議院へ廻ツテ居ル次第デゴザイマス、又普通ノ工業資

金ヲ滑ナラシムルノ方法ト致シマシテ、其一手段ト致シマシテ、日本興業銀
行法ニ改正ヲ加ヘマシテ、是亦本議會ニ提出イタシテ、衆議院ニ於テ目下審
査中デゴザイマス、船舶金融ニ關シマシテハ申スマデモナク是ハ朝野ノ問題
トナツテ居リマスコトデ、此件モデス、斯ノ如キ時局ニ於テ兎ニ角解決ヲ致シ
テ置クト云フコトガ必要ト認メマシテ、政府ハ日本興業銀行ヲシテ此業務ヲ
兼營セシムルト云フコトガ最モ必要ナリト致シマシテ其法案ヲ帝國議會ニ提
出イタシマシテ、是亦衆議院ニ於テ目下審査中デゴザイマス、移民ノ金融ト
云フコトニ付キマシテモ亦多年ノ是ハ問題デゴザイマスルノデ、何ノ時カ矢
張リ之ヲ解決イタサネバナラヌノデゴザイマスガ、今日ノ如キ時局ニ際シマ
シテ、我國ノ移民ノ發展ヲ圖ルト云フコトハ是ハ最モ必要ナルコトデアラウ
ト考ヘマスノデ、付キマシテハ是等ノ金融ヲ如何ニスルカト云フコトニ付テ
モ熟慮イタシマシタ結果、政府ハ移民事業ニ多年經驗ヲ有シマスル所ノ東洋
拓殖會社ヲシテ移民會社ノ社債ヲ引受ケシメ、又ハ移民會社ヲシテ代理貸付
ヲナサシムル等ノ途ヲ開イテ、此移民金融ノ一端ヲ補ヒタイト云フコトヲ以
チマシテ是等ノ法案ヲ提出イタシマシテゴザイマス、滿蒙ニ對シマスル金融
ニ付キマシテハ、是亦多年ノ問題デアリマシテ、殊ニ此時局ニ際シマシテ解
決ヲ急グノ必要ガアルノデアリマスル、御承知ノ如クニ滿蒙ニ於キマシテハ
普通ノ金融ト致シマシテハ我ガ正金銀行或ハ朝鮮銀行、其他ノ普通銀行ガア
リマシテ、是ハ先づ大體ニ於テ不足スル所ハアリマセヌ、併ナガラ長期固定
ノ事業資金ノ供給ト云フコトニナリマスト、是ハ今日正金銀行ガヤツテ居リマ
ス所ノ謂ハユル特別ノ貸付ノ方法ヲ以チマシテハ其目的ヲ達スルニ不十分ナ
リト認メマシテ、政府ハ東洋拓殖會社ヲ改正イタシテ、同會社ヲシテ満蒙
ニ於ケル所ノ、謂ハユル長期ノ金融ヲ致サシムル機關ニ致シタイト云フ方針
ヲ執リマシタ、斯様ニ致シマシタ所以ハ是ハ又特別ノ法案ノ時ニ説明ヲ致シ
タイト思ヒマス、即チ此案モ本議會ニ提出ヲ致シテアル次第デアリマス、右
ノ外對支金融ニ付キマシテハ政府ハ將來日支合辦銀行ノ設立ヲ期シテ居リマ
スル、併ナガラ今日ノ所ハ遺憾ナガラ未ダ其時機ガ熟シマセヌ、ト申シマシ
テ之ヲ等閑ニ附スル譯ニ參リマセヌノデ、先づ當面ノ措置ト致シマシテ政府
ハ特殊ノ既設機關ト云フモノヲ十分利用イタシマシテ、並ニ普通銀行ノ支那
銀行は此時局ノ上ヨリ致シマシテ大ニ考慮ヲ致ザナケレバナラヌ事柄デゴ

ザイマシテ、即チ此時局ノ結果ニ依ル所ノ經濟的關係ヲシテ、將來益、密接ナラシメ、尙ホ兩國間ノ親善ヲ厚ウスルト云フコトハ即チ斯様ナル機關ノ發達ヲ必要ト致シマスルニ依リマシテ、日露金融ノ問題ニ付キマシテ特ニ政府ハ横濱正金銀行或ハ朝鮮銀行ノ如キモノヲ利用イタシマシテ其圓滑ヲ圖ルト共ニ日露合辦銀行ノ設立ト云フコトニ付キマシテモ、大ニ講究注意ヲ拂ッテ居ル次第デゴザイマス、以上ハ政府ノ財政經濟等ニ關係イタシマスル施設ノ一班ニ過ギスノデアリマス、尙ホ講究ヲ致サヌナラヌ所ノ要件ノ多イト云フコトハ勿論デアリマシテ、殊ニ金融機關ノミニ付テ申上ゲマシテモ、廣ク海外貿易ノ助長ニ關スル金融ノ方法ヲ改善イタシマストカ、或ハ中央銀行ノ基礎ヲ一層鞏固ニ致シマスルト共ニ、一般金融界トノ聯絡ヲ益密接ナラシムルト云フ必要ノアルコトモ、是亦申スマデモナイコト、デゴザイマシテ、是等ノ問題ニ付キマシテ政府ハ銳意研究イタシテ居リマシテ、以テ帝國ノ戰時、戰後ニ於ケル財政並ニ經濟ノ發展ニ對應セシムル素地ヲ作リタイト考ヘテ居リマスル次第デゴザイマス、以上經濟關係ノコトヲ大體申上ゲマシタガ、終ニ臨ミマシテ私ハ諸君ガ慎重御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切ニ希望イタシテ置キマス

〔男爵尾崎三良君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 石黒男爵

〔男爵尾崎三良君「大藏大臣ニ……」ト述フ〕

○議長(公爵德川家達君) 議長ハ石黒男爵ヲ呼ビマシタ

〔男爵石黒忠恵君演壇ニ登ル〕

○男爵石黒忠恵君 現内閣ガ言論ニ重キヲ置カズシテ實務實行ニ重キヲ置カルコトハ我ニ之ヲ耳ニ致シテ居リマス、又之ヲ信ジテ居リマス、而シテ政府ガ此故ヲ以テ諸般ノ調査ニ力ヲ盡サルル其大ナルモノニ至ツテハ外交調査會ト云フモノマデモ置カレテ、總テノコトヲ調査サレテ、サウシテ大政ヲ燒理サレ百年ノ長計ヲ立テラレルト云フコトハ頗ル我ニシテ意ヲ強ウセシメテ居ルノデアリマス、統計ニ依ラザルナシト致シマスト國勢調査ニ依ラザルハナイト存ジマス、統計ニ依ラザルナシト致シマスト國勢調査ニ依ラザルハナイト殆ド申シテ宜カラウト存ジマス、然ルニ我が帝國、此國勢調査ト云フコトヲ行ヒマシタノハ臺灣ノ外ニゴザイマセヌヤウニ私ハ存ジテ居リマス、爾後

現内務大臣ノ後藤男爵ハ嘗テ臺灣ニ在ラレマスルヤ、施政ノ最初ニ於キマシテ此國勢調査ヲ施行サレテ、從ツテ又政ヲ爲スノニ基ク所ガアルト云フ所ノ令名ヲ博サレテ、又此事ニ付テハ學會ニ向ツテモ誇トサレテ居ル所、テアリマス、今ヤ寺内總理大臣ノ不言實行、專ラ調査ニ熱心ナル、又後藤内務大臣ノ嘗テ臺灣ニ於テ國勢調査ヲサレテ、サウシテ實益ヲ收メラレテ居ル所ノ實驗アリ期待シテ居ルノデゴザイマス、然ルニ今度ハ大正六年ノ豫算ヲ見マスルニ、此國勢調査ニ付テハ何モ費目ガ舉ツテ居リマセヌ、然ラバ此次ノ年ニ於キマシテモ政府ハ此國勢調査ヲ施行サレマス意ノナイセノト存ジマス、抑、此國勢調査ニ付キマシテハ滿場ノ諸君ガ御承知ノ通リニ明治三十三年ノ貴族院ニ於テモ衆議院ニ於テモ國勢調査施行ニ關スル建議ヲ可決イタシマシテ、サウシテ政府ニ送ツテ居リマス、同ジク三十五年ノ二月ニハ衆議院ニ於テ國勢調査ニ關スル法律案ヲ決議サレテ、貴族院ニ廻サレテ、本院ニ於テモ審議ノ上之ヲ可決イタシテ裁可ヲ奏請イタシマシタ、サウシテ同年ノ十二月一日ニ法律第十九號ヲ以テ國勢調査ニ關スル法律ハ公布サレテ居リマスル、サウシテ其第三條ニハ第一回國勢調査ハ明治三十八年ニ於テ施行スルト云フコトガ規定サレテアリマス、然ルニ政府ハ財政上ノ都合ト戰役後ノ人口職業等ノ常態ニ未ダ復シマセヌト云フコトヲ以チマシテ、明治三十八年ニハ施行シ難イト云フ譯デ、明治三十七年十二月ニ於テ國勢調査施行ノ延期ニ關スル法律案ヲ提出サレテ、サウシテ此法律ノ第三條デ「第一回國勢調査ヲ行フヘキ時期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリマス改正案ヲ提出サレテ、貴衆兩院ニ於テ隨分ヤカマシイ議論ガアリマシタガ、政府ノ言ハレル事情已ムヲ得ヌト云フコトデ、遂ニ是ガ通過ヲ致シマシテ發布サレテアリマスノデアリマス、其後國勢調査施行ノコトニ關シマシテハ明治四十三年ノ五月ニ國勢調査準備委員會ト云フモノヲ置カレマシテ、本員ナドモ其一人ニ加ツテ居リマシタガ、準備事項ヲ調查サレテ、ソレデ翌年、四十四年ノ一月ニ於テ此委員會ヨリ致シマシテ國勢調査ニ關シマス勅令案、閣令案、此中ニハ調査申告書ダトカ、調査申告書記入心得トカ、委員心得トカ、町村長心得ト云フヤウナコトマデモ案ヲ具シマシテ、サウシテ差出シマシテ、其中ニハ明治四十八年ニ於テ第一回調査ヲ施行スルト云フコトヲ其中ニ書加ヘマシテ副申イタシマシテゴザイマス、爾後

毎年此國勢調査ニ付キマシテハ政府ニ、或ハ豫算會等ニ於キマシテモ促シ、促サザルコト殆ドナシト云フヤウニ致シテ居リマシタガ、今ニ一回モ國勢調査ヲ實施セラルルト云フコトハアリマセヌノデアリマス、ソレデ既ニ此國勢調査ニ關シマス法律ガ發布サレマシテ當年デ十五年ニナリマス、偖此行政百般ノ調査ヲ如何ニ精密ニナサイマシテモ、根本タルベキ國勢調査ガ出來テ居リマセヌケレバ、精密トハ言ヘマスカ知レマセヌガ、精確ナモノトハ言ヘマスマイト私ハ考ヘル、恰モ砂上ニ樓閣ヲ築クヤウナモノ、ニアラウト思ヒマス、今ヤ政府ガ財政ノ好況ナリ又國內ニ騒ガシイコトノナイ靜平ノ時デ、復遭遇スベカラザル好機ニ際會シテ居リマスシ、又前途ヲ通觀イタシマスニ食物ノ供給ナリ貿易ノ發展ナリ、百般ノコト國ヲ堅ウシ國ヲ保チマスコトヲ基定イタシマスニ一日モ忽セニスベカラザルモノハ此國勢調査デアラウト思ヒマス、幸ニ大正九年ハ歐羅巴諸國ノ中ト亞米利加等ニ於キマシテ國勢調査ヲ致シマス年ニ當ツテ居リマスカラ、本邦ニ於テ萬國ノ國勢調査ト年期ヲ同ジウシテ、歩調ヲ同ジクシテ參ラウト云フニハ頗ル宜シイ年デアリマス、此大正九年ニ於テ國勢調査ヲスルニハ最早準備ニ著手イタシマセヌケレバ逆モ間ニ合ヒマス、マイト本員ハ考ヘマス、斯ノ如ク重要ナルモノト云フ思召デアラウカ、何時御著手ニナルカト云フコトヲ質問イタシマス

〔國務大臣伯爵寺内正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵寺内正毅君) 唯今石黒男爵ヨリ國勢調査ニ著手スルヤ如何ト云フ御質問デゴザイマス、此國勢調査ノ必要ナルコトハ何人ニモ能ク分ッテ居ルコトデアリマス、政府トシマシテハ長イ間ノ懸案デゴザイマスカラ、成ルベク近イ機會ニ於テ之ヲ片付ケタイト考ヘテ居リマス、目下關係ノ官衙ニ於テ協議中デゴザイマス、若シ財政其他ニ於テ差支ガナケレバ此冬ノ議會ニ何等カノ成案ヲ諸君ノ前ニ提出スルコトガ出來ルデアラウカト考ヘテ居リマス、此段御答ヲ致シマス

○男爵尾崎三良君 私ハ大藏大臣ニ質問ガアリマスノデアリマスガ、極ク單簡ナコトデアリマスカラ、此席カラ質問イタシテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ニ相成ツタ方ガ宜カラウト考ヘマス
〔男爵尾崎三良君演壇ニ登ル〕

○男爵尾崎三良君 是ハ大藏大臣、當局者ニ質問イタスノデアリマスガ、併ナガラ事柄ハ内閣ノ方針如何ト云フコトニ必ズ瓦ルデゴザイマセウガ、唯今大藏大臣カラ段々述ベラレマシタ所ノ本年ノ追加豫算案ハ種々アリマシタガ、其追加豫算ニ付テハ私ハ格別何モ議論ハアリマセヌ、其中ニ電話急設ノ御話モアリマシタガ、是ハモウ私ハ全然賛成ヲ致シテ居ルノデアリマス、其大藏大臣ガ一般經濟ノコトニ付テ、且ツ將來ソレニ付テ、財政方針等ノコトニ付スルコトハ出來ヌノデアリマス、其中ニハ大藏大臣カラ其御話ハナカッタト思ヒマスケレドモ、衆議院ナドデハ時々話ガ出マシテ、既ニ豫算會ナドデ大藏大臣ガ御言明ニナツタコトヲ速記録ニモ見マスデゴザイマスケレドモ、其點ハスルコトハ出來ヌノデアリマス、此戰時利得税ト申シマスカ、此戰時ニ付テ殊更ニ利益ヲ得タ者カラ稅ヲ取ルト云フ、是ハ現今戰鬪國ニ於テハソレ／＼ヤツテ居ルト云フコトデアリマスガ、既ニ大藏省ニ於テハソレヲ御取調ベニナツテ居ルト云フコトデアリマシテ、先達テノ衆議院ノ豫算會議ノ御話デモ、當議會ニモ出シタカツタガ、何分是ガ大業ノモノデアルカラ急ニ間ニ合ハス、必ズ次ノ議會ニハ出ス積リデアルト云フコトヲ速ニ出サレムコトヲ希望スルノデアリウテ居ルコトデアリマスカラ成ルベク速ニ出サレムコトヲ希望スルノデアリマス、併ナガラ今日ハ幾ラ言ツテモ逆モ今日ノ間ニ合ハヌデゴザイマセウガ、將來ハ必ズ提案サレルコトト考ヘマスガ、ソレニ付テ大抵モウ方法モ御取調ベニナツテ居ラウト考ヘマスガ、ドレ位ノ所得ガアル積リデアリマセウカ、其邊ノ御腹案ヲ伺ヘレバ伺ヒタイ、ソレカラ英國佛國伊國ナドモ皆ヤツテ居ルサウデアリマスガ、是ハ既ニモウ今日引續イテヤツテ居ルコトデアリマスガ、是等ハ實際ハドレ位ノ實際所得ガアツタカト云フコトハ御取調ベニナツテ居リマスカ、ドウゾソレヲ大體ノ數デ宜シウゴザイマスカラ大體ヲ伺ヒタイノデアリマス、是ダケノコトヲ伺ヒタイ爲ニ質問ヲ致シタノデアリマス

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(勝田主計君) 唯今尾崎男爵ヨリノ御尋デアリマスガ、戰時利得稅ノコトニ付キマシテハ、大藏省ニ於キマシテモ略、調査ヲ致シテ居リマスルノデ、ソレガドノ位ナ略、金額ガ取レルカト云フコトハ、是ハ實ハ餘ホドノ問題デゴザイマシテ、ト申スノハ、此稅ノ取レル根據トナル所ノ所得ノ計算

方、或ハ之ニ對スル所ノ何割掛ケルカト云フ其取レル割合ノ歩合デゴザイマス、是等ハ餘ホド考慮ヲ要スベキ點デゴザイマシテ、此割ヲ掛ケレバ隨分餘計取レルコトモアル、併ナガラ今日ノ狀態トシテハ、サウ云フ多額ナ割ヲ掛ケル譯ニハイカヌカラ、是ホドデ止メタラ宜カラウト云フコトニナレバ、ソレヨリ一段少クナルト云フコトデアリマシテ、チヨット茲ニ具體的ニドレダケ取レルト云フコトヲ申上ゲ兼ネルノデアリマスガ、要シマスルニ政府當局ノ見マスル所デハ、此時局ガ將來如何ニ進ムカハ知レマセヌガ、兎ニ角今日ノ此狀態ニ於テハ歐米ニ於テ取ッテ居リマス所ノ率、手段方法ヲ以テ其戰時利得稅ヲ我邦ニ適用スルト云フコトハ、餘ホド困難ナコトデアラウト思ヒマス、モウ少シ我邦ガ愈々深ク此戰鬪ニ這入ッテ來ルト云フヤウナコトガアリマスレバ別論デアリマスルガ、今日ノ狀態トシテハ左様ナ無理ナコトハ出來ナイト存ジテ居リマスノデ、大體ノ調ハ致シテ居リマスガ、兎ニ角茲ニドレダケ取ルト云フコトヲ明言イタスコトハ甚ダ實ハ苦シイ次第デゴザイマスノデ、左ザイマスカラ、私ガ申上ゲマスルヨリカ却ッテ參考書等ト致シテ皆サンニ差上ゲタ方ガ宣カラウト思ヒマスカラ、ドウカ左様御了承ヲ願ヒマス

○男爵尾崎三良君 大藏大臣ノ御説明デ大半分リマシタ、定メテ今ドレダケト云フ御見込ガアッテモ御明言ヲナサルコトハムヅカシイデアリマセウカラ、ソレハ強ヒテ申シマセヌガ、唯今御話ニナリマシタ歐米各國デヤッテ居ル方法竝ニ其所得ノ高ハ御取調ニナッテ居ルサウデアリマスカラ、ドウカソレヲ速ニ御廻シニナルコトヲ希望イタシマス

〔伯爵柳澤保惠君演壇ニ登ル〕

○伯爵柳澤保惠君 諸君、本員ヲシテ若シ豫算委員タラシメバ、今日此演壇ニ登ルコトハ避ケルノデアリマス、併ナガラ私ノ質問ハ此時機ニアラザレバ出ス時機ガゴザイマセヌト考ヘマシタノデ、已ムヲ得ズ茲ニ臨ンダ譯デアリマス、事ハ各省ニ瓦リマスノデ、或ハ諸君ノ御目カラ見タラ細カイコトデアルカト云フ御考ノ方モアラウト考ヘテ居リマス、併ナガラ其邊ハ何卒御同情ヲ以テ暫時御清聽ヲ願ヒタイノデアリマス、私ノ質問ノ一二ハ既ニ石黒男爵竝ニ尾崎男爵ニ依ツテ開陳セラレマシタカラ、私ハ其事ハ茲ニ避ケマスノデ

アリマス、唯私ハ第一ニ政府ニ伺ヒタイノハ、矢張リ統計ニ關スルコトガ一ツデアリマス、國勢調査ノコトハ申シマセヌ、大正五年五月十日ニ於キマシン訓示デアリマシテ、今迄曾テ見ザル所ノ訓令デゴザイマシタ、併ナガラ前内閣ハ此訓示ヲ出シタニ拘ラズ、單ニ壯大ナル言ヒ觸ラシヲシタ位デアリマシテ、其事實ヲ更ニ見ナイノデアリマス、私ハ暫クノ間勘辨ヲ致シテ様子ヲ見テ居リマシタケレドモ、其影響ハ多少地方ニ及シダヤウニ存ジテ居リマス、地方廳ニ於テハ多少此訓示ニ基キマシテ形式的ニソレ／＼統計事業改良ヲシテカニ考ヘテ居リマス、併ナガラソレガ果シテ此内閣ノ訓令ニ對シマシテドノ位ナ效果ガアッタカ否ヤハ私ドモ今日尙ホ疑フノデアリマス、現内閣ハ此大正五年五月十日ノ訓令ニ對シテ如何ナル御考ヲ有ツテ居ラルノデゴザイマスカ、單ニ國勢調査ノ實行ニ付キマシテハ、唯今總理大臣ガ言明サレタ如ク、或ハ近キ將來ニ於テ何カ形ニ於テ現ハレルコトト確信シテ居リマスケレドモ、此訓令ニ依ル所ノ一般ノ統計事業ニ對シテハ如何ナモノデアリマスカ、同様ノ意見ヲ持タレマシテ、單ニ大言壯語ニアラズシテ、實質的ニ何カノ事實デ現ハルルコトニナルノデアリマセウカラ、私ハ之ニ付テ如何ナル御抱負ガアルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ次ニ申シマスノハ、是ハ敢テ内閣總理大臣ニ伺フノデアリマセヌ、ドナタデモ宜イノデアリマス、少シ細カイコトデアリマス、此度ノ豫算ノ第四號ノ歲出臨時部、臨時教育調查會議諸費ト云フモノヲ計上シテ居ル、二萬圓、僅デアル、是ハ内閣ニ屬スルコト心得テ居リマスガ、是ハ如何ナモノデアリマスカ、之ヲ一ツ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ大藏省ノ所管歲出臨時部ニ於キマシテ、海外駐劄財務官増置ニ關スル經費ガ計上シテゴザイマス、今日デハ諸君御承知ノ如ク英國ニ於キマシテハ財務官ガ駐在サレマシテ、是ハ英國ト佛國トヲ兼ネテ居ル状態デアリマス、此度ノ増置ニ依リマスト、支那ト露國ト米國ニ海外駐在財務官ヲ置クノデアリマス、其經費ハ僅ニ月平均デ一萬四千五百圓位デアリマス、即チ九箇月デ十三萬ナニガシデアリマスカラ、此三箇國ノ財務官ニ對シマシテ僅カ月平均一萬四千五百圓ト云フノハ甚ダ輕少ナル計上ト思ハレマス、英國アタリノ海外財務官ノ費用ハ殆ド之ニ向ツテハ餘ホドノ違ヒデアリマシテ、

慥ニ月一萬圓カニ萬圓位デアリマシテ、餘リ此度ノ御支出ガ縮少ノ意味ヲ以テノ財務官ノ増費デアリマスカラ、是ハ果シテ是ダケデ所要ノ效能ガアルコトデゴザイマスカ、當局者ノ期待セラル所ノ有力ナモノデアリマセウカ、甚ダ行政整理私ハ疑フノデアリマス、之ニ付キマシテ御答辯ヲ得タイノデアリマス、陸軍省ノ方ニ付テ私ハ伺ヒタ、陸軍省ノ方ニ航空隊設備費ノ追加ガ出テ居リマス、是ハ總額ガ百三十二萬圓デアリマシテ、是ハ既定ノ繼續費ノ追加、大正六年度以後六箇年ノ繼續費デ、今回出テ居ルノハ十八萬餘圓デアリマス、諸君御承知ノ如ク我邦ノ航空術ノ最モ幼稚ナルコトハ夙ニ私ハ遺憾トシテ居ル所デアリマス、風ガ吹ケバ忽ニ破壊シ、忽ニ人ヲ失フト云フ今日ノ最モ幼稚ナル所ノ狀態ニ於テ當局者ハ無論御満足デハナイト考ヘテ居リマス、然ルニ斯ノ如キ所ノ設備ヲ追々設ケラレマシテ、段々ト獎勵セラルコトト思ヒマスルガ、之ヲ完成シマシタ曉ニ於テハ果シテ彼ノ外國ニ於ケル所ノ航空術並ニ飛行者ノ技術ニ劣ラザルダケノ御確信ガアルヤ否ヤ、之ヲ以テ六年後ニ至シテ矢張リ向ウノ六年後ト同ジ狀態ニ進ムカ否ヤト云フコトヲ甚ダ懸念シテ居ルノデアリマスカラ、之ニ對シテ何卒満足スルダケノ御答辯ヲ得タイノデアリマス、ソレカラ司法省所管ニ付キマシテ裁判所ノ費用ガ四十四萬ナニガシデアリマス、是ハ御承知ノ如クニ大正二年行政整理ノ爲ニ地方裁判所支部ノ權限ヲ縮小サレマシタ、所ガ既ニ縮小サレマシタケレドモ、地方民ハ非常ニ不便ヲ感シ各種ノ請願トナリ、復舊ノ陳情トナッテ、遂ニ當局者ハ其中デノ最モ急ナルモノニ二十六箇所ノ權限ヲ擴張イタシマシテ、此度ノ御提案デアリマス、尙ホ大正二年法律第八號ヲ以テ百二十八箇所ノ區裁判所ヲ廢サレ急ヲ要スル四十六箇所ト、之ニ關スル監獄十五箇所ヲ設置スルト云フコトデタノデアリマス、是モ行政整理ノ結果デアリマスガ、是モ矢張リ不便ヲ感ズルト云フ不平ガ起ツタ爲ニ今般此復活ヲスルノデアリマス、是ハ本年度ハ最モ大臣ト考ヘテ居リマスガ、此案ヲ出サレタ時ニ議員ノ有志ノ方ハ甚ダ危ブマレマシタ、是ハ行政整理ハ已ムヲ得ヌカモ知レヌケレドモ、單ニ行政整理ト云フ聲ニ應ズルダケデ、實際入用デアルモノモ要ラヌヤウニ考ヘテ形式的ニ廢止シテ、如何ニモ行政整理ノヤウニ見エルケレドモ、是ハ又數年ナラズシテ復活ノコトガ起リハシナイカ、ソレナラバ考ヘタガ宜カラウト云フヤウニ私共ハ記憶シテ居リマス、今日果シテ其言偽リナラズシテ斯様ナ復活トナッタ

ノデアリマス、シテ見レバ段々年ガ經チマシタナラバ矢張リ行政整理前ノ状態ニ反ルノミナラズ、ソレ以上増設ノコトガアリハシナイカ、甚ダ行政整理ノ結果トシテ一時喝采ヲ博シタカ知ラヌケレドモ、事實不便ナモノハ今日再興ヲ見ルヤウナ狀態デアリマス、此狀態ヲ以テ進ムナラバ又幾クナラズシテ以上地方裁判所支部ノ權限ヲ擴張セラレルコトガアリマセウカ、又區裁判所ノ増置ヲ見ルノデアリマセウカ、將來トウデアルカト云フコトヲ伺ヒタ、ソレカラ農商務省ノ所管ニ付テ、歲出臨時部ニ産業獎勵費二十萬餘圓ヲ計上セラレテ居リマス、此中ニ副業獎勵ニ關スル經費ガ二萬二千若干計上セラレテ居リマス、私ハ農商務大臣ニ伺ヒタノハ、殊ニ農商務大臣ニ於カレマシテハ嘗テ遞信次官デアラレタ時分ニ統計ノ必要ヲ最モ唱導セラレマシテ、斯ノ如キ地味ナルコトハ誠ニ世間ノ同情ヲ引カヌモノデハアルケレドモ、實際是ハ必要ナモノデアルト云フコトヲ私ハ築地精養軒ニ於テ次官トシテノ言ヲ承ハリ、今日尙ホ記憶ニ存シテ居ルノデアリマス、然ルニ此副業獎勵ニ關スル經費ヲ御出シニナッテ居リマスガ、全國ノ職業狀態ヲ果シテ御存ジデアルカ、人民ノ職業狀態ハドウナッテ居ルカ、本業ノ住民ハ何人居ルノデアルカ、副業ヲヤッテ居ル者ハ何人アルカ、所謂職業統計ニ付テ十分ナル御材料ガアツテ後ニ副業ヲ獎勵スベキモノトシテ御出シニナッタノデアリマスルカ、私ハ甚ダ之ニ付テ疑フノデアリマス、政府ニ於キマスル所ノ各種ノ統計ノ中農商務省ノ統計程甚ダ杜撰ナモノハナイ、農商務統計ハ實ニ杜撰ナモノデアリマス、歷代ノ農商務大臣ハ賢明ナル、我ミノ尊崇スベキ方ガ出ラレテ居ルニ拘ラズ、農商務統計ノ改善ヲ計ラレタ者ハナイノデアリマス、而シテ行政整理ノ場合ニ於キマシテ僅カナ費用ノ農商務省ノ統計官ヲ削ラレ、又ニ縮小サレルヤウナ場合デアリマス、實ニ今日ハ微々タルモノデアリマス、然ルニ其農商務統計ニ載セル所ノ事項ハ多々アリマシテ、殊ニ今日産業獎勵ニ對シテ臨時產業調査局等ヲ御設置ニナル必要ナル材料ガ都テ要ルノデアリマス、其數字ハ農商務統計ト云フ本ニ出テ居リマスケレドモ、是ハ矢張リ私ノ謂フ偽の統計ニ偽リノ統計デアリマス、例ヘバ牛馬羊豚ノ如キモノニ至ツテハ年末ノ現在數ト、其年末ノ現在數ヨリ次ノ年ニ於ケル所ノ異動ヲ引イタモノト兩方出テ居ルニ拘ラズ、年末ノ現在數ナルモノハ毎年二様ノ數ニ出テ居ルノデアリマス、是ハ表ヲ御覽ニナレバ解ルノデアリマス、馬政局ニ於ケル馬ノ數ト較べテモ違ツテ居ル、是ハ牛馬羊豚ノ類デアリマスガ、實ニ杜撰極ツテ居ル所ノ農

商務統計ヲ持タレル農商務省ガ此度産業獎勵ノ爲ニ副業ヲ獎勵サレルト云フコトデアリマスガ、果シテ正確ノ材料ヲ持タナイ所ノ農商務省ガ斯様ナル所ノ獎勵ヲナスツモ是ガ有用ナモノデアルカ、是ハ甚ダ經費ハ少イノデアリマスケレドモ、其效果ヲ疑フノデアリマス、デ之ニ付テ御答辯ヲ得タイト考ヘテ居リマス、最後ニ私ハ一般ノ質問トシテ伺ヒタイノハ大正四年六月九日ニ本院ハ道得維持ニ關スル建議案ヲ可決シタノデアリマス、是ハ全會一致テアッタカドウカハ私ハ記憶イタシマセヌガ、要スルニ大多數ノ御贊同ヲ得タノデアリマス、現内閣ニ居ラレル所ノ議員ノ方モ當時ノ御贊成者ト私ハ考ヘテ居リマス、是ハドウ云フ必要ガアッテ建議案ヲ可決セラレタカ、私ハ茲ニ諸君ニ向ツテ當時ノ建議案ノ内容ヲ説明スルダケノ時間ヲ有チマセヌ、又説明イタス必要ハナイト考ヘマス、其當時ノ建議案ノ出タ趣旨ヲ御覽ニナリマシタ所ノ現内閣ハ、果シテ此建議ノ趣意ニ對シテ現今如何ニ御考ヘニナリマスルノデアリマスカ、或ハ私ハ此建議案ノ内容ニ付テ御考ニナツタナラバ、多少我ノ面前ニ於テ陳謝スベキコトガアリハシナイカト云フコトヲ考ヘテ居リマス、私ハ是レ以上内容ニ向ツテ説明スルコトハ必要デナイト考ヘマス、私ハ相當ノ根據アル所ノ材料ヲ以テ申スノデアリマス、若シ諸君ニ於テ何デアルカ、何事ヲ云フノデアルカト云フ方ガアリマスレバ多少事實ヲ申シマシテモ差支ハゴザイマセヌガ、私ハ是ハ申サヌデモ多分御了解ニナルコト考ヘマス、又内閣諸公ニ於テモ私ノ意ノ在ル所ハ御存ジト考ヘテ居リマス、之ニ付テ當局者ハ此建議案ヲ如何ニ考ヘテ居ラレルカト云フコトヲ私ハ伺ヒタイノデアリマス

〔國務大臣大島健一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(大島健一君) 柳澤伯ノ御質問ノ中ニ航空大隊増設ニ關スル件ガゴザイマシタ、御尋ノ順序デハ途中デゴザイマシタガ先ヅ是カラ御答イタシマス、柳澤伯ノ御覽ニナツテ居ルガ如ク目今歐洲戰場ニ於ケル航空機ノ進歩ハ利目シテ見ルベキモノガアリマス、我軍ニ於ケル航空機モ是非少クモ之ニ匹敵シ得ル程度ニ進マナケレバナリマセヌノデ折角其經營ハ致シテ居リマス、茲ニ出シマシタ航空大隊ハ操縦將校ノ教育、教育サレタル操縦將校ノ復習等ヲ致スノガ主デアリマス、漸次之ヲ増員イタシマシテ、數倍ノモノニ致シテ、軍ノ飛行機隊トシテ屬スルノデアリマス、第一大隊ハ御承知ノ如ク一昨年來増設イタシマシタ、今回ノハ第二ノ大隊デゴザイマス、二ノ地方ニ設ケル積リ

デアリマス、唯今我軍ノ航空事業ハ漸次整備ノ緒ニ就キツツアル狀況デゴザイマス、是デマダ完成スルモノデハゴザイマセヌ、順次歩ヲ進メテ參ルノデゴザイマス、航空機ノ研究進歩ノ構造等ノコトハ飛行機研究會デ致シテ居ル、尙ホソレノ愈々實地ニ應用シ得ルヤ否ヤト云フ如キ、乗リ試ミル等ノコトハ飛行機研究會デ致シテ居リマシテ、此隊ノ方デハ全ク其成ツタモノニ依リマシテ教育復習ヲ致シテ行ク積リデゴザイマス、前申ス、唯今ノ處デハ研究會ノ研究改良構造等ニ依リマシテ、ソレニ依ツテ此隊ノ教育ヲ進メ復習ヲ致シテ行クノデゴザイマス、之ヲ以テ御答ト致シマス

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(勝田主計君) 唯今大藏省所管ノ財務官ニ關係イタシマス所ノ御尋ガゴザイマシタ、是ハ既ニ御話ニモナリマシタ如クニ現今露西亞ト紐育ニハ實際人ガ出テ居リマス、申スマデモナク露西亞ハ既ニ我國ガ一億三千五百萬圓カラノ債權ヲ持ツテ居ル、非常ニ經濟狀態ヲ研究スル必要ガゴザイマスノデ人ヲ出シテ居リマス、ソレカラ紐育ノ方モ御承知ノ通リノ金融狀態デゴザイマスカラ、是亦人ヲ出シテ居リマス、是等ノモノヲ先ヅ常置ノモノニ致シマスルト云フコトト、ソレカラ一面ハ北京デゴザイマスガ、北京ガ色々借款問題ナドガ澤山アリマス、然ルニ各會社或ハ個人等ガ銘々勝手ニ色々ヤッテ居リマスノデ、是等ノ統一ガ取レマセヌノデ、茲ニドウシテモ一人、人ヲ置カヌナラヌト云フコトカラ置クヤウナ豫算ヲ提出イタシマシタ、露都及紐育ノモノハ今日ハ先ヅ奏任官ノ程度ノモノデ宜カラウ、ソレカラ支那ハ勅任官程度ノモノ、斯様ナ意味ヲ以チマシテ經費ヲ計上イタシテ居リマス、是デ満足デアルカト云フヤウナコトデアリマスト將來ハ尙ホ大ニ經費ヲ増シテ行カヌナラヌコトモアラウト思ヒマスガ、今日ノ所ト致シマシテハ左様ニ機關バカリ龍大ニ致シマシタ所デ、第一人間ヲ得ルコトガ困難デアリマス、又政府ト致シマシテモ成ルベク僅少ナル經費ヲ以テ出來得ルダケノ効果ヲ得ルト云フコトガ、是レ最モ努メナケレバナラヌコトデアリマスカラ、一見甚ダ僅少ナ經費デハゴザイマスルガ、先ヅ是デ出來ルダケヤッテ行キタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス次第デアリマスカラ、ドウカ左様ニ御了承ヲ願ツテ置キマス

〔國務大臣岡田良平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(岡田良平君) 唯今御尋ノアリマシタ中ニ臨時教育會議ノコトニ付キマシテ私カラ御答ヲ致シマス、御承知ノ通リニ數年前貴族院カラ教育調

查ノコトニ付テ御建議が出マシタ、其御建議ニ基キマシテ教育調査會ヲ起シ

タノデゴザイマス、爾來數年間此調査會ノ會員ハ最モ勉強努力イタシマシテ

教育上ニ付テ諸般ノ調査ヲ致シタノデゴザイマス、又最モ鄭重ニ討論研究ヲ

重ネタノデゴザイマス、其結果ハ龐大ナル調査會トモナツテ居ル次第アリ

マス、併ナガラ遺憾ナガラ唯今マデ多年ノ問題トナツテ居リマスル事柄、又

貴族院ニ於テ教育調査ノ必要ヲ御認メニナツタ其原因ニナツテ居リマス所ノ問

題ノ解決ト云フコトハ出來ズニ居リマスノデ、將來ニ向ツテハ何トカ此調査會

ノ組織ヲ改メマシテ、諸般ノ問題ノ解決ニ努メナケレバナラムト云フ場合ニ

ナツテ居リマスノデゴザイマス、然ルニ恰モ歐洲ニ大戰ガ起リマシテ、其大

戰ノ跡ヲ顧ミテ、後ヲ想像シテ見マスト、必ズ此教育上ニ付テモ諸般改善ヲ

要スルコトガアルト認メラレルノデアリマス、從來ノ問題ヲ解決シ、併セテ

將來ノ施設ヲスルト云フ爲ニハ今日マデノ組織ヲ一變イタシマシテ、尙ホ會

員ノ數ヲモ増加イタシマシテ、多方面ノ有識者ヲ此會ニ網羅シテ諸般ノ問題

ヲ研究調査シ、解決ヲ圖ルト云フコトノ必要ヲ感ジマシタノデ、今回ハ從前

ノ教育調査會ト云フモノヲ廢スルコトニ致シマシテ、新タニ此内閣ノ所屬ト

致シマシテ臨時教育會議ト云フモノヲ設クルコトニ計畫ヲ立テマシタ次第デ

アリマス

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 柳澤伯ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、御質問ノ趣意ハ前年私ガ遞信省ニ居リマシタ頃ニ統計ノ必要ヲ唱ヘタコトガアル、是ハ全ク仰セノ通リ先年遞信次官トシテ水力電氣ノ調査ニ從事イタシテ居リマシタ際ニ、確ニ總テノ事物ハ確實ナル統計ヲ根據ニ致サナケレバナラムト云フコトヲ申シマシタニ相違ナインデアリマス、私ハ今日尙ホ總テノ事柄ハ確實ナ統計ヲ基礎ニ致サナケレバナラムト云フコトヲ固ク信ジテ居リマス、今回農商務省所管ノ中ニ產業獎勵費ノ中、殊ニ農家ノ副業獎勵ニ關スル經費ノ要求ヲ致シマシタ、是ハ今日ノ場合ニ農村農民ノ振興ノ爲ニハ副業ノ獎勵ハ誠ニ必要ト存ジテ居ルノデアリマス、唯此事ヲ實行イタシマスニ付キマシテハ、能ク地方地方ノ事情ニ適切ナ途ヲ講ジナケレバナラヌノデアリマス、今年ノ要求ハ其端緒デアリマス、將來之ニ付キマシテハ成ルベク適切ナ方法ヲ執リニ付キマシテハ固ヨリ各種ノ統計ヲ必要ト致ス次第デアリマス、是等ノ點ニ

付キマシテモ十分心ヲ用ヒル考ヘデゴザイマス

〔國務大臣松室致君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松室致君) 區裁判所復活ノコトニ付テ御答辭ヲ致シマス、仰セノ如ク區裁判所ハ大正二年ノ行政整理ノ當時百二十八箇所ト云フモノヲ廢シ

マシタ、之ヲ今日復活スルト云フノハ誠ニ先見ノ明ガナイノデハナイカト云

フ仰セニ對シマシテハ、誠ニドウモ汗顏ノ至ニ堪ヘナイ次第アリマス、併

ナガラ當時ノ當局者ガ茲ニ至リマシタ已ムヲ得ナイ事情ヲ茲ニ打明ケテ御話ヲ致シテ置キマスルガ、當時一般ノ形勢ニ於テデス、行政整理ト云フモノガ

甚ダ必要デアル、行政整理ヲスルニハ亘ニ讓リ合ツテ居ツテハ到底出來ナイノ

デアルカラ、各省ニ豫算ノ何割ヲ節減セヨ、斯ウ云フマア天引ノヤウナコトヲヤッタノデアリマス、ソコデ司法省ニ於キマシテハ私モ矢張リ其當時裁判所

ニ居リマシテ當局ノ相談ヲ受ケマシタ一人デアリマスガ、唯今仰セノ如ク裁

判所ニハ節減ノ餘地ハナイト云フ考ヲ有ツテ居ツタノデアリマシタ以上ハ、裁判所ノ數ヲ減ラシテ、

サウシテ人ヲ減ズルヨリ外ニ節減ノ途ハアリマセヌノデ、他ノ地方裁判所ト

カ控訴院トカ云フモノハ到底節減ノ餘地ガアリマセヌカラ、先づ區裁判所ヲ

減ジマシテ、サウシテ其金額ヲ合ハシタト云フ次第アリマスノデアリマス、

又一方ニハ逆モ節減ノ餘地ハナイト思ヒマスケレドモ實行シテ見ナイコトハ

果シテ節減ノ餘地ガナイカドウカト云フコトヲ確信スルコトモ出來マセヌノ

デアリマシタ、唯見込ダケデアリマス、其後此區裁判所ノ廢止ト云フコトハ

遂ニ實行イタサレタノデアリマス、併シ此百二十八箇所ト云フノハ現在獨立

ヲシテ働イテ居ル裁判所ヲ總テ廢シタト云フ譯デアリマセヌノデ、百二十箇所ノ中九十五箇所バカリハ獨立ノ働キヲシテ居リマシタノデアリマスル

ガ、其他ハ他ノ裁判所ガ出張シテ其事務ヲ取扱フトカ、一時他ノ裁判所ニ其

事務ヲ併セテ取扱フトカ云フヤウナ有様デアリマシテ、實ハ種々ノ事情カラ

シテ裁判所ノ名稱ハアツテモ其實ガナイヤウナ有様デアリマシタノデアリマ

ス、ソコデ實際廢シタノハ九十五箇所ト云ウテ宜イノデアリマス、デ此度ハ

人民ノ不便不利ヲ感ズルト云フ訴ト、ソレカラ當局者ニ於キマシテモ矢張リ

不便不利ヲ感ズルト云フ所カラ致シマシテ、財政ノ許ス限り最モ急ヲ要スル

モノ四十六箇所ヲ擇ビマシテ、サウシテ此復舊ト云フコトヲ提出イタシマシ

タノデアリマス、デ今後尙ホ増設ノ必要アリヤ否ヤト云フ御問ヒニ對シマシテハ、尙ホアリト云フ御答ヲ致シマスノデアリマス、ドノ位ノ程度マデアルカト申シマスレバ、今日ノ有様デハ九十五箇所ニ稍近イ所マデ回復スル必要ガアルダラウト考ヘマス、併ナガラデス、九十五箇所全部復舊スルノ必要ガアルカト申シマスレバソレマデハナイト思ヒマス、ソレデ何箇所ト云フコトハ唯今此處デ調査ガ整ウテ居リマセヌカラ、明言ヲ致ス譯ニ參リマセヌガ、先ヅ九十箇所内外ト云フ位ナコトヲ申上ゲテ置クコトハ出來ルダラウト思ヒマス、是ハ當局者ニ於テハ矢張リ殆ド他ト同様ニ必要ヲ感ジテ居リマスルカラ、若シ政府ノ財政ガ許シマスルナラバ、成ルベク早ク増設ヲシタイ、即チ復舊ヲシタイト云フ考ヲ有ツテ居ル次第デアリマス、ソレダケ御答ヘ申シマス

〔國務大臣伯爵寺内正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵寺内正毅君) 柳澤伯ノ御質問ノ中ニ一箇所残ツテ居リマスカラ此事ニ付テ御答ヲ致シテ置キマス、第一ハ大正五年ノ五月前内閣ニ於キマシテ訓令ヲ出シマシタ、此訓令ノ趣旨ヲ實行スルヤ否ヤト云フコトデアリマス、此趣旨ハ統計ノ必要ナルコトヲ示シ、且ツ統計ヲシテ正確ニ實行シテ誤リナカラシムルコトニ注意ヲナセト云フコトデアリマス、至極尤モナ趣旨デアリマス、現内閣ニ於テモ此趣旨ヲ以テ統計關係ノ總テノ關係者ヲ督勵シテ實行サセル積リデアリマス、是ハ元來此統計ノコトタル官私疏通シ中央ヨリ地方ノ細カイ所マデ一定ノ精神ヲ以テ精確ニヤルト云フコトガ出來ナケレバナラヌモノデアリマス、其趣旨ニ於テ了解サセル積リデアリマス、尙ホ實行ノ上ニ改善ヲナシタイト思ツテ居リマス、サウ御承知ヲ願ヒマス、其外最後ノ御尋デゴザイマス、道徳維持ト云フコトノ御尋デゴザイマス、政府ヨリ道徳維持ニ付テハ專心ニ注意ヲ致サナケレバナラヌ、ガ是ハ全ク道徳ノ維持ト云フコトハ單ニ政治方面ノミデアリマセヌ、教育關係モアリマセウシ、宗教ノ關係モアリマセウ、又上流ノ社會、有識社會、是等ノ人ガ皆相共ニ道徳ノ涵養ニ努メ、道徳ヲシテ一大威力アラシムルト云フコトニ努メナケレバナラヌ、其點ニ於テハ政府ハ有ラム限リノ力ヲ盡シテ往カネペナラヌト思ヒマス、今日ハ此邊ニ止メテ置キマス

〔服部一三君演壇ニ登ル〕

○服部一三君 先キニ大藏大臣ヨリ縷々豫算全體ノコトニ付キ、又此度御提

出ニナリマシタ所ノ法律ニ付キ御説明ガアリマシタ、ノミナラズ現在ノ經濟狀態ノコトニ付キマシテモ縷々御話ガアリマシタガ、船舶不足ニ付テ一般ガ非常ニ苦シンド居リマスル、ソレヲ救濟スル等ノコトニ付キマシテハ何等御話ヲ聽クコトヲ得マセナンダノハ寔ニ遺憾ニ存ジマス、ソレデ此事ニ付テ當局大臣ニ御尋ラシタウゴザイマス、此船舶ガ不足シテ居リマスルガ爲ニ各社ニ於テ貨物ノ停滯シテ居リマスルコトト云フモノハ實ニ夥シイモノデアル、此停滯ト云フモノハ啻ニ海上ノミナラズ、陸上ノ運輸マデモ影響ヲ及ボシテ居ルノデアリマス、是ハ皆様御承知ノ通り、從來船舶ニ依テ運輸サレ居タ所ノ貨物ガ、般船ガ少クナリ又運賃ガ高クナッタガ爲ニ、近來陸上ヲ運ブト云フコトニナツテ來タノデ、此遠距離ノ從來ナキ所ノ貨物ノ運輸ノ爲ニハ、近距離ノ貨物其他ニ付テハ非常ナ阻害ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、之ニ付テハ當局者ハ非常ノ御骨折デ、殊ニ鐵道院ナドニ於キマシテハ日夜種々ナ方法ヲ御講ジニナツテ居ルト云フコトモ承知シテ居リマスガ、船舶ノ方ニ付テハ如何ナル方法ヲ御講ジニナツテ居ルノカ、此船舶ノ少キ爲ニハ、啻ニ貿易業者ガ物品ヲ海外ニ輸出スルコトガ出來ヌノミナラズ、從ツテ生産者ノ困ルコトモ勿論デアリマス、一般ニ此物品ヲ使用スル所ノ者ガ物品ガ早ク届カヌガ爲ニ非常ナ困難ヲ感ジテ居ル、又運賃ノ爲ニ物品ガ高クナルノニ苦シニ居ルノデアリマス、サウシテ翻ツテ此船舶ノ有様ハドウデアルカト云フト、昨年中ニハ日本ノ船舶ニシテ外國人ニ傭ハレタ所ノ船ガ確カ七十四艘ト記憶シテ居リマス、又外國人ニ賣ラレタモノガ二十六七艘、又本年ニ至リマシテハ是ガ激増イタシマシテ、一月、二月、三月、此三箇月ノ中ニ外國人ニ賣渡シタ所ノ船ガ十六艘、又今日各造船所デ造り立テ居ル所ノ船デ是ガ外國人ニ賣ル目的デ出來テ居ルカモ分リマセヌ、斯ノ如ク外國人ノ爲ニ働ク所ノ船ハ非常ニ澤山デ存ジマス、唯本年ニナツテカラノ外國人ニ傭ハル所ノ契約ガドウモ、ハキト分リマセヌガ、確カ五十五艘位ニナツテ居ルカト本員ハ存ジテ居リマス、或ハ違ツテ居ルカモ分リマセヌ、斯ノ如ク外國人ノ爲ニ働ク所ノ船ハ非常ニ澤山デアル、サウシテ内國ノ者ハ船ガ足ラヌ爲ニ寔ニ苦シンドアリマスガ、之ニ對シ衆議院ニ於テハ、遞信大臣ガ一方ノ事業者ヲ助ケル爲ニ一方ノ事業者ニ迷惑ヲ掛ケル譯ニハ往カナイダカラ此儘ニシテ置クト云フ御答デアッタヤウニ存ジマスルガ、一方ノ事業者ノミデハナイ、需用者モ皆迷惑シテ居ルノデアリマスルガ、之ニ對シテ當局者ニ於テハ、或ハ外國人ニ船ヲ貸ストカ

或ハ賣ルトカ云フヤウナコトヲ嚴重ニ御取締ニナル所ノ御考ハアリマセヌ
カ、是ガ一ツ、今聯合國ノ總テノ有様ヲ見マスノニ、ドノ國モ己レノ國ノ船
舶ヲ他國ニ賣リ又ハ貸スト云フコトニ付テハ嚴重ナル取締ヲシテ居ルヤウデ
アリマス、確カ日本バカリガ其事ニ付テハ何事モシテ居ラヌヤウデアル、之
ニ付テモ、遞信大臣ノ衆議院ニ於テノ御答デハ、マダサウ云フ時機ニナッテ居
ラヌト云フ御答デヤッタカト存ジテ居リマス、ガ我國ハ現ニ戰時狀態ニ在ル、
我ガ忠勇ナル海軍軍人ハ地中海デ戰ヒツツアルノデアリマス、而シテ世界列
強ノ有様ヲ見マシテモ、實ニ此戰爭ガ起ツテ以來ト云フモノハ、色々ナ變動ガ
起ツテ居リマス、ガ其變動タルヤ、殆ド豫期サレスヤウナ變動ガ突然起ツテ來
ルコトガ澤山アル、其最モ著シイモノハ、昨日マデハ堂々タル威嚴アル帝國
モ忽チニ潰レテ、民主制ニ變ツテ仕舞ツテ、今日ハ軟風ガ吹キ廻シテ居ルト云
フヤウナ所モアル、其他此戰時以來ノ列強ノ有様ハ誠ニ變遷極リナリモノデ
アリマスルガ、サウ云フ時ニ當ツテハ、此豫テノ準備ト云フコトガ必要デアリ
マス、ソレハ申スマデモナイ、豫テノ準備ト云フコトハ必要ニ違ヒナイ、假
ニ此列強ノ種々ナル變遷ヨリシテ、我國ガ陸軍ノ兵ヲ他ニ輸送シナクテハナ
ラヌト云フヤウナ必要ガ起ツタ時分ニ、今日現ニ商賣ノ上デモ不足デ困ツテ居
ルト云フヤウナ船ノミデ、ソンナコトガ十分出來ルモノデアルカ、即チ海外
ニ貸付ケテアル船ヤ何ゾヲ用ヒル必要ハナイモノデアルカ、ソレデソレニ付
キマシテハ、サウ云フ豫テノ準備ト云フコトハ……總テノコトデヤアリマセ
ヌ、唯今ノハ運送船ノミニコトデアリマス、運送船ノミニ付テサウ云フ準備
ハ不必要デアルカ、又必要デアルケレドモガ、其事柄ガ起レバ直チニ出來ル
カラ、心配スルニハ及バヌト云フコトデアルカ、其點ニ付テモ御答ヲ願ヒタ
イ、モウ一ツアリマス、先刻ヨリ申ス如ク、實ニ列強ノ形勢變動極リナキ時
デアリマス故ニ、何時平和克復スルカモ知レナイガ、此平和克復シタ既ニハ、
必ズ列強ノ間ニハ商工業ノ競争ト云フコトガ起ルノハ、是ハ明カナ話デアル、
此競爭タルヤ、必ズ組織的ノモノニナリ、或ハ船舶業者ナラバ船舶業者ガ皆
共同シ、或ハ他ノ生産者トモ共同シ、政府モ之ニ力ヲ戮セテ、サウシテ他ニ
向ツテ競争スルト言フコトハ、是ハ各國ノ間ニ必ズ起ルデアラウト思ハレル、
其時ニ當ツテハ、最モ船ヲ澤山持ツテ、輸送力ノ力ガ他ニ優ツテ居ル所ノモノ
ガ、必ズ有利ノ位置ヲ占メルデアルト云フコトニ思ハレル、ガ是等ノ未來ノ
準備ニ付テハ今日ハ何モシテ置ク必要ハナイカ、或ハ是ガ必要トシテ、備船

或ハ外國へ賣ル船ヲ禁ズルト云フヤウナコトヲシナクテモ、確カニ後レハ取
ラヌト云フコトノ御確信ガアルノデアルカ、ソレ等ノコトニ付テ當局大臣ノ
御答ヲ願ヒマス

〔國務大臣男爵田健治郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵田健治郎君) 唯今服部君ヨリ、船腹不足ニ對スル處分ニ付
テ、縷々御質問ガゴザイマシタ、御答ヲ申上ゲマス、此船腹不足問題ハ、昨
年以來頗ル重要ナ問題ニナッテ居リマシテ、既ニ昨年前内閣ノ際ニモ、經濟調
査會ニ於テ反覆攻究セラレタ問題デアリマス、而シテ又現内閣成立以後、私
ハ當局大臣トシテ其點ニ向ツテハ終始深ク研究ヲシテ居ルノデアリマス、此
問題ヲ詳シク申上ゲヤウト思ヘバ、非常ナ長時間ヲ要スルコトニナリマスカ
ラ、今日ハ御尋ネノ大要ニ對シテ御答ヲ申上グルニ止メテ置キタイト存ジマ
ス、大體此船腹不足ノ時ニ於テハ、之ニ處置シテ、一番船腹ヲ補充スルノニ
シ易イコトハ即チ今御尋ネノ外國へ輸出ヲ禁ジ、若クハ貸渡ヲ禁ズルト云フ
コトハ確ニ船腹補充ノ一策ニ相違ゴザイマセヌ、即チ今日ノ所デ歐羅巴各交
戦國何レモ、敵味方トモ殆ド禁ゼザルナク、獨リ歐羅巴ニ止リマセヌ、南北
亞米利加マデモ、サウ云フコトニシテ居ルノガ多クゴザイマス有様デゴザイ
マス、之ヲ日本ニ於テ止メヌト云フコトハ一見甚ダ不思議ノ感ヲ御懷キニナ
ルコトハ御尤モデアリマス、去ナガラ歐羅巴ノ交戦國及中立國ガ早クカラシ
テ船ヲ輸出若クハ外國へ貸渡スコトヲ止メタノハ餘程理由ノアルコトデゴザ
イマス、免ニ角御尋ネノ中ノ此經濟問題ニ關スルモノニ非ズシテ、貿易トカ
輸出入トカ云フヤウナル事柄ニ非ズシテ、歐羅巴諸國ガ止メテ居ルノハ、即
チ直接ニ兵ヲ送リ軍需品ヲ輸送シ若クハ殆ド之ニ準ズベキ所ノ國ノ存亡若ク
ハ生存ニ關スルモノトシテ、軍事輸送ニ徵發スルノモ同ジャウナ性質ニ於テ
ヤツテ居ルノデ、殆ド貿易ナドニ使用サレル船ト申スモノハ英佛以南是等ノ國
ニ於テホンノ一小部分ニ止マルヤウナ譯デアリマシテ、本國ニ居ル船ハ全部
是等ノ間接直接ノ軍事上ニ使用セラレテ居ルト申シテモ宜イノデアリマス、
ソレデアルガ故ニ國家ノ生存問題トシテ此外國ニ貸渡シ賣渡シヲ止メルト云
フコトハ、是ハ免ルベカラザル當然ノ處置ト思ヒマス、然ルニ日本ハ同ジ交
戦國ニハ列シテ居リマスルケレドモ、事實ノ事態ハ全ク違フ、最初青島攻擊
ナドニ使ハレテ居ツタ如クデアリマスルガ、其後ハ殆ド陸海軍ニ於テ軍事輸送

及間接ニ軍事輸送ニ準ズベキヤウナルモノニ向ツテ、運送船ヲ借上ゲテ居ルコトハ殆ドナイト言ウテモ宜イ有様デアリマス、ソレデアリマスルカラ、日本ノ船舶ノ缺乏ハ國ノ生存問題即チ軍事及軍事ニ準ズベキヤウナルコトカラ起ツタ所ノ不足デハナイノデアル、商賣、貿易、經濟的ニ全ク不足ヲ感ジテ居ルノデアリマス、勿論經濟的ノ不足ヲ感ズルト云フコトモ、之ヲ救フコトハ非常ナ肝要ナコトダト存ジテ我ミハ其點ニ向ツテ心配シテ居ルノデアリマスルガ、併シ經濟的不足ト云フコトヲ軍事的不足、國ノ生存問題ニ關スルモノト同一視スルコトハ適當ニアラズト信シマス、詰リ經濟的不足ト云ヘバ生產者ガ物ヲ拵ヘテ賣ル、貿易業者ガソレヲ外國ニ輸出スル、即チ國ノ生產事業ノ發達ニ向ツテ大ナル貢獻ヲスルニ相違ゴザイマセヌケレドモ、元是商業ノコトニ違ハナイ、一方ニ船舶ヲ新造シ若シクハ蓄藏シ或ハ貸スト云フヤウナ海運業ヲヤルト云フコトモ、矢張リ生產事業ニ相違ナイノデアリマス、ソレデアリマスルカラ同ジク生產事業トシテ商業トシテ營ンデ居ルモノモ、今船ヲ絕對ニ賣ルコトヲ止メ、貸スコトヲ止メタナラバ、成程幾ラカ貿易業者、生産業者ノ船腹ガ豊カニナルカラ助カリモシマセウケレドモ、ソレト同時ニ造船業者、船舶業者ハ大ナル犠牲ヲ拂ハナケレバナラヌト云フ茲ニ事實ガアリマス、如何ニモ服部君ノ御説ノ如ク此外國へ日本船デ貨渡サレテ居ルモノハ、昨年アタリカラ始終毎月ノ統計ヲ調べテ見マシテモ、上タリ下タリシテ居リマスガ、少クトモ十三万噸、多イ時ニハ十八万噸位ナ船ガ外國ヘ貨渡サレテ居リマス、而シテ又外國ヘ賣タ船ト申スモノモ、既ニ十万噸バカリハ賣ラテ居リマセウシ、又將來賣ルデアラウト推測サレル船モ其通り、十万噸以上モット殖エテ居ルヤウデアリマス、外國カラ注文ヲ受ケタヤウナモノヲ合スレバ殊ド二十万噸ニモナリサウデアリマス、併ナガラ是ハ多少又考慮シナクチヤナラヌノハ、第一外國ヘ賣ルコトヲ止メルト云フコトニナッタナラバ、今ノ造船所ト云フモノノ發達ハ全ク止シマフト思ヒマス、戰前ノ十年間ニ製造シタ平均數ガ三万五千噸位ナモノデアリマス、一箇年、ソレガ今日デハ三十分噸以上位ニナッテ居ルト云フコトハ、畢竟造リサヘスレバ金ノ這入ル如タニ、賣テ賣レル事實ガアリマスル故ニ、造船家ハ爲シ得ル限り其規模ヲ擴張シ非常ナ勢ヲ以テ造船ヲ努メテ居ルノデ、即チ「ストックボート」ナドハ誰モ注文ヲシナイモノヲズン／＼造ツテ居リマスノデ、アノ通リ造船ガ非常ナ勢デ増加シマシタシ、又是カラモ餘程増加スルデアラウト思ツテ居リマス、然ル

ニ是ガ若シ外國ヘ賣ルコトハナラヌトナツタナラバ、恐ラク半分モ造ルコトハアリマスマイ、半分モ三分ノ一モアリマスマイ、ト云フモノハ現ニ日本人ノ注文ニシテ日本人ガ使フベク注文シテ居ル船ト云フモノハ極メテ少イノデ、タ所ノ不足デハナイノデアル、多クハ矢張リ外國人ノ注文若クハ外國人ニ賣ルベク注文シテ居ルノガ多イ所ノデアリマス、之ヲ若シ止メテ居ツタナラバ殆ドガ、併シ經濟的不足ト云フコトヲ軍事的不足、國ノ生存問題ニ關スルモノト同一視スルコトハ適當ニアラズト信シマス、詰リ經濟的不足ト云ヘバ生產者ガ物ヲ拵ヘテ賣ル、貿易業者ガソレヲ外國ニ輸出スル、即チ國ノ生產事業ノ發達ニ向ツテ大ナル貢獻ヲスルニ相違ゴザイマセヌケレドモ、此貨シテ居ル賣ツテ居ル船ガ唯漫然ト中立國ヤラ若クハ外國ノ商業上ニ使ハレテ居ルモノトスルト、我ミハ餘程考ヘナクテハナリマセヌ、所ガ今現ニ十八万噸程ノ貨シテ居ル船ト申スモノハ、餘リ詳シク申上げ兼ネマスルケレドモ、此貨シテ居ル賣ツテ居ル船ガ唯漫然ト造船能力ハ戰前ニ違ハヌヤウナ有様ニナルニ相違ナカラウト思フ、殊ニ是ハ多クハ矢張リ外國人ニ賣ルベク注文シテ居ル船ト云フモノハ極メテ少イノデ、ヲ見マシテモ、其事態ハ分ルノデアリマス、之ヲ若シ止メテ居ツタナラバ殆ド其實ハ我ガ聯合與國ノ軍事上若クハ間接ニ軍需品ナドヲ送ル所ノモノニ殆ド全部ト云ウテ宜イ程ニ從事シテ居リマス、直接間接、一小部分ハサウデナインノモアリマセウガ、大多數ハ皆聯合國ノ爲ニ戰時ノ輸送ニ從事シテ居リマス、而シテ又今新造船ヲ賣ツタ、若クハ今將ニ新造船デ賣ル約束ヲシテ居ルモノモアリト云フモノモ、勿論英佛伊ト云フ如キ我ガ協同ノ戰鬪ニ從事シテ居ル所ノ聯合國カラノ注文及約束ニ係ツテ居ルノデ、之ヲ杜絶ヲシタナラバ我ガ聯合國ハソレニ向ツテ非常ナル困難ヲ生ズルト云フコトモ亦明カナコトデアリマス、是ハ我ミハ政府トシテ此事ヲ直接ニ當ツテ居ルヤウナコトヲ今少シク申上げ兼ネマス、唯要求、此間衆議院ニ於テ英國ヨリ要求ヲ受ケテ居ルガ相談中デアルト云フコトダケハ御答シタノデアリマスガ、免ニモ角ニモサウ云フヤウナ事實デゴザイマスカラ、今此賣ルコトモ貨スコトモ止メルト云フコトハ、容易ニスベキコトデナシ、併ナガラ最後ノ御尋ノ若シ日本ニ一朝有事ノ日アルニ當ツタラバ、ソレニ付テノ準備ガアルヤ否ヤ、覺悟アルヤ否ヤト云フノ御尋ニ對シテハ、是ハ固ヨリ十分ノ準備十分ノ覺悟アリト申スコトヲ申上げナルニシムルト云フコトヲシテ居ルノハ、平時ニ於テ是等ノ海運ノ成ルベク進歩發展スルコトヲ圓ルニ相違ゴザイマセヌケレドモ、一朝有事ノ日ニ於テハ成ルクチヤナリマセヌ、平日郵船會社ヲ初メ商船會社、東洋汽船會社ナドニ航路補助ヲ與ヘテ、船體及速力等ノ一定シタモノヲ成ルベク拵ヘテ航運ニ從事セノ造船所ト云フモノノ發達ハ全ク止シマフト思ヒマス、戰前ノ十年間ニ製造シタ平均數ガ三万五千噸位ナモノデアリマス、一箇年、ソレガ今日デハ三十分噸以上位ニナッテ居ルト云フコトハ、畢竟造リサヘスレバ金ノ這入ル如タニ、賣テ賣レル事實ガアリマスル故ニ、造船家ハ爲シ得ル限り其規模ヲ擴張シ非常ナ勢ヲ以テ造船ヲ努メテ居ルノデ、即チ「ストックボート」ナドハ誰モ注文ヲシナイモノヲズン／＼造ツテ居リマスノデ、アノ通リ造船ガ非常ナ勢デ増加シマシタシ、又是カラモ餘程増加スルデアラウト思ツテ居リマス、然ルハ先刻モ申ス通リ殆ド一隻ノ船……一二隻アルカモ知レマセヌガ、軍事上ニ徵用セラレテ居ル船ハナイト申シテモ宜イ位ノ今日ハ有様デゴザイマスル

ガ、若モ一朝有事ノ日ニ於テ軍事輸送デモセニヤナラヌト云フコトニナツタナラバ、此時ハ縱令重要ナ航路ノ輸送ヲ廢止シテデモ、之ニ充テナケレバナラ

スト云フ筈ニナツテ居リマスカラ、其場合ニ於テハ必ズソレ等ノ輸送ニ差支ナイダケノ平日ニ準備ハシテ居ルモノト御承知ヲ願ヒタイ次第アリマス、大

體ノ御答ヲ申上ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 柳澤伯爵

○伯爵柳澤保惠君 此處デ述ベテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマス

○伯爵柳澤保惠君 本員ノ數箇ノ質問ニ對シマシテ、内閣諸公カラソレハ出來ヌノデアリマス、故ニ之ニ付テソレノ質問ヲ致シタト申上ゲタインデアリマスガ、遺憾ナガラ私ハ總テ諒承イタシ兼ネルノデアリマス、總テ諒承ノコトヲ御答辯ガアルカト考ヘマスケレドモ、是ハ私ハ此議場ノ諸君ノ爲ニ御遠慮イタシマス、唯一ニ其中ニ就イテ御尋イタシタイト考ヘマス、農商務大臣ノ御答辯ニ付キマシテハ私ノ申上ゲタコト少シ違ッテ居リマスノデ、是モ亦遺憾ト感ジマス、私ハ農商務大臣ニハ農商務統計ノ不完全ナルコトヲ訴ヘ、尙ホ商工業ノ御調査ニナルコトニ付テハソレニ對シテ十分ノ御調査ナリ、又ソレニ關スル材料等ハ十分ニ御調べニナツテ居ルヤ否ヤ、詰リ農商務統計ニ付テ疑點ガアリマスノデ、ソレヲ伺ッタノデアリマスガ、明ニ之ニ向ッテ將來改正ヲ加ヘルト云フダケノ御回答ヲ得ナカッタノハ遺憾デアリマスガ、是モ今ハ申シマセヌ、唯最後ニ申上ゲマシタ道徳維持ニ關スルコトニ付キマシテハ總理大臣ニ建議ニ付テ政府ノ御考ヲ伺ッタノデアリマスガ、ソレニ對シマシテハ私ハ具體的ノコトヲ申スコトハ甚ダ好ミマセヌ、此先年ノ道徳維持ニ關スル建議案ノ趣意ニ付テ私ハ類似ノ事實ガアルヤウニ、又アッタヤウニ考ヘテ居リマスノデ、之ニ對シテ當局者ハ如何ガ考ヘテ居ルカ、斯ウ申シタノデアリマス、少シク首相ノ御答辯ハ廣キニ瓦リマシタノデ、ソレハ御尤モデアリマスルケレドモ、私ノ質問ノ的トスル所ニ向ッテハ私ハ遺憾ナガラ御答辯ヲ御盡シニナツタモノト信ジテ居リマセヌ、併ナガラ此以上政府ハ御答ガナイトシマスレバ本員ハ斯ノ如ク考ヘマス、前年ノ道徳維持ニ關スル建議ニ付テハ現今ノ内閣諸公ハ之ニ向ッテ誠意ヲ以テ御考ヘニナラヌ、斯ク考ヘルノデゴザイマス

ス

○議長(公爵徳川家達君) 文部大臣岡田良平君

〔淺田德則君發言ノ許可ヲ求ム〕

○國務大臣(岡田良平君) 唯今柳澤伯爵カラ御尋ニナリマシタ事柄デゴザイマスガ、明ラサマニ具體的ニハ申サヌト云フ御話デアリマシタガ、察シマスル所ガ私ノ此前ノ選舉ニ於キマスル行動ニ關シマスルコトニ付テ御尋ニナツタコトト信ジマスノデ、幸ニ御許シヲ得マシテ、此場合私ノ心事ヲ明カニ致シテ置キタイト存ジマスノデアリマス、過日衆議院ニ於キマシテ某君カラ私ガ總選舉ノ際ニ二名マデモ前科者ヲ援助シテ奔走盡力シタト云フヤウナ事實ヲ舉ゲテ質問ガゴザイマシタ、私ハ其質問ニ對シテドウ云フコトヲ指シタノデアルカト云フコトハハキリ其時ニハ分リマセヌデアリマシタガ、併シスウ云フ事實ガアリマシタノデゴザイマス、本年ノ三月初ト存ジマスガ、私ハ私事ヲ以チマシテ、御許シヲ蒙リマシテ郷里ヘ歸リマシタノデアリマス、郷里ニ於キマシテハ多數ノ知ツタ者モアリマスノデ、是等ノモノガ私ノ爲ニ特ニ歓迎會ヲ設ケマシタノデアリマス、其歓迎會ノ席上ニ於キマシテ私ハ此前ノ總選舉ノ時ト此度ノ總選舉ノ時ト私ノ政治上ニ於ケル立場ガ全ク一變イタシマシタノデアリマスカラ、其一變イタシマシタ理由ヲ能ク説明イタシマシテ、私ノ立場ヲ明カニ致シマシタ次第アリマス、此私ノ演説ガ誤リ傳ヘラレマシテ、其地方カラ候補者トシテ立チマシタ所ノ某氏ノ後援ヲ私ガ致シタ、後援演説ヲ致シタト云フ風ニ世間デ傳ヘラレマシタノデアリマス、勿論私ハサノデアリマス、サウ云フ事實ガアリマシタノデ、衆議院ニ於ケル某氏ノ質問ハ必ズ其事ヲ指スノデアラウト存ジマシタカラ、私ハソレハ事實デナイト云アリマス、ソレガ何人ノ利益ニナリマシタカト云フコトハ私ハ考ヘナカッタマデ前科者ヲ推薦シタト斯様ニアリマスノデ、今一人ト云フノハ誰ノコトヲ指スノデアラウカ、自分デモ理解イタシ兼子テ居リマシタノデアリマスガ、フコトヲ以テ答ヘタノデアリマス、併シ衆議院デ尋ねラレマシタノハ、二人マデ前科者ヲ推薦シタト斯様ニアリマスノデ、今一人ト云フノハ誰ノコトヲ指スノデアラウカ、自分デモ理解イタシ兼子テ居リマシタノデアリマスガ、其後ニ衆議院カラ質問ガ出テ居リマス、其質問趣意書ヲ見マスルト、其指シテアル人ト云フモノハ分リマシタノデアリマスガ、其質問ノ趣意書ノ中ニ書

イテアリマスノハ、鳥取縣ニ於ケル所ノ某氏、島根縣ノ松江ニ於テ候補者ト

シテ立ッタ所ノ某氏、此二人ノ名ガ舉ゲテアリマスノデアリマス、併ナガラ此鳥取縣ニ於テ候補者トシテ立ッタ所ノ某氏ニ對シテハ何等援助ヲ與ヘタト云フヤウナ事實ハナイノデアリマシテ、私ハ其選舉前ニ鳥取縣へ參ッタコトハ事實ニ相違ナイ、又鳥取市ニ於キマシテ歡迎會ニ列シマシテ簡單ナル講演ヲ致シタコトモ事實デアリマス、其講演ノ事柄ハ是ハ政治ニ互ッタコトデナクシテ、私ノ憲法上ニ於ケル所ノ所見ヲ述べタノデゴザイマシテ、政談デハナイト私ハ考ヘテ居リマス、併ナガラ其演說ノ如何ニ拘リマセズ、其某氏ト云フモノハ鳥取市デ候補者トシテ立ッタ人デナクシテ、郡部ノ候補者デアル、私ハ郡部ニ於テモ米子ト申ス所デ矢張リ簡單ノ話ヲ致シマシタノデアリマスガ、此米子ニ於テ候補者トシテ立ッタ人ハ矢張リ此指名サレテ居ル某氏トハ全ク別デアリマス、茲ニ舉ゲテ居リマス所ノ某氏ハ所謂東伯ト申シマスル鳥取縣ノ東ノ方ノ郡部ノ候補者トシテ立ッタノデアリマスカラ、私ガ鳥取ニ於テ演說ヲ致シタト云フコトハ何モ此人ノ後援ヲスルト云フ意味ニハ如何ナル演說ヲ科書事件ニ於テ收檻セラレタル何某ヲ應援イタシテ云々ト云フヤウナコトガ書イテ、ヒドク批難シテゴザイマスルガ、併シ其某ナル者ハ教科書事件ニ關シテ嫌疑ヲ受ケタト云フコトハ事實デアリマスガ、併ナガラ有罪ニナッテ居ラヌノデス、ノミナラズ此人ハ前内閣ノ時ニ中學校長ニ推薦ヲ致シマシタ、此總選舉前迄ハ中學校長ヲ勤續イタシテ居ッタモノデス、其今援ケタト云フ事實ガアリマシタニシタ所ガ、是ハ何等不都合ハナイト私ハ考ヘマスルノデ、ソレ故ニ此事實無根ト云フコトヲ以テ私ハ答ヘタノデアリマス、併ナガラ應援演說ヲシタト云フ……奔走盡力シタト云フ、サウ云フ尋ねニ向ッテハ私ハサウ云フ事實ハナイト云フコトヲ答ヘタノデアリマスケレドモ、併シ鄉里カラ出マシタ某ニ對シテハ何等援ケラバ、是ハ事實ニ相違ナイノデアリマスケレドモ、併ナガラバ、是ハ全ク援ケラバ、是ハ私ノ同鄉ノ者デアリマシテ、多年承知イタシテ居ル者デゴザイマス、先年過ッテ刑ニ觸レタト云フコトハ、是ハ事實ニ相違ナイノデアリマスケレドモ、併ナガララ誠ニ氣ノ毒ナル事情ヲ私ハ其本人ヲ能ク知ッテ居リマス爲ニ諒承シテ居ルノデアリマス、ソレカラ又其地方ナドニ於キマシテモ其本人ノ刑ニ觸レマシ

タ事情、又悔悟ノ狀況等ニ付テハ知ッタモノハ皆諒承シテ居ルト云フヤウナ譯デゴザイマス、ソレカラ後ニ兩三回總選舉ガアリマシタケレドモ、其總選舉ニハ毎ニ當選ヲ致シテ衆議院ノ議場ニ列シテ居ルノデゴザイマス、衆議院ノ議場ニ於キマシテモ、多クノ人ハ其人ノ舊惡ヲ宥恕スルカ、或ハ之ヲ忘レマシタカ、免モ角モ同僚トシテ齒シテ居ッタノデアリマス、サウ云フ譯デゴザイマスカラ今回候補者トシテ起ツニ方リマシテ、私ガ舊來ノ情誼ニ依リマシテ、私ノ知ッタ者ナドノ所ヘ手紙ヲ出シタト云フ事實ハアリマス、手紙ヲ出シマシテ某ガ今回候補者ニ起シタカラ盡力シテヤッテ吳レト云フヤウナコトヲ私ノ知ッタ者ニ手紙ヲ出シタト云フ事實ハアリマス、之ヲ援ケタト申シマスナラバ無論援ケタニ相違ナイノデゴザイマス、併シ私ハ考ヘマシタノデアリマス、既ニ數回衆議院議員トシテ當選シテ議場ニ列シテ居ル、本人モ既ニ前非ヲ後悔シ、全ク新タル人ト自ラ考ヘテ居リマスシ、又其同僚モ殆ド其人ノ舊惡ヲ忘レテ仕舞ヒマシテ、之ト齒シテ居ルト云フヤウナコトデアリマシテ、既ニ年所ヲモ相當經過シテ居ルコトデアリマスカラ之ヲ飽クマデ追責イタシマシテ、世ニ立ツ能ハザラシムルト云フガ如キハ、過ヲ改メ善ニ遷ルコトヲ勸メル途ニ於キマシテ、餘リ過酷デハアルマイカト云フヤウナ私ハ感ジヲ致シマシタノデ、懇意ノ者ニモ手紙ヲ送ルト云フヤウナコトヲ致シテ、多少ノ援助ヲ致シタノデアリマス、併ナガラ尙ホ能ク考ヘテ見マスルノニ、私ガ少シ舊惡ヲ宥恕スルノ點ニ於テ謹慎ヲ闕イタノデアッタト云フコトヲ心付キマシタノデアリマス、何ガ故ニ心付イタカト申シマスト、私ハ此事ニ付テハ最早衆議院ニ於テモ、貴族院ニ於テモ問題ニナラヌト云フコトヲ考ヘテ居リマシテ之ヲ遇シテ居ルノダラウト思ッタノハ少シ思ヒ違ヒデゴザイマス、又貴族院ニ於テモ唯今ノヤウナ御質問ノ出マシタ所ニ依リマスト云フト、矢張リ致シタノデゴザイマス、即チ衆議院ノ人モ此罪ヲスッカリ忘レテ新シイ人トシテ之ヲ遇シテ居ルノダラウト思ッタノハ少シ思ヒ違ヒデゴザイマス、又貴族院ニ於テモ唯今ノヤウナ御質問ノ出マシタ所ニ依リマスト云フト、矢張リ私ノ少シ思ヒ違ヒデアッタ、少シデハナイ、大ニ思ヒ違ヒデアッタ理解イタシマシテ誠ニ慚愧ニ堪ヘマセヌ次第デゴザイマス、私ノ心事ハ右ノヤウナ次第デゴザイマス、私ハ實ニ斯様ニ申シマスノハ、甚ダラコガマシイコトデゴザイマスガ、道徳ヲ維持シ、殊ニ國民道徳ヲ獎勵スルコトハ不肖ナガラ出來ベキダケ努力ヲ致シテ居ル積リデゴザイマス、又將來モ其點ニ付テハ出來得

意ノ爲ニ茲ニ問題ヲ起シマシタト云フコトニ付キマシテハ誠ニ慚愧ニ堪ヘマセヌ、恐縮千萬ノ次第デゴザイマスルノデ、斯様ナルコトニ付テハ注意ノ上ニモ注意ヲ加ヘベキモノデアルト云フコトヲ篤ト了承イタシマシタヤウナ譯デ、ドウゾ其點ハ宜シク御諒察ヲ願ヒマス

○淺田德則君 唯今議題ニナツテ居リマスル 大正六年度歲入歲出總豫算追加案以下十號ハ即チ審查期限ヲ定メルト云フコトニアリマス、會期モ移リマシテ剩ス所ハ多クノ日子ヲ有チマセヌ故ニ、日ヲ特ニ定メマセズシテ審査結了次第報告ヲスルト云フコトニ致シタイト思ヒマス、ドウカ諸君ノ御贊成ヲ願ヒマス

○男爵石黒忠憲君 贊成

○子爵青木信光君 贊成

○子爵三島彌太郎君 贊成

〔此他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 淺田君ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第十一、裁判所設立ニ關スル法律案、第十二、大正二年法律第九號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

裁判所ノ設立ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵德川家達殿

裁判所ノ設立ニ關スル法律案

埼玉縣秩父郡秩父町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ秩父區裁判所ト稱ス

千葉縣君津郡木更津町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ木更津區裁判所ト稱ス

千葉縣香取郡佐原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ佐原區裁判所ト稱ス

茨城縣久慈郡太田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ太田區裁判所ト稱ス

茨城縣行方郡麻生町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ麻生區裁判所ト稱ス

栃木縣那須郡大田原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大田原區裁判所ト稱ス
群馬縣利根郡沼田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ沼田區裁判所ト稱ス
群馬縣新田郡太田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ新田區裁判所ト稱ス
靜岡縣小笠郡掛川町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ掛川區裁判所ト稱ス
長野縣下水內郡飯山町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ飯山區裁判所ト稱ス
長野縣北安曇郡岩村田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ岩村田區裁判所ト稱ス
長野縣西筑摩郡福島町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ木曾區裁判所ト稱ス
長野縣北安曇郡大町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大町區裁判所ト稱ス
新潟縣南蒲原郡三條町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ三條區裁判所ト稱ス
京都府中郡峰山町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ峰山區裁判所ト稱ス
兵庫縣明石郡明石町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ明石區裁判所ト稱ス
兵庫縣揖保郡龍野町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ龍野區裁判所ト稱ス
德島縣那賀郡富岡町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ富岡區裁判所ト稱ス
高知縣高岡郡須崎町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ須崎區裁判所ト稱ス
岐阜縣安八郡大垣町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大垣區裁判所ト稱ス
香川縣三豐郡觀音寺町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ觀音寺區裁判所ト稱ス
福井縣遠敷郡雲濱村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ小濱區裁判所ト稱ス
石川縣能美郡小松町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ小松區裁判所ト稱ス
富山縣下新川郡魚津町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ魚津區裁判所ト稱ス
山口縣都濃郡德山町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ德山區裁判所ト稱ス
岡山縣小田郡笠岡町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ笠岡區裁判所ト稱ス
岡山縣阿哲郡新見町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ新見區裁判所ト稱ス
岡山縣真庭郡勝山町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ勝山區裁判所ト稱ス
島根縣簸川郡今市町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ今市區裁判所ト稱ス
長崎縣東彼杵郡大村町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大村區裁判所ト稱ス
佐賀縣杵島郡武雄町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ武雄區裁判所ト稱ス
福岡縣八女郡福島町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ八女區裁判所ト稱ス
大分縣速見郡杵築町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ杵築區裁判所ト稱ス
大分縣南海部郡佐伯町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ佐伯區裁判所ト稱ス
熊本縣上益城郡御船町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ御船區裁判所ト稱ス
熊本縣球磨郡人吉町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ人吉區裁判所ト稱ス

| 熊 谷 | |
|--------|------|
| 埼玉縣ノ内 | 大里郡 |
| 北埼玉郡ノ内 | 忍野村 |
| 須影村 | 星河村 |
| 中條村 | 埼玉村 |
| 成田村 | 新郷村 |
| 羽生町 | 成田村 |
| 中島村 | 屈集村 |
| 岩瀬村 | 下忍村 |
| 井泉村 | 太井村 |
| 川俣村 | 持田村 |
| 北河原村 | 手子林村 |
| 福田村 | 今宿村 |
| 高坂村 | 星宮村 |
| 竹澤村 | 莊木村 |
| 宮前村 | 共山村 |
| 野平村 | 須加村 |
| 唐子村 | 共和村 |
| 本庄村 | 太田村 |
| 本庄村 | 長野村 |
| 本庄村 | 須加村 |
| 本庄村 | 共和村 |

貴族院議長公爵德川家達殿
大正二年法律第九號中改正法律案
大正二年法律第九號中左ノ通改正ス
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
附則
秋田縣山本郡能代港町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ平良區裁判所ト稱ス
青森縣北津輕郡五所川原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ五所川原區裁判所ト稱ス
青森縣西津輕郡鰺ヶ澤町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ鰺ヶ澤區裁判所ト稱ス
北海道壽都郡壽都町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ壽都區裁判所ト稱ス
巖手縣二戸郡福岡町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ二戸區裁判所ト稱ス
秋田縣山本郡平良村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ高千穗區裁判所ト稱ス
沖繩縣宮古郡平良村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ平良區裁判所ト稱ス
宮城縣柴田郡大河原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大河原區裁判所ト稱ス
山形縣最上郡新庄町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ新庄區裁判所ト稱ス
鹿兒島縣川邊郡知覽村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ知覽區裁判所ト稱ス
宮崎縣西臼杵郡高千穗村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ高千穗區裁判所ト稱ス
鹿兒島縣宮古郡平良村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ平良區裁判所ト稱ス
宮城縣柴田郡大河原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大河原區裁判所ト稱ス
山形縣最上郡新庄町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ新庄區裁判所ト稱ス
鹿兒島縣川邊郡知覽村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ知覽區裁判所ト稱ス
宮崎縣西臼杵郡高千穗村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ高千穗區裁判所ト稱ス
沖繩縣宮古郡平良村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ平良區裁判所ト稱ス
宮城縣柴田郡大河原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ大河原區裁判所ト稱ス
山形縣最上郡新庄町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ新庄區裁判所ト稱ス
巖手縣二戸郡福岡町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ二戸區裁判所ト稱ス
秋田縣山本郡能代港町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ平良區裁判所ト稱ス
青森縣北津輕郡五所川原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ五所川原區裁判所ト稱ス
青森縣西津輕郡鰺ヶ澤町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ鰺ヶ澤區裁判所ト稱ス
北海道壽都郡壽都町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ壽都區裁判所ト稱ス

同表中千葉區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 秩 父 | |
|--------|-------|
| 埼玉縣ノ内 | 秩父郡ノ内 |
| 皆野村 | 皆野村 |
| 金澤村 | 三澤村 |
| 長若村 | 日野澤村 |
| 上吉田村 | 下吉田村 |
| 中川村 | 久那村 |
| 白川村 | 倉尾村 |
| 中川村 | 三田川村 |
| 影森村 | 大田村 |
| 浦山村 | 尾根村 |

同表中八日市場區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 千 葉 | |
|--------|-------|
| 千葉縣ノ内 | 千葉縣ノ内 |
| 君津郡 | 君津郡 |
| 市原郡ノ内 | 市原郡ノ内 |
| 里見村 | 里見村 |
| 白鳥村 | 白鳥村 |

同表中水戸區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 佐 原 | |
|--------|-------|
| 千葉縣ノ内 | 千葉縣ノ内 |
| 香取郡ノ内 | 匝瑳郡 |
| 佐野町 | 香取郡ノ内 |
| 中村 | 多古町 |
| 大須賀村 | 佐野町 |
| 萬歳村 | 大須賀村 |
| 神里村 | 小御門村 |
| 神代村 | 高岡村 |
| 八都村 | 常磐村 |
| 橘村 | 飯高村 |
| 森山村 | 久賀村 |
| 香山西村 | 豊和村 |
| 東城山村 | 神崎町 |
| 良文宮山村 | 日吉村 |
| 津宮山村 | 古城村 |
| 端穂山村 | 吉田村 |
| 香澤山村 | 中和村 |
| 瑞穂山村 | 東條村 |
| 新島山村 | 小見川町 |
| 大倉山村 | 篠川町 |
| 馬山村 | 東大戶村 |
| 府馬山村 | 東大戶村 |
| 豐里村 | 大倉山村 |
| 勝田村 | 篠川町 |
| 額田村 | 吉田村 |
| 芳野村 | 東大戶村 |
| 木崎村 | 大倉山村 |
| 菅谷村 | 篠川町 |
| 川田村 | 吉田村 |

| 水 戸 | |
|--------|-------|
| 茨城縣ノ内 | 水戸市 |
| 那珂郡ノ内 | 那珂郡ノ内 |
| 猿渡町 | 猿渡町 |
| 佐野村 | 佐野村 |
| 五臺村 | 五臺村 |
| 神代村 | 神代村 |
| 柳河村 | 柳河村 |
| 松村 | 松村 |
| 前渡村 | 前渡村 |
| 國田村 | 國田村 |
| 石神村 | 石神村 |
| 中野村 | 中野村 |
| 神崎村 | 神崎村 |
| 戸多村 | 戸多村 |
| 新島村 | 新島村 |
| 中野村 | 中野村 |
| 勝田村 | 勝田村 |
| 額田村 | 額田村 |
| 芳野村 | 芳野村 |
| 木崎村 | 木崎村 |
| 菅谷村 | 菅谷村 |
| 川田村 | 川田村 |

| 同表中前橋區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | | 同表中宇都宮區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | | 同表中土浦區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | | 同表中太田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | |
|--------------------|--------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------|---------------------|---------------------|
| 前 橋 | | 宇 都 宮 | 麻 生 | 土 浦 | | 太 田 | |
| 群馬縣ノ内 前橋市 | 群馬郡ノ内 古卷村 | 栃木縣ノ内 那須郡 | 茨城縣ノ内 行方郡 | 新治郡 君原村 | 北相馬郡 龍ヶ崎町 | 久慈郡 那珂郡ノ内 大宮町 | 茨城縣ノ内 久慈郡 長倉村 |
| 滋川町 | 小野上村 | 河内郡 | 鹿島郡ノ内 高松村 | 大宮村 | 阿見村 | 瓜連村 山方村 | 大場村 鹽田村 |
| 山田郡ノ内 | 伊香保町 | 上都賀郡 | 三島村 | 生板村 | 鳩崎村 源清田村 | 靜村 櫻澤村 | 上野村 小瀬村 |
| 勢多郡 | 明治村 | 芳賀郡 | 田井村 | 岡田村 | 君賀村 大須賀村 | 大賀村 鹽鄉村 | 朝日村 野口村 |
| 佐波郡 | 豐秋村 | 本新島村 | 長崎村 | 高田村 | 沼里村 長竿村 | 大陽村 山方村 | 大陽村 大賀村 |
| 東村 | 金島村 | 十余島村 | 金江津村 | 十和田村 | 木原村 馴柴村 | 檜澤村 靜村 | 上野村 野口村 |
| 元總社村 | 長尾村 | 本新島村 | 筑波郡ノ内 鹿島町 | 筑波町 | 小野川村 葛上村 | 安中村 根本村 | 大場村 鹽田村 |
| 駒寄村 | 白郷井村 | | 行方郡 鹿島郡ノ内 浮島村 | 大同村 | 豊張村 島名村 | 朝日村 古渡村 | 沼里村 古渡村 |
| | | | | 中島村 | 真瀬村 若松村 | 木原村 舟奥島村 | |
| | | | | 輕野村 | 板橋村 板井村 | 沼里村 奥野村 | |
| | | | | 波野村 | 島名村 久賀村 | 朝日村 古渡村 | |
| | | | | 若松村 | 久賀村 | | |
| | | | | 矢田部村 | 旭村 | | |
| | | | | 東下村 | 豊下津村 | | |
| | | | | | | | |

| 同表中長野區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | | 同表中掛川區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | | 同表中濱松區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | | 同表中新田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム | |
|--------------------|----------------|--------------------|----------------|--------------------|--------------|--------------------|--------------|
| 長 野 | | 掛 川 | | 濱 松 | | 新 田 | |
| 長野縣ノ内 長野市 | 長野縣ノ内 更級郡ノ内 | 靜岡縣ノ内 小笠郡 | 靜岡縣ノ内 濱松市 | 群馬縣ノ内 利根郡 | 群馬縣ノ内 利根郡 | 群馬縣ノ内 新田郡 | 群馬縣ノ内 利根郡 |
| 埴科郡ノ内 東福寺村 | 稻荷山町 | 榛原郡ノ内 川崎町 | 磐田郡ノ内 見付町 | 山田郡ノ内 漬名郡 | 山田郡ノ内 桐生町 | 山田郡ノ内 新田町 | 山田郡ノ内 桐生町 |
| 松代町 | 森 | 周智郡ノ内 一宮町 | 周智郡ノ内 上阿多古村 | 中泉町 | 川内村 | 川内村 | 川内村 |
| 清野村 | 幸浦村 | 御前崎村 | 西村 | 西淺羽村 | 廣澤村 | 休泊村 | 廣澤村 |
| 西條村 | 信里村 | 初倉村 | 奥山村 | 西淺羽村 | 梅田村 | 矢場川村 | 梅田村 |
| 豐榮村 | 榮村 | 天方村 | 奥山村 | 西淺羽村 | 境野村 | 境野村 | 境野村 |
| 東條村 | 青木島村 | 東淺羽村 | 奥山村 | 西淺羽村 | 相生村 | 相生村 | 相生村 |
| 東條村 | 共和村 | 五和村 | 相良町 | 佐久間村 | 毛里田村 | 毛里田村 | 毛里田村 |
| 東條村 | 八幡村 | 金谷町 | 勝間田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 信級村 | 下川根村 | 萩間村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 御厨村 | 犬居村 | 坂部村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 真島村 | 笠西村 | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 小島田村 | 飯田村 | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 桑原村 | 久努村 | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 日原村 | 熊切村 | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 牧郷村 | 園田村 | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 鹽崎村 | 地頭方村 | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 今里村 | | 吉田村 | 佐久間村 | | | |
| 寺尾村 | 西寺尾村 | | | 佐久間村 | | | |

| | |
|------|--------------------------------|
| 飯山 | 長野縣ノ内 小縣郡 北佐久郡ノ内 北御牧村 |
| 下水内郡 | 下高井郡 |

同表中上田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|--------------|---------------------------------|
| 岩村田 | 長野縣ノ内 南佐久郡 北佐久郡ノ内 南佐久郡 |
| 塙科郡ノ内 屋代町 | 坂城町 南條村 中之條村 |
| 埴生村 | 杭瀬下村 森村 倉科村 |
| 更級郡ノ内 上村 | 力石村 上山田村 戶倉村 雨宮縣村 |
| 本牧村 | 上山田村 五和村 |

同表中松本區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|------|--|
| 木曾 | 長野縣ノ内 松本市 西筑摩郡ノ内 檜川村 |
| 三岳村 | 東筑摩郡 志賀村 南安曇郡 |
| 神坂村 | 木祖村 奈川村 日義村 大桑村 讀書村 吾妻村 |
| 福島町 | 駒ヶ根村 小沼村 布施村 三都和村 |
| 升瀬村 | 横鳥村 北大井村 中津村 大里村 春日村 川邊村 |
| 岩室村 | 南御牧村 北大井村 中津村 大里村 春日村 協和村 |
| 漆山村 | 東長倉村 中佐都村 北大井村 伍賀村 平根村 |
| 大原村 | 西長倉村 中佐都村 北大井村 中津村 三岡村 |
| 赤塚村 | 西長倉村 中佐都村 北大井村 中津村 平根村 |
| 曾根村 | 中佐都村 北大井村 中津村 三岡村 |
| 黒崎村 | 中佐都村 北大井村 中津村 三岡村 |
| 和納村 | 中佐都村 北大井村 中津村 三岡村 |
| 坂井輪村 | 中佐都村 北大井村 中津村 三岡村 |
| 月潟村 | 中佐都村 北大井村 中津村 三岡村 |

同表中新潟區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|--------|---|
| 新潟 | 新潟縣ノ内 新潟市 西蒲原郡ノ内 卷町 峰岡村 小吉村 角田村 五泉町 新津町 龜田町 小須戸町 白根町 |
| 中蒲原郡ノ内 | 道上村 味方室村 升瀬村 漆山村 大原村 赤塚村 曾根村 黒崎村 和納村 坂井輪村 月潟村 内野村 |
| 中野小屋村 | 中野小屋村 鎧郷村 四ツ合村 四ツ合村 内野村 |
| 鎧郷村 | 鎧郷村 |

| | | |
|---------------|----------------------------------|---|
| 奈良 | 奈良縣ノ内 奈良市 吉野郡ノ内 四郷村 | 橋田村 金津村 新闕村 大蒲原村 十全村 阿賀浦村 曾野木村 石山村 大郷村 茨賀根村 |
| 貞 | 兵庫縣ノ内 姫路市 揖保郡 | 裏館村 横越村 大形村 烏屋野村 井栗村 大崎村 |
| 龍野 | 兵庫縣ノ内 多可郡 | 栗林村 早通村 南浦原郡ノ内 本成寺村 |
| 姫路 | 兵庫縣ノ内 飾磨郡 神崎郡 | 大島村 福島村 |
| 明石 | 兵庫縣ノ内 明石郡 | 長澤村 西浦原郡ノ内 地藏堂町 |
| 峯山 | 京都府ノ内 中郡 | 栗林村 庄瀬村 須田村 |
| 宮津 | 京都府ノ内 與謝郡 | 森町村 須田村 |
| 三條 | 京都府ノ内 竹野郡 | 小中川村 米納津村 |
| 三島郡ノ内 大河津村 | 島上村 吉田村 松長村 彌彦村 栗生津村 | 鹿嶋村 大崎村 大島村 長澤村 井栗村 大島村 栗林村 庄瀬村 須田村 新飯田村 茨賀根村 |

同表中神戸區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|---------------|--------------|
| 神戸 | 兵庫縣ノ内 神戸市 |
| 明石 | 兵庫縣ノ内 尼崎市 |
| 峯山 | 竹野郡 |
| 宮津 | 熊野郡 |
| 三島郡ノ内 大河津村 | 有馬郡 |

同表中姫路區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|----|--------------|
| 姫路 | 兵庫縣ノ内 添上郡 |
| 龍野 | 兵庫縣ノ内 印南郡 |
| 明石 | 兵庫縣ノ内 武庫郡 |
| 峯山 | 兵庫縣ノ内 川邊郡 |
| 宮津 | 兵庫縣ノ内 有馬郡 |

同表中奈良區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|---------------|------------------------------|
| 奈良 | 奈良縣ノ内 奈良市 吉野郡ノ内 四郷村 |
| 貞 | 奈良縣ノ内 添上郡 |
| 龍野 | 奈良縣ノ内 印南郡 |
| 姫路 | 奈良縣ノ内 武庫郡 |
| 明石 | 奈良縣ノ内 川邊郡 |
| 峯山 | 奈良縣ノ内 有馬郡 |
| 宮津 | 奈良縣ノ内 加古郡 |
| 三島郡ノ内 大河津村 | 加東郡 |
| 奈良 | 奈良縣ノ内 宇陀郡 |

同表中五條區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 五 條 | |
|--------|------|
| 奈良縣ノ内 | 宇智郡 |
| 吉野郡ノ内 | 南葛城郡 |
| 上市町 | 下市町 |
| 秋野村 | 十津川村 |
| 丹生村 | 大淀村 |
| 黑瀧村 | 天川村 |
| 中龍門村 | 野迫川村 |
| 龍門村 | 江沼郡 |
| 川上村 | 下北山村 |
| 宗檜村 | 吉野村 |
| 大塔村 | 中龍門村 |
| 白銀村 | 龍門村 |
| 申莊村 | 國棟村 |

同表中德島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 德 島 | |
|--------|-----|
| 德島縣ノ内 | 那賀郡 |
| 德島市 | 名東郡 |
| 勝浦郡 | 勝浦郡 |
| 名西郡 | 名西郡 |
| 板野郡 | 板野郡 |

同表中丸龜區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 丸 龜 | |
|--------|-------|
| 香川縣ノ内 | 仲多度郡 |
| 丸龜市 | 綾歌郡ノ内 |
| 坂出町 | 宇多津町 |
| 王越村 | 金山村 |
| 坂本村 | 西庄村 |
| 造田村 | 川津村 |
| 法勸等村 | 富熊村 |
| 美合村 | 栗熊村 |
| 香川縣ノ内 | 岡田村 |
| 三豐郡 | 林田村 |
| | 長飯野村 |
| | 松山村 |
| | 長炭村 |

同表中高知區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 高 知 | |
|--------|-----|
| 高知縣ノ内 | 土佐郡 |
| 高知市 | 長岡郡 |
| 高知縣ノ内 | 香美郡 |
| 高岡郡 | 吾川郡 |

同表中岐阜區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 岐 阜 | |
|--------|-----|
| 岐阜縣ノ内 | 稻葉郡 |
| 岐阜市 | 羽島郡 |
| 郡上郡 | 本巣郡 |
| 加茂郡ノ内 | 山縣郡 |
| 高岡郡 | 武儀郡 |
| 安八郡 | 養老郡 |
| 海津郡 | 不破郡 |
| 田原村 | 揖斐郡 |
| | 富岡村 |

同表中敦賀區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

同表中金澤區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 敦 賀 | |
|--------|-----|
| 福井縣ノ内 | 小濱郡 |
| 敦賀郡 | 遠敷郡 |
| 石川縣ノ内 | 大飯郡 |
| 金澤市 | 三方郡 |
| 能美郡ノ内 | |
| 川北村 | |

同表中富山區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 小 松 | |
|--------|-------|
| 石川縣ノ内 | 江沼郡 |
| 能美郡ノ内 | 小松町 |
| 山越村 | 安宅町 |
| 山上村 | 御幸村 |
| 新丸村 | 苗代村 |
| 尾口村 | 栗津村 |
| 牧村 | 大杉谷村 |
| 中國海村 | 寺井野村 |
| 湊村 | 金野村 |
| 栗生村 | 久常村 |
| 白峯村 | 利田村 |
| 舟橋村 | 金ヶ淵村 |
| 東谷村 | 寺田村 |
| 下段村 | 吉田村 |
| 東三郷村 | 西尾村 |
| 高野村 | 根上村 |
| 立山村 | 西加積村 |
| 五百石町 | 早月加積村 |
| 大森村 | 中加積村 |
| 中新川郡ノ内 | 西加積村 |
| 下條村 | 北加積村 |
| 音杉村 | 南加積村 |
| 弓庄村 | 利田村 |

同表中山口區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 魚 津 | |
|--------|--------|
| 富山縣ノ内 | 中新川郡ノ内 |
| 西水橋町 | 東水橋町 |
| 北加積村 | 滑川町 |
| 下條村 | 上市町 |
| 大岩村 | 濱加積村 |
| 音杉村 | 早月加積村 |
| 弓庄村 | 中加積村 |
| 上條村 | 西加積村 |
| 相ノ木村 | 利田村 |
| 宮川村 | 金ヶ淵村 |
| 白萩村 | 寺井野村 |
| | 柿澤村 |

同表中岩國區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| 山 口 | |
|--------|-----|
| 山口縣ノ内 | 吉敷郡 |
| 山口縣ノ内 | 佐波郡 |
| 那濃郡 | 美禰郡 |
| 熊毛郡 | |

同表中玉島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | | | |
|----|---|---|---|--------------------------|
| 玉島 | 岡山縣ノ内 倉敷郡ノ内 清音村 吉備郡ノ内 岡田村 蘭村 岡山縣ノ内 小田郡 | 大高村 常盤村 川邊村 新本村 山田村 久代村 秦村 神在村 | 帶江村 山手村 二萬村 穗井田村 吳妹村 箭田村 | 萬壽村 菅生村 三須村 後月郡 |
|----|---|---|---|--------------------------|

同表中高梁區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|----|---|--|
| 高梁 | 岡山縣ノ内 上房郡 吉備郡ノ内 下倉村 阿哲郡 | 川上郡 |
| 新見 | 岡山縣ノ内 苦田郡 眞庭郡 | 水內村 日美村 富山村 大和村 |
| 勝山 | 岡山縣ノ内 松江市 簸川郡 邑智郡 | 英田郡 安濃郡 八東郡 能義郡 仁多郡 大原郡 |
| 津山 | 岡山縣ノ内 島根縣ノ内 市 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 | 日美村 富山村 大和村 久米郡 |

同表中津山區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|----|---|---|
| 松江 | 島根縣ノ内 松江市 簸川郡 邑智郡 | 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 |
| 今市 | 島根縣ノ内 市 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 | 能義郡 安濃郡 仁多郡 大原郡 |
| 大森 | 島根縣ノ内 通摩郡 | 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 |
| 長崎 | 長崎縣ノ内 長崎市 長崎縣ノ内 島根縣ノ内 市 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 | 小夕倉村 蚊焼村 川原村 茂木村 長興村 時津村 村 松村 長浦村 |

同表中長崎區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|-----|---|---|
| 長崎 | 長崎縣ノ内 長崎市 長崎縣ノ内 島根縣ノ内 市 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 | 小夕倉村 蚊焼村 川原村 茂木村 長興村 時津村 村 松村 長浦村 |
| 大草村 | 高島村 爲石村 伊木力村 川原村 長興村 時津村 村 松村 長浦村 | 上長崎村 西彼杵郡ノ内 土井首村 深堀村 野母村 香燒村 矢上村 櫻島村 喜々津村 伊王島村 |
| 大草村 | 高島村 爲石村 伊木力村 川原村 長興村 時津村 村 松村 長浦村 | 上長崎村 西彼杵郡ノ内 土井首村 深堀村 野母村 香燒村 矢上村 櫻島村 喜々津村 伊王島村 |
| 長崎 | 長崎縣ノ内 長崎市 長崎縣ノ内 島根縣ノ内 市 八東郡 勝田郡 英田郡 久米郡 | 小夕倉村 蚊焼村 川原村 茂木村 長興村 時津村 村 松村 長浦村 |

第一讀會

| | | |
|----|---|---|
| 大村 | 長崎縣ノ内 北高來郡 大村町 竹松村 下波佐見村 上波佐見村 | 龜岳村 多以良村 瀬戸村 松島村 雪浦村 福田村 小柳村 浦上山里村 西浦上村 |
| 佐賀 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 武雄 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 大村 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |

同表中柳河區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|----|--|---|
| 柳河 | 福岡縣ノ内 大牟田市 三潴郡ノ内 大川町 木佐木村 久間田村 川口村 大野島村 | 大串村 崎戸村 江島村 平島村 神浦村 萱瀬村 川棚村 |
| 八女 | 福岡縣ノ内 八女郡 | 三叉村 大溝村 蒲池村 田口村 濱武村 |
| 佐賀 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 武雄 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 大村 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |

同表中大分區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|----|------------------------------------|---|
| 大分 | 大分縣ノ内 速見郡ノ内 大野郡ノ内 犬飼町 | 大串村 崎戸村 江島村 平島村 神浦村 萱瀬村 川棚村 |
| 佐賀 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 武雄 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 大村 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |

同表中大分區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|----|------------------------------------|------------------------------------|
| 杵築 | 大分縣ノ内 東國東町 旭日村 奈狩江村 | 大串村 崎戸村 江島村 平島村 神浦村 |
| 大分 | 大分縣ノ内 速見郡ノ内 大野郡ノ内 犬飼町 | 大串村 崎戸村 江島村 平島村 神浦村 |
| 佐賀 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 武雄 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 杵島郡 藤津郡 西松浦郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |
| 大村 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 | 佐賀縣ノ内 佐賀市 神埼郡 三養基郡 小城郡 |

同表中白杵區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

西國東郡ノ内
朝田村 田原村

| | |
|---------------------------------|---|
| 佐伯 | 白杵 |
| 大分縣ノ内 南海部郡ノ内 大野郡ノ内 川登村 | 佐賀關町 一尺屋村 佐志生村 下ノ江村 海邊村 上北津留村 南津留村 下浦村 青江村 津組村 四浦村 保戸島村 |
| 重岡村 | 小野市村 |

同表中熊本區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 御船 | 熊本 |
| 熊本縣ノ内 上益城郡ノ内 御船町 | 熊本市 葆池郡ノ内 大津町 護川村 阿蘇郡ノ内 錦野村 白水村 |
| 高木村 六嘉村 中島村 名連川村 | 甲佐町 原水村 北合志村 合志村 西合志村 陣内村 平眞城村 |
| 下益城郡ノ内 當尾村 天草郡ノ内 登立村 | 小川町 原水村 津田村 濱田村 陣内村 平眞城村 |
| 杉上村 豐田村 中山村 豐野村 | 豊福村 海東村 津田村 濱田村 陣内村 平眞城村 |
| 西砥川村 東砥用村 | 維和村 上村 中村 湯島村 小野部田村 |

同表中八代區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|----|---------------------|
| 八代 | 熊本縣ノ内 八代郡 華北郡 |
| | |

同表中鹿兒島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鹿兒島縣ノ内
鹿兒島市
日置郡ノ内
下伊集院村
永吉村
伊作村
田布施村
阿多村
吉利村

| | |
|-----|----------------------|
| 知覽 | 鹿兒島縣ノ内 川邊郡 揖宿郡 |
| 延岡 | 宮崎縣ノ内 東白杵郡 |
| 高千穗 | 宮崎縣ノ内 西白杵郡 |
| 那霸 | 沖繩縣ノ内 那霸區 |
| 平良 | 首里區 島尻郡 中頭郡 國頭郡 |
| 那霸 | 宮古郡 八重山郡 |

同表中那霸區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

宮崎縣ノ内
那霸區

同表中仙臺區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

沖繩縣ノ内
首里區

| | |
|-----|--------------|
| 仙臺 | 宮城縣ノ内 仙臺市 |
| 大河原 | 宮城縣ノ内 柴田郡 |
| 平良 | 瓦理郡 伊具郡 刘田郡 |
| 那霸 | 名取郡 黒川郡 |

同表中盛岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|----|--------------|
| 盛岡 | 岩手縣ノ内 盛岡市 |
| | |

勝澤郡ノ内
相去村

二戸 厳手縣ノ内
二戸郡 九戸郡

同表中遠野區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

遠野 厳手縣ノ内
上閉伊郡 氣仙郡

同表中一關區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

一關 嶺手縣ノ内
西磐井郡 膳澤郡ノ内

| | |
|-------|------|
| 東磐井郡 | 江刺郡 |
| 水澤町 | 前澤町 |
| 古城村 | 佐倉河村 |
| 金ヶ崎村 | 小山村 |
| 秋田縣ノ内 | 真城村 |
| 由利郡ノ内 | 姉体村 |
| 下濱村 | 南都田村 |
| 秋田市 | 若柳村 |
| 山本郡 | 永岡村 |
| 秋田縣ノ内 | 白山村 |

同表中秋田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|-------|------|
| 東磐井郡 | 江刺郡 |
| 水澤町 | 前澤町 |
| 古城村 | 佐倉河村 |
| 金ヶ崎村 | 小山村 |
| 秋田縣ノ内 | 真城村 |
| 由利郡ノ内 | 姉体村 |
| 下濱村 | 南都田村 |
| 秋田市 | 若柳村 |
| 山本郡 | 永岡村 |
| 秋田縣ノ内 | 白山村 |

同表中秋田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

能代 秋田縣ノ内
山本郡

同表中青森區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | | |
|--------|------|------|
| 青森縣ノ内 | 東津輕郡 | 下北郡 |
| 青森市 | 東津輕郡 | 下北郡 |
| 上北郡ノ内 | 七戸町 | 野邊地町 |
| 大深内村 | 六ヶ所村 | 横濱村 |
| 青森縣ノ内 | 新和村 | 天間林村 |
| 五所川原 | 北津輕郡 | 甲地村 |
| 中津輕郡ノ内 | 烟岡村 | 浦野館村 |

同表中弘前區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

| | |
|--------|------|
| 青森縣ノ内 | 弘前市 |
| 中津輕郡ノ内 | 清水村 |
| 岩木村 | 相馬村 |
| 相馬村 | 和德村 |
| 和德村 | 豊田村 |
| 豊田村 | 堀越村 |
| 堀越村 | 西目屋村 |
| 西目屋村 | 千年村 |
| 千年村 | 駒越村 |
| 駒越村 | 大浦村 |

弘前 船澤村 高杉村 裕野村
南津輕郡ノ内
黒石町 女鹿澤村 富木館村 野澤村 大杉村 濱岡村
五鄉村 六鄉村 十二里村 常盤村 藤崎村 光田寺村
田舎村 中郷村 山形村 猿賀村 尾上村 金田村
淺瀬石村 大光寺村 柏木町村 竹館村 町居村 尾崎村

繆ヶ澤 青森縣ノ内
西津輕郡

同表中函館地方裁判所ノ部ニ左ノ一項ヲ加フ

| | |
|----------|--------------------|
| 壽都 北海道ノ内 | 岩内郡 古宇郡 |
| 壽都郡 | 虻田郡ノ内 |
| 俱知安町 | 東俱知安村 真狩村 喜茂別村 寺太村 |

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

〔國務大臣松室致君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松室致君) 裁判所設置ニ關スル法律案、政府提出ノ理由ヲ述べマス、是ハ先刻柳澤伯爵カラ御質問ニ對シテ御答ヲ致シテ置キマシタ所ニ總テ含ンデ居リマスカラ、唯一言申上ゲテ置キマス、土地ノ狀況ト交通ノ便否ヲ計リマシテ、此四十六箇所ト云フモノヲ選定イタシテ提出イタシタ譯デアリマスカラ、何卒御協贊アラムコトヲ希望イタシマス、ソレカラ大正二年第十九號法律中改正案、是ハ唯今述べマシタ裁判所ノ設置ニ付キマシテ、目下現行ノ裁判管轄ヲ改正セナケレバナラヌ、ソレニ付テ起リマシタ法律案デアリマス、是ハ矢張リ裁判所ノ設置ニ關スル法律案ト相離ルベカラザルモノデアリマス、別ニ理由ハ述べマセヌノデアリマス
○江木千之君 此席ヨリ質問イタシタイト思ヒマス、此問題ニ付キマシテハ先刻豫算案ニ關聯イタシマシテ柳澤伯爵ヨリ質問ガ出マシテ、當局大臣ノ御答ガアリマシタガ、質問者ニ於テモ此答辯ニ付テハ満足セヌト云フコトデア

リマンタ、私ハ其質問ト同様ノ質問ヲ致スノデアリマスガ、此事タルヤ、現内閣ノ財政方針ノ根本ニ觸レル所ノ問題ヲ含ンデ居ルト考ヘルノデアリマスカラ、寧ロ大藏大臣ノ御答ヲ受ケタイト考ヘルノデアリマスガ、此裁判所ヲ廢止イタシマスルコトハ山本内閣ト申シテ宜シイカ、政友會内閣ト申シテ宜シイカ、當時行政整理ノタメ裁判所構成法マデ改正イタサレタノデアリマスガ、此裁判所構成法ナルモノハ申スマデモナク殆ド國家組織ノ根本ヲ成スト申シテ宜シイノデアリマスガ、ソレヲスラ改正ヲ致シテ、サウシテ行政整理ノ爲ニ金ヲ生ミ出ス、其金額タルヤ誠ニ僅カナモノデアッテ、數十万圓ニ過ぎナインデアリマス、是ハ斯ノ如キ改正マデ致シテ金ヲ出ス外ナイカト云フコトヲ、當時松田司法大臣ニ色ム尋ネテ見タノデアリマスガ、他ニ途ガナイン、又此行政整理ナルモノハ軍備充實ノ爲ニ資金ヲ要スルノデ、已ムヲ得ヌ次第アルト云フノデ、我ミハ少シ躊躇イタシマシタガ、松田司法大臣ノ英斷、熱心ヲ以テ行政整理ニ當ラレルト云フ趣意ヲ諒トシテ、我ミハ賛成ヲ致シタノデアリマス、裁判所ヲ廢スレバ不便ニナルト云フコトハ是ハ其當時カラ分テ居ルノデアリマシタガ、此不便ハ忍バナクテハナラヌト云フノデ斷行イタシタノデアリマス、ソレデ其行政整理ヲ致シマスルト、モウ其翌年ノ議會ニ裁判所設置ノ請願ガ出テ參ッテ、此貴族院ノ議場ニモ現ハレタノデアリマスガ、我ミハ既ニ行政整理ニ賛成シテ之ヲ廢止スルコトヲ是認シテ居ルノデ、本年之ヲ又復活スルト云フヤウナコトハ假令政府ノ参考ニスル請願ト雖モ之ヲ採擇スルコトハ出來ヌト云フノデ、此議場ニ於テハ不採擇ニナッタ位ノコトデアリマシタ、其後ハ政府モボツク提案ヲナレテ、本院ニ於テモ已ムヲ得ズ協賛イタシタコトモアルト云フコトデ、幾分カ緩ンデハ參シテ居リマスルガ、本員等モ當時行政整理ノ精神、他ニ害ガナケレバ之ヲ舊ノ有様ニ復スルガ宜カラウト考ヘマスルガ、堵今日ノ財政ノ狀態ハ如何デアルカ、此山本内閣ノ斷行、英斷ハ軍備充實ノ爲ニ金ガ要ルノデ、已ムヲ得ズ致シタコトデアル、然ルニ今日ハ軍備ノ充實ハ果シテ出來ルカドウカ、其後ノ狀態ヲ見マスト二個師團増設ハ行ハレタ、行ハレタガ是ハ一時當局者ガ下手ナコトヲシタノデ殆ド手ガ著ケラレヌ有様デアッタノデアリマス、本院ノ如キ二箇年バカリ此事ニ付テハ當時盡力サレテ漸ク成立ツタト云フ譯デアリマス、海軍ノ充實ノ如キハ果シテドウデアリマスカ、唯今ノ海軍大臣ハ今日提案ニナッテ居ル所ノ八四艦隊ハ、此冬ノ議會マデニハ之ヲ或ハ八八艦隊ニスルカ、若クハ

此主力艦隊ハ八四艦隊ニ止メテ、附屬艦隊……奇襲部隊、即チ驅逐艦、潛艇ト云フ方ニ專ラ力ヲ盡スコトニスルカ、此二途ニ付テハ冬ノ議會マデニ講究シテ、冬ノ議會ニ必ズ之ヲ決定シテ提案スルト云フ意見ヲ有ツテ居ラレル所ノ二億六千万圓、是ハ何ニ計算ガ基イテ居ルカト云フト、從來ノ物價ヲ標準ニシテ居ル、今日ノ物價ニ照シテ此通リノ金額デ實行ノ出來ヌト云フコトハ明カニ見エテ居ルノデアル、或ハ三割カラノ増額ヲ要シハセヌカト考ヘルノデアリマスガ、サウ云フ分リ切ッタコトマデモ經費ノ増額ヲセズシテ以前ノ單價ヲ以テ算出シタ豫算ヲ提出シテ居ラレル、是ハ今後増費ヲ要スルコトハ明カナコトデ、陸軍ニ付テ今日御尋スルノハマダ時機ガ早カラウト考ヘマスガ、陸軍ノ如キモ將來非常ナ改革ヲ要スルデアラウト云フコトハ、本員ハ大體ニ於テサウ考ヘテ疑ハヌノデアリマスガ、山本内閣ガ實ニ汗水ヲ流シテ此行政整理ヲ爲シテ絞リ出シタ金デアリマス、ソレハ軍備充實ヲ目的トシテヤツタコトデアルガ、其軍備充實ト云フモノハ前途ドウナルノデアルカ、其費用ハ如何ニシテ供給スルノデアルカト云フコトハ、本員等ハ豫算ヲ請取ツテ以來講究シテ居ルケレドモ、未ダドウナルト云フコトノ考ヲ定メルコトガ出來ナイノデアル、然ルニ裁判所ハ必要デアル、便利デアル、斯ウ云フノデ先キノコトハ極メズシテ先づ裁判所ノコトヲ圖ラルト云フノハ或ハ先代ガ辛棒シテ貯メテ置イタ金ヲ相續者ガ氣樂ニ使ツテ、且ツ將來ノコトヲ餘リ考ヘヌノデハナイカト云フヤウナ疑ヲ免レヌノデアリマスガ、此點ニ付テ大藏大臣ハ我ミガ明瞭ニ之ヲ了解スルコトガ出來ルヤウニ御説明ヲ願ヒタイト考ヘルガ、
〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（勝田主計君）唯今江木サンヨリノ御尋ハ至極御尤ナ御尋デゴザイマシテ、財政經畫ノ將來ニ關シマシテ政府ハ大體ニ於テ相當ナ豫見識見ヲ有ツテ居ラナケレバナラヌト云フコトガ、詰リ根本ノ要義ヲナシテ居ツタヤウニ考ヘラレマスルガ、其點ニ付テハ至極御尤デゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク現内閣ガ成立イタシマシテ、其當初ニ於キマシテハ前内閣ニ於キマスル所ノ豫算ヲ踏襲スルノ已ムヲ得ザル狀態デゴザイマシタ、其後唯今此特別議會ヲ開イテ居リマスルガ、此議會ニ於キマシテモデス、御承知ノ通リニ種々ナル將來ニ瓦ル經畫ヲ致シテ、之ヲ提出スルト云フ性質ノモノデモゴザイマ

セヌデ、ソレデ先ヅ緊急已ムヲ得ザルモノヲ拾上ゲテ此處デ皆サンノ御協賛ヲ經テ居ルト云フ場合デアリマスルノデ、此豫算ヲ編製シマスル場合ニ於テ

モ將來ノコトニ付テ考ヘスト云フコトデハアリマセヌガデス、免ニ角現内閣

ト致シマシテ豫算ヲ本當ニ編製シテ斯様ナ方法デ將來ハ斯様ニヤルト云フコトハ七年度ノ豫算ヲ編製スル場合デナケレバ甚ダ困難ナンデアリマス、詰リ

御話ノ如クニ此海軍ノ物價騰貴ノ問題デアルトカ、或ハ是以上ノ尙ホ國防ノ

問題デアリマスルトカ、或ハ其他國力ノ發展ニ必要ト致シマスル問題デアリ

マストカ、各種ノ時局並ニ我國ノ將來ニ適應スベキ所ノ問題ガデス、アルダ

ラウト考ヘテ居リマスノデ、是等ノ問題ヲ詰リ此七年度ノ豫算ヲ要求イタシ

マスル場合ニハ能ク研究調査ヲ致シマシテ、サウシテ此財源ノ振當テラシ、

或ハ其場合ニ適當ナル財源ヲ求ムルコトノ必要ノアリマスルモノハ其方法手段ヲ講ジマスルシ、或ハ不必要ナル政費ガアリマスレバ是亦相當ニ整理イタシマスルト云フヤウナコトデ、此場合ニヤラナケレバドウモ今日ヨリ致シマシテ豫メ之ヲヤルト云フコトハ餘程困難ナル事情ガアルト云フコトハ、是ハ

江木君モ御諒察下サルコトデアラウト私モ考ヘマスルノデス、ソレデ決シテ

政府ハ放漫ナルヤリ方ハ致シテ居リマセヌノデ、一旦此行政整理ニ於キマシテ整理サレタルモノヲ復活イタシマスルヤウナ場合ニ於キマシテモ、餘程慎重ナル考慮ヲ詰リ費シテ居リマスルノデ、御承知ノ通リ行政整理ヲ致シマシ

タ時ノ其事情並ニ其時ノ各種ノ狀況ト今日トハ又餘程趣ラ異ニシテ居リマスルノデ、今日ハ此臨時事件等ノ爲ニ各般ノ方面ニ於キマシテ色々此復舊ヲ要

シマスルヤウナ事柄ガアリマスルノデ、左様ナコトハ非常ナル必要ノアル場合ハデス、是ハ特ニ矢張リ認メマセヌト云フト國家ノ詰リ行政ヲシテ行キマスル上ニ付テ其進行ガ鈍ルト云フコトニナリマスルカラ、已ムヲ得ズ詰リ復活ヲ致シテ居ル次第デアリマシテ、唯漫然ト之ヲ復活ヲ致スト云フヤウナヤリ方ハ決シテ致シテ居リマセヌノデアリマス、尙ホ特ニ此裁判所ヲ復活イタスト云フコトニ付キマシテノ其必要ナル理由ハ是ハ寧ロ私ヨリ述ベマスルヨリハ、司法當局ヨリ致シテ詳シク御説明ニナル方ガ適切ニ要領ヲ得ラレルト私ハ考ヘマスルノデ、大體財政ノ當局ト致シマシテ考ヘテ居リマスル次第ハ大體右ノヤウナ事柄デアリマスカラ、左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○江木千之君 委細ハ豫算委員會ノ節ニ御尋ネスルコトニシマシテ質問ハ是デ打切ッテ置キマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

裁判所ノ設立ニ關スル法律案外一件特別委員

伯爵吉井 幸藏君子爵勘解由小路資承君 子爵松平 直德君

男爵新田 忠純君 男爵二條 正麿君 森山 茂君

加太 邦憲君 古賀廉造君 江木 翼君

○議長(公爵徳川家達君) 休憩ヲ宣告イタシマス

午前十一時五十六分休憩

午後一時九分開會

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、日程第十三、北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律案

北海道拓殖事業促進ノ目的ヲ以テスル鐵道建設ノ爲帝國鐵道會計法第二條

第一項ノ規定ニ依リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲ストキハ豫算ノ定ムル所ニ依リ其ノ利子ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ北海道拓殖費ヨリ支出スルコトヲ得

○國務大臣(男爵後藤新平君) ズニ提出ニナリマシタ、北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律案ノ大要ノ説明ヲ申上ゲマス、北海道ノ拓殖ノ計畫……十五年計畫ナルモノハ既ニ御承知ニナツテ居ル通りデゴザイマスルガ、是ハ明治四十三年ノ所定ニ係ツテ最早七箇年ヲ經過イタシテ居リマス、其實績ハ豫期ノ如クナリマセヌ、依ツテ此度改正ヲ加ヘテ拓殖ノ進捗ヲ計ラウト云

フコトニナリマシテ、殊ニ交通ノ機關ノ整備ハ此拓殖ノ進捗ヲ計ルノニ最モ

必要デアルト云フコトニ相成リマシタ、然ルニ其鐵道院ノ計畫ニ依リマスト

根室外二線ノ鐵道院ノ計畫ハ大正十五年ニナラヌケレバ著手が出來マセヌノデアリマスガ、之ヲ線上グマシテ著手ヲナシ、又新タニ旭川線外四線ヲ加ヘテ拓殖ニ便ズルヤウニシヤウト云フコトニ相成リマシタ、此成功ヲ大正十年度ヨリ十三年度ノ間ニ進行スルヤウニ致シマシテ、其線上ノ爲ニ生ズル所ノ利子ハ北海道ノ拓殖費ヨリ特別會計、即チ鐵道ノ特別會計ニ補フコトニナリマシタ、サウシテ速成イタサウト云フノガ本案ノ趣旨デアリマス、要スルニ鐵道院ノ計畫ニ依リマスト早ク著手スルコトノ出來ナイモノヲ北海道ノ拓殖ノ爲ニ特ニ拓殖ノ鐵道即チ輕便鐵道ヲ架設イタシマスルニ付キマシテハ、ソレダケ早ク成功スル年限ノ間ニ要スル利息ヲ拓殖費用ヨリ支辨シヤウト云フコトノ爲ニ此法律案ヲ提出イタシマシタ、御協賛ヲ得タ上デ遂行イタシタイト云フノデアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長（公爵徳川家達君）特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀セシメマス

〔成瀬書記官朗讀〕

北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律案特別委員

伯爵清棲家教君 子爵伊東祐弘君 江木千之君

岡喜七郎君 渡正元君 男爵外松孫太郎君

男爵千秋季隆君 西久保弘道君 木本源吉君

輕便鐵道補助法中改正法律案特別委員
〔成瀬書記官朗讀〕

子爵酒井忠亮君 子爵野村益三君 黒岡帶刀君

男爵竹腰正己君 男爵藤大路親春君 男爵岩倉道俱君

江原素六君 石橋謹二君 星島謹一郎君

輕便鐵道補助法中改正法律案

○議長（公爵徳川家達君）日程第十四、輕便鐵道補助法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

輕便鐵道補助法中改正法律案

第三條 第一條ノ補助金ノ年額ハ最高百五十萬圓トス

附則

本法ハ大正六年度ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○政府委員（男爵後藤新平君）茲ニ提出ニナリマシタ輕便鐵道補助法中改正ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、此輕便鐵道補助法ハ御承知ノ通り、制定イタシテシテカラ今日マデ其儘ニナツテ居リマシテ、何等改正ヲ加ヘマセヌ、併ナガラ法律ノ一部ハ改正セラレマシテ補助ノ年限ガ倍ニナツテ居リマス、五年ノ補助年限ノモノガ十年ニナリマシタ、而シテ其補助ノ金額ハ今日マデ改正セラレヌ

デアツタノデアリマス、然ルニ此補助法案ガ出マシタ當時ニ於テハ此百二十五万圓ノ金額デハ到底補助ニ足リナイデアラウ、澤山願ヒ出テ來ルデアラウト云フ考デアリマシタガ、却ツテ法律ノ改正ニ於テ餘リニ嚴ニ過ギタ爲ニ補助ヲ願ヒ出ヅル者ガ少イト云フノデ、目的ヲ達スルコトガ出來マセヌノデアリマシタカラ、五年ヲ七年ト致シ其計算法等ニ付テ多少ノ修正ヲ加ヘマシテ、唯トハ當然ノコトデアリマスカラ、必要ニ追ツテ居ルガ爲ニ本案ヲ提出シタノデアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長（公爵徳川家達君）特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔成瀬書記官朗讀〕

輕便鐵道補助法中改正法律案特別委員

子爵酒井忠亮君 子爵野村益三君 黒岡帶刀君

男爵竹腰正己君 男爵藤大路親春君 男爵岩倉道俱君

江原素六君 石橋謹二君 星島謹一郎君

輕便鐵道補助法中改正法律案

○議長（公爵徳川家達君）日程第十五、軍人恩給法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

軍人恩給法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

軍人恩給法中改正法律案

〔小字ハ衆議院ノ修正、
ハ同削除ノ符號ナリ〕

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第十條中「軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階」ヲ「第六條ニ依ル官階」ニ改ム

同條第一號中「戰闘ノ爲」ヲ「戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム
第十四條第一號中「戰闘ノ爲」ヲ「戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム

第十五條中「前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ」ヲ「現役ヲ離レタルトキ」ニ改ム

第十八條中「海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒」ヲ「及海軍水雷夫」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ又ハ屯田兵村監視若クハ屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數

第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 戰死シ又ハ戰闘若クハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ノ爲メ死歿シタルトキ

第二十七條ノ二 第十條、第十四條及前條ノ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ニ關シテハ勅令ノ定ム
ル所ニ因ル

附 則

本法ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條第八號ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レ又ハ現役中死歿シタル者ニモ之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ該當スル者又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際本法規定ノ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケサル者ニハ本法施行ノ日ヨリ

本法規定ノ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ給ス

本法施行ノ際退職恩給又ハ免除恩給ト増加恩給トヲ併セ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法規定ノ金額ヲ受ケサル者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス

本法施行ノ際扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法規定ノ金額ヲ受ケサル者ニハ大正九年一月一日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス但シ下士以下ノ者ノ遺族ニハ本法施行ノ日ヨリ大正七年十二月三十一日迄ハ本法施行前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額トノ差額三分ノ二ヲ併給シ准士官以上ノ者ノ遺族ニハ大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三十一日迄ハ本法施行前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ金額トノ差額二分ノ一ヲ併給ス

一、大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額三分ノ二ヲ併給シ准士官以上ノ者ノ遺族ニハ大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三十一日迄ハ本法施行前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ金額トノ差額二分ノ一ヲ併給ス

本法規定ノ金額トノ差額二分ノ一ヲ併給ス
ノ金額ヲ受ケサル者ニハ大正十一年一月一日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス但シ大正八年一月一日ヨリ大正八年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ二、大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ二、大正十年一月一日ヨリ大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ二、大正十年一月一日ヨリ大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ四

依リ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額○二分ノ一、大正九年十二月三十一日ヨリ大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ四

ヲ併給ス

前三項ノ場合ニ於テ陸軍卒ニ付テハ陸軍一等卒ノ額ニ依ル

第四項乃至第六項ノ規定ハ第三項ノ規定ニ依リ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ給スル者ニ之ヲ適用セス

本法施行ノ際陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭斂並ニ其家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ第四項乃至第六項ノ規定ニ準シ本法規定ノ金額ヲ給ス

前項ノ規定ニ依リ退隱料又ハ恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ遺族ニハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五項又ハ第九項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ニ付テハ第五項ノ規定ヲ準用ス

第三項ノ規定ニ依リ新ニ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケムトスル者及第三項乃至第六項又ハ第九項ノ規定ニ依リ金額ノ増加ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ七年内ニ之ヲ請求スルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス但シ大正九年一月一日以後ニ於テ轉給ヲ受ク

ヲ拋棄シタルモノトス
第十項又ハ第十一項ノ規定ニ依ル扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ハ轉給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年内ニ金額ノ増加ヲ請求スルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス但シ大正九年一月一日以後ニ於テ轉給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔國務大臣大島健一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（大島健一君） 軍人恩給法中ノ改正案ハ先年來本議院ニモ提出セラレマシテ皆サンモ御承知ノコトト存ジマスル、一應簡單ニ改正スベキ點ヲ申述ベマス、此案ノ改正スベキ點ハ三ツデアリマシテ、從來各種ノ恩給額ハ屢改正セラレマシテ順次殖エテ參リマシタ故ニ、目今恩給ヲ受ケテ居ル者ガ各種ノ恩給ヲ受ケテ居ルト云フ有様デ、之ヲ現今ノ恩給額ニ一樣ニ支給ヲノデ、一時ニ此資源ヲ見出スコトガ出來マセヌノデ、五箇年ニ亘ルテ最初ハ不具廢疾者、次ニ下士以下ノ遺族扶助料、次ニ准士官以上ノ遺族扶助料ト云フ順序デ、低イ程度ヨリ先ニ支給スルコトニ致シタイト云フノデゴザイマス、ソレカラ今一ツハ豫備屯田兵村ニ勤務ヲ致シマシタ豫備屯田兵ノ者ガ尙ホ若干殘ツテ居リマス、ソレ等ノ中屯田ノ業務ヲ擲ツテ其兵村ニ於ケル兵村監視若クハ部隊附等ヲ現役ノ者ト共ニヤッテ居ル者ガアリマス、人員ハ僅デアリマシシ、金額モ僅ニ二千圓ヲ支給シテ……以内ノモノデアリマス、是ハ全ク現役者ト同ジ軍務ニ從事シタモノデアルカラ、ソレノ服役年限ヲ恩給ノ中ニ加へ算シテヤルト云フコトニ改メタ、最後ニ戰傷若クハ公務ニ依リマシタ傷痍ノ程度ニ依リマシテ增加恩給ヲ支給シ、若クハ救恤金モ與ヘマス、其程度ヲ策定シマスノヲ負傷當時ノ階級ニ依ルコトニナツテ居リマシタガ、實際其傷痍者ガ職務ヲ離ル、時ノ官等ニ依ツテ恩給ト共ニ之ヲ調査シ策定スルノヲ至當ト認ヌマシテ、職務ヲ離レル時ノ官等ニ依ルコトニ改メマシタ、此三點デゴザイマス、ドウカ御審査ノ上御協賛ヲ賜ハラムコトヲ願ヒマス

○江木千之君 一應政府委員ニ承ハリタイト思ヒマス、其上デ尙ホ當局大臣ニ質問ヲ致スコトガアルカモ知レマセヌ、今度改正案ニ依リマシテ例ヘバ下士ノ者デ一ツ承ツテ見タイノデアリマスガ、現行法ニ依ルト下士ノ廢兵タル者、或ハ兩手ヲ失ツテ居ル者、或ハ兩足又ハ一本足ヲ失ツテ居ル者、斯ウ云フ者ニ支給サレル恩給ノ額ハ退職恩給ト増加恩給ヲ合シテ之ヲ月額ニスルト凡ソ十四圓足ラズニナルヤウニ考ヘマスガ、果シテ此改正案ニ依ツテモ其通りアルカト云フコトヲ確メテ置キタイ、一年ニ六十圓ニ八十圓カ、六十五圓ニ八十五圓デアリマスカ、免ニ角一箇月ニ割ツテ十四圓足ラズニナルカト云ヘル、ソレカラ尙ホ此廢兵ニ對シテハ 皇后陛下ノ厚キ思召ニ依ツテ義足ヲ賜ツテ居ル、此義足ハ之ヲ頂戴シタ者ガ實際ニ用ヒテ居ル者ガ幾何、何割位アルト云フコトハ御調ベニナツテ居リマスカ、本員ノ見ル所デハ之ヲ用立テテ步

行シテ居ル者ハ誠ニ小部分ノ者ノヤウニ思ハレル、ナカク此チヨツト義齒ヲスルニモ型ヲ取ツテ嵌メルヤウニシテモ齒ハ能ク適當シナイ、軍醫ガ寸法ヲ取ツテ吳レタ、其寸法デ義足ヲ造ツテ見タ所ガナカク能ク是ハ適當スルモノデハナイ、頂戴シタ義足ハ誠ニ有難イコトデアルト言ツテ床ニ飾ツテ居ル者ガ多數アルヤウニ考ヘル、之ヲ實際ニ用ヒテ步行ノ用ニ供シ、或ハ義足ノアル爲ニ多少ノ職業ヲ營ムコトガ出來ルト云フヤウナ者ガ凡ソ何割ニナツテ居ルカト云フコトヲ先づ伺ヒタイト考ヘル

〔國務大臣大島健一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（大島健一君） 江木君ノ御質問ニ御答イタシマス、唯今ノ、第一ノ御質問ノ兵ノ給與額ガ之ニ依ツテ變ルカドウカト云フ御尋デアリマシタガ……

〔江木千之君「之ニ依ツテ月額ガ幾ラニナルカ」ト述フ〕

各種ノ等級ガアリマスガ、陸軍二等卒デ恩給ガ六十圓、ソレカラ此増加恩給ニナリマスト御承知ノ通リ各項ニ依ツテ違ツテ居リマスガ、其一番低イ一肢ヲ失ウタニ等シキ、即チ一肢ヲ失ウタ者ニ準ズベキモノガ二十四圓、ソレカラ其第一項ノ兩眼ヲ盲シ若クハ兩肢ヲ失ツタト云フヤウナノハ八十三圓ト云フモノニナツテ居ル、合セテ百四十三圓ト云フモノニナリマス、是ハ何カ表デデモ差上げルコトニ致シマス、各階級ガアリマス……

〔江木千之君「イヤ一例ヲ舉ゲレバ宜イ」ト述フ〕

ソレハ兵ノ眞中ノ所ヲ申上ゲマシタ、ソレカラ 陛下ヨリ賜ツタ所ノ義足ト云フ御話、是モ私ハ能ク調べテ居リマセヌ、相濟マヌコトデアリマス、全國ニ他ニ又造ツテ持ツテ居ルカト云フコトハ實ハ私ハ此處デ御答ヘスルダケノ材料ヲ持ツテ居リマセヌ、私ノ所デハ或ハ調查ガアルカモ知レマセヌ、一應調べマシテ御返事ヲ致スコトニ致シマス、私モ床ノ間ニ置イテアルト云フヤウナ話ハ聞イタコトハアリマス、或ハ非常ナ仁慈ニ感ジテ用ヒズニ仕舞ツテ置クト云フヤウナ者ガアルヤウニ、ソンナコトヲ聞イタ時ニハ、思ツテ居ツタガ、今シテ御返事ヲ致スコトニ致シマス、唯今回ノ戰役ニスケレドモ、尙ホ一應取調ベテ御返事ヲ致スコトニシマス、

スケレドモ、尙ホ一應取調ベテ御返事ヲ致スコトニシマス、

ハ御承知ノ通り、爾來醫學其他機械學ノ進歩ニ依ツテ、非常ニ立派ナ義足其他ガ出來テ居ルト云フコトモ承知イタシマシテ、研究モ致シテ居リマス、自然

將來ニハ是等モ良クナリマセウ、今迄トハ違ヒマセウガ、今迄ノ狀況ハ何トモ申上ゲルコトハ出來マセス、調べテ申上ゲマス

○江木千之君 今御答ニ依ツテ見マスルト、本員ガ記憶シテ居ル所ト違ハヌヤウデアリマシテ、下士ニシテ兩方ノ恩給ヲ合シテ一本足或ハ二本ノ足ノナイ者、兩手ノナイヤウナ者カ受ケル所ノ恩給ハ、十四圓ニ足ラナ位ノモノデアルノデアリマス、是ハ不具者デナケレバ決シテ其味ヒハ分ラヌモノデアルマスガ、見タ所デハ義足デモ穿ツテ歩イテ居レバ、是ハ完全ナモノヲ用ヒテ居ルカラ歩ケルノデアリマス、下士以下ノ者デ立派ナ義足ナドヲ有ツテ居ル者ハナイ、終身其身體ニ困ツテ居ル、ソレガ僅ニ十圓餘リデ生活ヲ立テナケレバ、ナラス、是ハ到底其扶助者ガナクテ長ラヘテ行クコトハ出來ナイモノデアル、坐ツテ居ルノニ飯ヲ注ギ込ンデヤレバ數月數年間ハ生キテ居ルカモ知ラヌガ、中々生存シテ行クト云フコトハムヅカシイノデアル、一人ノ介抱人ヲ雇フトレバ、是ハ貴族ガ雇フノモ、貧乏人ガ雇フノモ、人一人雇フノハ大シタ違ヒハナイ、同ジャウニ費用ハ掛ルノデアル、十餘圓ヲ以テ到底是ガ永ラヘテ行クト云フコトハムヅカシイノデアリマス、本員ガ考ヘル所デハ、少クトモ一箇年三百圓、月ニ二十五圓位ノ金ガナクテハ追モ永ラヘテ行クコトハ出來

マイト考ヘルノデアルガ、ソレガ誠ニ憫レナ有様ヲシテ居ルノヲ見ルト、雷ニ本人ガ國家ノ爲ニ負傷シタコトハ本人ハ憾トシナイカ知ラヌガ、之ヲ見ル一般ノ者ハ之ヲ以テ何ト考ヘルカ、或ハ之ヲ見テ戒ニシハシナイカト考ヘル、兵役ハ國民ノ義務デアルカラ無論兵役ニハ就ク、ケレドモ戰爭デ遇ツテ負傷シタナラバ目ノ前ニ見ル某ノ如キ有様、終身ヲ終ヘニヤナラヌト云フコトヲ見テ、果シテ此一般ノ士氣ヲ獎勵スルコトガ出來ルカ、或ハ反對ニ是ガ國民ノ戒ニスルヤウナコトニナリハシマイカ、ト云フコトヲ本員ハ憂ヘルノデアルガ、之ニ今少シ費用ヲ増シテヤルト云フコトハ、殆ド財政上ノ問題デハナク、誠ニ僅ナ金デアル、唯上カラ下マデ階級的ニ算盤ヲスルト、下ノ方ヘ行クト非常ニ僅ニナルノデアルガ、上ノ方マデ増セトハ本員ハ決シテ申サヌノデアル、下ノ方ノ部分デ、兵ナリ下士ナリ、苟モ不具者ガ存在シテ行クダケノ費用ヲ給スルト云フコトハ、國家ノ義務デハナイカト本員ハ考ヘル、且又將來ノ爲ニ甚ダ一般ノ者ノ戒ニナルト云フガ如キコトヲシテ置クノハ、甚ダ宣シクナイト考ヘルノデアリマスルガ、別段サウ金ノ問題トハ考ヘマセウガ、當局大臣ハ此際モウ一步進ンデ之ヲ改正スルノ御意見ハナイノデアリ

マセウカ、此事ヲ承ハリタイノデアリマス、ソレカラ義足ノコトニ付テハ十分ノ御調べガ付イテ居ラヌト云フコトデアリマスナラバ、強ヒテ今ソレヲ御尋スル譯デハアリマセスガ、是ハ本員ガ見ル所デハ、足ニ合ハヌモノガ……ウデアリマシテ、其恩給ニ掛ツテ居リマスルモノガ……丁度唯切斷口ニ合ハヌモノガ多イ、ソレハ殆ド用ヲ爲サヌ、足ハ入齒ヲ爲サツタ御方ニハ、義齒ヲ拵ヘルニ付テノ御經驗デ能ク分ラウト思フガ、齒デスラ其通常カル、步ケルノデアリマス、下士以下ノ者デ立派ナ義足ナドヲ有ツテ居ル者リデアル、此重イ體ヲ持タシテ行ク所ノ義足ガ合ハヌトナレバ、逆モ一步モナクコトハ出來ナイノデアリマス、餘ホド是ハツライ、デ之ヲ折角ノ恩賜ガ用ニ立ツヤウニナサラヌ、現ニ本員ガ承知シテ居ル將校ニシテ義足ガ不十分デアルノデ松葉杖ヲ以テ運動ヲスルガ、晝間外出スルト子供ガ集ツテ見ル、一本足ダト言ツテ子供ガ澤山附イテ來ルカラ、ソレヲ厭ウテ夜分運動ヲシテ居ルト云フ有様デアル、是ハ國家ノ爲ニ犠牲ニナツタ者ガサウ云フ有様デ居ルト云フ有様デアル、是ハ國家ノ爲ニ犠牲ニナツタ者ガサウ云フ有様デ居ルト云フ有様デアル、是ハ國家ノ爲ニ犠牲ニナツタ者ガサウ云フ有様デ居ルト云フ有様デアル、是ハ國家ノ爲ニ犠牲ニナツタ者ガサウ云フ有様デ居ルト云フ有様デアル、是ハ國家ノ爲ニ犠牲ニナツタ者ガサウ云フ有様デ居ルト云フ有様デアル、是ハ國家ノ爲ニ犠牲ニナツタ者ガサウ云フ有様デ居ルガ、尙ホ此金額ニ付テハ今少シ御奮發ガ出來ヌモノデアルカト云フコトヲ、當局大臣ノ御意見ヲ承ハリタイ

〔國務大臣大島健一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(大島健一君) 江木君ノ御尋ニ御答ヲ致シマス、廢兵其他ノ者ニ恩給ヲ與ヘルト云フコトハ國家ノ義務デアル、因ツテ相當ニ生活ノ出來ル程度マデ此金額ヲ上ダル必要ガアルト認メル、大臣ハ何ト思フカ、斯ウ云フ御質問ノヤウニ拜聽イタシタ、至極御尤ノ御立論ト思ヒマスル、併シ今回ノ恩給法ノ改正ハ、現行ノ額ヲ上ダルト云フコトニ非ズシテ、現行改正以前ノ、各種異ツテ居ルモノヲ統一シテ、今回ノニスル、即チ高メルコトニハナリマスルガ、同ジク國家ニ盡シタモノニ、各種ノ恩給、即チ其當時ノ規定ニ依ツテ各種變ツテ居ルト云フコトハ、平衡ヲ得ヌ規定デアルト云フノデ、現行ノモノニリマスルガ、之ニ今少シ費用ヲ増シテヤルト云フコトハ、殆ド財政上ノ問題デハナク、誠ニ僅ナ金デアル、唯上カラ下マデ階級的ニ算盤ヲスルト、下ノ方ヘ行クト非常ニ僅ニナルノデアルガ、上ノ方マデ増セトハ本員ハ決シテ申サヌノデアル、下ノ方ノ部分デ、兵ナリ下士ナリ、苟モ不具者ガ存在シテ行クダケノ費用ヲ給スルト云フコトハ、國家ノ義務デハナイカト本員ハ考ヘル、且又將來ノ爲ニ甚ダ一般ノ者ノ戒ニナルト云フガ如キコトヲシテ置クノハ、甚ダ宣シクナイト考ヘルノデアリマスルガ、別段サウ金ノ問題トハ考ヘマセウガ、當局大臣ハ此際モウ一步進ンデ之ヲ改正スルノ御意見ハナイノデアリ

ガ、人員卽チ戸數ニナリマスガ……此所デ私ガ申スノハ戸數、二人一家カラ出テ居リマスノハ矢張リ二人デ一戸ニナリマスガ、十九万軒ノモノガアル、是ガ今度増加スル方ニナルノデ、其外ノモノガマダアラウト思ヒマス、非常ナ數ノモノデ、之ニ僅カ百圓増シマシテモ非常ナ増加ニナルト云フヤウナコトデ、是ニハ十分ノ財源ヲ得スケレバ直チニ實行ハ出來ヌコトト考ヘテ、唯今研究イタシテ居リマス、今回ノハ現行ノ額ヲ増スト云フ考デナシニ、前申ス通リ現行ノ額ヲ一樣ニシヤウト云フノデ、改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、今回他ニ出マス所ノ軍事救護法案ニ依ツテ、非常ナ悲慘ナ状態ニアル者ヲ救フト云フコトヲ一方ニハ方法ヲ執ツテ居リマスノデ、不具廢疾者ソレ等ノ遺族等ヲ調ベマシタ所デハ、相當ニ財産ヲ持ツテ居リマシテ、中ニハ百万圓以上ノ財産ヲ持ツテ居ル者モ若干アリマス、一万圓以上位ノ財産ヲ持ツテ居ル者ハ可ナリアリマス、ソレデ救護セヌナラスト云フモノガ二万軒バカリノ者デ、他ノ案ハ提出シテ居リマス、國家ノ義務カラ言ヘバ、一番低イ者ガ全ク恩給デ生活ガ出來ルト云フコトヲシテヤラネバナラヌガ、ソレハ唯今申スヤウニ非常ナ金ヲ要シマス、已ムヲ得ズ財産ノアル者モアルカラシテ、國家ハ最モ悲慘ナ状態ニアル者ヲ先ヅ扶助セヌケレバナラスト云フノデ救護法案ガ出マシタ次第デゴザイマス、江木君ガ唯今御話ニナリマシタヤウナ、非常ナ悲慘ナ状態ニアリマス者モ、アノ法案ガ出マシタナラバ、アレニ依ツテ一時ハ凌ガレルト云フコトニナラウト思ヒマス

○男爵石黒忠憲君 唯今江木君ノ御質問ノ中ニ皇后陛下カラ賜ッタル義手義足ノ中ニ役ニ立タヌモノモ混ツテ居ルカノ趣ガ御質疑ノ中ニ出マシタ、之ニ對シテハ雷ニ陸軍大臣ノミナラズ、陸軍ノ數輩ノ政府員ガ居ラレマスニ何カ一言御答ノアルコト信ジテ居リマシタガ、豈計ラムヤ之ニ對シテハ調査ヲシテ御答ヲスルト云フコトデ、誠ニ驚キ入ッタル御答ト本員ハ存ジマス、ドウデゴザイマセウ、抑

皇后陛下カ我ガ軍人ノ四肢ヲ失ッタ者ニ義手義足ヲ賜ハリマシタノハ、明治二十七八年ノ役ガ最初デアリマス、其砌ニハ本員モ軍務ニ從事イタシテ居ツタノデ、此事ニモ關係イタシテ居リマスガ、或ハ國費デ義手義足ヲ……

○議長(公爵徳川家達君) 石黒男爵ニ伺ヒマスガ、政府ニ質問ヲ御試ミニナルノデアリマスカ

○男爵石黒忠憲君 質問デゴザイマス……去ナガラ特ニ皇后陛下ノ御手許カ

特ニ陸軍デモ軍醫ヲシテ、一々手足ノ寸尺ヲ能ク正シ作ラセマシタル義手義足ヲ賜ハリマシタ、成ル程外國ノ例モゴザイマスガ、廢兵ニ供シマス義手義足ハ極メテ精巧ノモノハ給シテゴザイマセヌ、單純ニシテ修復ガシ易イ、而シテ便利ナルモノガ選ンデゴザイマス、ソレヲ此陛下カラ賜ハリマシタ、尤モ此義手義足ナルモノハ、今日出來マシタモノガ、來年モ宜シイ、再來年モ宣シイト云フモノデハゴザイマセヌ、人間ハ肥エル者モアリ瘠セル者モアリマス、本員ノ如ク老骨イタシマスト、腰ノ曲ル者モ出テ參リマス、故ニ一度付ケテヤレバ萬歳死ヌマデ役ニ立ツモノデハゴザイマセヌ、然ルニ昭憲皇太后陛下ガ再度思召ヲ賜ハッタ時ハ、實ニ私ハ涙ヲ流シテ恐入リマシタ、ソレハ義手義足ヲ賜ハリマシテ十何年カ後ニ於テ、陸軍當局者ヲ召サレテ、前ニ賜ッタ義手義足ガ、其中ニハ肥エタ者モアラウガ瘠セタ者モアラウ、現今ハ是ガ適スルカドウカト云フコトヲ御尋ニナリマシタ、是ハ全ク昭憲皇太后陛下ノ思召デ其御問ガ出マシテ、サウシテ陸軍當局者ハ爲ニ軍醫ヲ處々方々ニ派シテ、其義手義足ノ適合シテ居ルカ不適合デアルカト云フコトヲ一々質シテ、其思召ヲ以テ或ハ短クシ或ハ長クシテ適合セシメタ所ノ例モゴザイマス、斯ク質問ニ對シテ一言御報道ノナイノハ、本員頗ル怪訝ニ堪ヘマセヌ、現總理大臣ハ其砌陸軍大臣デ入ラッシヤッタラウト思フ、何故斯ノ如キコトガアッタノニナゼ御一言ノ報告ヲナラレヌカ、一々之ヲ質シタナラバ不適合ナモノモアラウガ、昭憲皇太后ガ賜ッタ義手義足ニハ、斯ノ如キ思召ヲ深ク繫ケサセラレタト云フコトガ一言モナイノハ如何ナ譯デアリマスカ、質問イタシマス

〔國務大臣大島健一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(大島健一君) 石黒男爵ノ御言葉ニ御答ヲ致シマス、不肖大島ハ實際承知ヲ致シテ居ラナカツタノデアリマス、誠ニ相濟マヌコト思ヒマス、併シ先程申シタ如ク私ノ所ノ専任ノ局ノ者ハ相當ニ知ツテ居リマセウト思ヒマス、取調ベテ御返事ヲシヤウト云フコトヲ申シタノデアリマスカ、質問イタシマス申サナカツタデゴザイマスガ、唯今石黒男爵ノ御話ノ如ク人ニハ時ニ依ツテ肥瘠ガアリ、又或人ハ先程モ申上ゲタ如ク一万以上ノ身代ヲ持ツテ居ル者モ少クナイノデアリマス、例ヘバ不肖大島ガ足ガ一ツナイト云フ場合ニ賜ッタラ、私實ハ缺メナイノデアリマス、ソレ等ハ能ク調ベタ上デ御返事申上ゲヤウト

思ッタノデアリマス、百万ノ身代ヲ持ッテ居リマシテ、義足ヲ頂戴シテ嵌メヤウトハ思ハヌノデアリマス、是モ能ク調べテ御返事ヲ致シマス、知ラヌト云フコトハ甚ダ私ハ相濟マヌト思ヒマスガ、事實知ラナイノデアリマス、左様御答ヲ致シマス

○男爵石黒忠惠君 唯今ノ陸軍大臣ノ御答デ分リマシテゴザイマス、右ノ昭憲皇太后陛下ノ厚キ思召ヲ以テ、一度嵌メマシタ義手義足ヲ更ニ調査ニ相成リマシタ時ノ報告ヲ、ドウカ審ニ議場ニ陸軍大臣カラ御報告アルコトヲ希望イタシマス、ト云フノハ其中ニ一度義手義足ヲ賜ツテ、ソレヲ自分デ綴クリマシテ「ブリキ」デ闕ケタノヲ繕ヒ、革ノ剥グタノヲ繕ヒマシテ、兩足ニ嵌メシテ、日々行商シテ居ツタ龍泉寺町筆屋某ノ義足ヲ見マシテ私ハ落涙イタシマシタ、ソレヲ香川皇后宮太夫ノ手ヲ以テ、ソレヲ陛下ノ御覽ニ入レマシタコトガアル、ソレ等モ審ニ御調ニナレバ、賜ハリマシタ義足ヲ下層ノ者ガ如何ニ使用シテ居ルカト云フコトニ於テ、如何ニ恩恵ニ浴シテ居ルカハ審ニ分リマス、偶ニ一本ヤ二本ノ使ハナイ者ヲ見テ、陛下ノ賜ツタ所ノ義手義足ガ高閣ニ束ネラレルト云フヤウナ感ジハ全ク拭ヒ去ル程ノ證據モアリマスカラ、審ナル御報告ヲ今ヨリ希望イタシテ置キマス

〔國務大臣伯爵寺内正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵寺内正毅君) 餘計カモ知レマセヌガ一言石黒男爵ニ御答イタシマス、二十七八年ノ戰役後、三十七八年ノ戰役後、又三十三年、ソレ等ノ間ニ於テ負傷者ニ皇后陛下ヨリ賜ハリマシタ義足ノコトニ付テ、皇后陛下ヨリ屢々御軫念ノ在ラセラレタコトモ承知シテ居リマス、私ハ大體ニ於テ二十七八年三十七八年ノ戰役ノ調査ニ關係シタコトハ、私ガ陸軍當局者ト致シマシテ、陸軍ノ方ハ扱ヒマシタカラ……尤モ二十七八年ハ陸軍ノ首腦部ニ居リマセヌガ、大體ハ承知シテ居リマス、唯今石黒男爵ノ御話ノ昭憲皇太后陛下ノ厚キ御仁慈ハ能ク承知イタシテ居リマス、併シ今日ハ直チニ飛出シテ御返事ヲシマセヌノハ、陸軍大臣ガ主宰シテ居リマス、取調べテ御返事ヲスルト云フコトデゴザイマシタカラ控ヘテ居リマシタガ、此點ハ能ク承知シテ居リマス、又義足モ人ニ依ツテハ有難ク感ジテ用ヒズニ床ノ間ニ置イタノモアリマス、又用ヒラレナクテ置イタノモアリマスガ、其當時陸軍ノ人ヲ出シテ調ベタコトモアリマス、又其地方ノ軍事當局者ヨリ報告ヲ承ハリマシテ取寄セテ直シ、或ハ向ウヘ入ヲヤツテ直シタコトモアリマス、單ニ唯今江木君ノ仰

シャルヤウニ總テガ役ニ立タヌモノヲシタト云フコトハナイノデアリマス、初メニハサウ云フモノモアリマシタ故ニ、イロ／＼上ニ於テモ御心配ヲ懸ケタコトモアリマス、段々サウ云フ所ヘ注意ヲシマシテ、其邊ニ付テハ一通り行届イテ居リマス筈デアリマス、是ダケ申シマス

○江木千之君

唯今總理大臣ノ御言葉ニ、江木君モ申サレタ如ク總テガ役ニ

立タナカッタ、斯ウ云フコトガアリマシタガ、本員嘗テ斯ノ如キコトハ申シタコトハナインデアリマス、本員ハ常ニ此不具者デアルガ爲ニ、廢兵ナドニ直接ニハ伺ヒマセヌガ、頻ニ本員ノ所ヘハ同病相憐ムト云フ感ジガアルモノト見エマシテ、訴ヘテ來ル者ガアルノデ、承知ハ致シテ居ルノデハアリマスルガ實ハ折角賜ハル義足ニ付テモ、尙ホ之ヲ取扱フ人ニ此上ノ注意ヲ望ム點カラ本員ハ申スノデアリマスルガ、本員ハ東京ニ住ツテ居ツテ、手近ニ職人ガ居ル、ソレガ本員ノ義足ヲ作ルノニ何遍モ來テ型ヲ取り、型ヲ取ツテ又ソレヲ拵ヘテ、幾度モ手直シヲスルガ、ナカ／＼是ガ工合好クナルノハ容易ナコトデハナイ、固ヨリ恩賜ノ義足ニ於テ用ヲ達シテ居ルト云フコトハ本員地方官時代ニ於テ、日清戰爭ニ於テ賜ツタモノガ、日露戰爭後ニ更ニ賜ハルト云フコトモアツテ、其職務トシテソレヲ取扱ウタコトモアルノデアリマス、隨分職業ニ從事シテ、ボロ／＼ニナルマデ之ヲ使用シタト云フモノモ幾ラモアリマス、併ナガラ何分是ガ合ハヌト云フノデ床ニ備ヘテ置ク者モアルノデアリマス、近來此陸軍ニ於テ義足ヲ作ラル、ノニ、此前ノ軍醫學校長ナドハ参考ノ爲ニ本員ノ製造法ニ付テ調ベタコトモアル位デアリマス、是ハドウゾ私ハ十分ニ御注意ヲ願ヒタイト云フコトヲ申スノデアリマス、ナカ／＼此重イ義足デ……

或所デハ重イ方ガ宜イナドト云フヤウナコトヲ主張シテ居ル部分モアルヤウデアリマスガ、重クテ逆モ歩ケルモノデヤナイ、恩賜ノ義足ハ無論輕イノモアリマスルガ重イノモアル、併シ一貫目以上ノ物ニナルトナカ／＼步行ガ困難デ、本員ハ常ニ五百目以下ニスルヤウニ自ラ工夫シテヤツテ居ルノデアリマス、餘程工夫ヲ凝サスト是ハ用ニ立タスモノデアル、折角ノ思召ヲ空シウセヌヤウニ、此製造法ニ付テハ十分ニ注意セラル、ヤウニ希望スル餘リ申スノデアリマス、此段ハ一應總理大臣ノ今ノ御答モアリマシタカラ、決シテ本員ノ申シタコトハサウ云フ譯デナインデアリマスカラ、更ニ辯明シテ置キマス

ス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

軍人恩給法中改正法律案特別委員

| | | |
|----------|-----------|----------|
| 侯爵細川 護立君 | 男爵小澤 武雄君 | 子爵五辻 治仲君 |
| 小野田 元熙君 | 男爵村上 敬次郎君 | 男爵山内 長人君 |
| 男爵中溝德太郎君 | 鮫島 武之助君 | 佐々田 懇君 |

○議長（公爵徳川家達君） 議事日程第十六、軍事救護法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

軍事救護法

第一條 傷病兵、其ノ家族若ハ遺族又ハ下士兵卒ノ家族若ハ遺族ハ本法ニ依リ之ヲ救護ス

第二條 本法ニ於テ傷病兵ト稱スルハ左ノ各號ノ一一該當スル者ヲ謂フ

一 陸海軍下士兵卒ニシテ戰鬪又ハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲兵役ヲ免セラレタル者

二 前號ニ掲クル者ヲ除クノ外陸海軍下士兵卒ニシテ故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非シテ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲兵役ヲ免セラレタル者

第三條 本法ニ於テ下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ト稱スルハ左ノ各號ノ一一該當スル者ヲ謂フ

一 陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士兵卒又ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

二 前號ニ掲クル者ヲ除クノ外陸海軍現役兵、應召中ノ陸海軍下士兵卒又ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ現役兵ノ入營シタル時、下士兵卒ノ應召シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

前項各號ノ陸海軍現役兵ニハ未入營現役兵及歸休兵ヲ包含セス

第四條 本法ニ於テ下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族ト稱スルハ左ノ各號ノ一二該當スル者ヲ謂フ

一 戰死シタル陸海軍下士兵卒又ハ第二條各號ノ傷痍若ハ疾病ノ爲死歿シタル陸海軍下士兵卒若ハ傷病兵ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ下士兵卒又ハ傷病兵カ死亡ノ時屬シタル家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

二 前號ニ掲クル者ヲ除クノ外戰死シタル陸海軍下士兵卒又ハ第二條各號ノ傷痍若ハ疾病ノ爲死歿シタル陸海軍下士兵卒若ハ傷病兵ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

三 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

四 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

五 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

六 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

七 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

八 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

九 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十一 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十二 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十三 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十四 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十五 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十六 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十七 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十八 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

十九 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

二十 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

二十一 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

二十二 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

二十三 戰死シタル陸海軍下士兵卒ノ死亡ノ時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

第十三條 傷病兵ニシテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ニ對シテハ救護ヲ爲サス
第十四條 下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ニ對スル救護ハ下士兵卒又ハ傷病兵
死亡後仍三月内之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ救護ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間下士兵卒又ハ傷病兵
ノ遺族トシテノ救護ハ之ヲ爲サス
第十五條 下士兵卒ノ家族ニ對スル救護ハ下士兵卒ノ間傷病兵トナリタル後
仍三月内之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ救護ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間傷病兵ノ家族トシテ
ノ救護ハ之ヲ爲サス
第十六條 本法ニ依ル救護ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費
ノ救助ニ非ナルモノト看做ス

第十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル救護金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ
公課ヲ課セス

第十八條 本法ニ依ル救護金品ハ既ニ給與ヲ受ケタルト否トニ拘ラス之ヲ
差押フルコトヲ得ス

第十九條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年
ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 妥ニ提出ニナリマシタ軍事救護法案ニ對シマ
シテ大體ノ説明ヲ申上ゲマス、軍事救護法案ハ傷病兵其家族遺族又ハ下士卒
ノ家族遺族ニシテ生計ノ困難ナルモノニ對シテ救護ヲスルコトニ對シテ其程
度ヲ定メタモノニアリマスルガ、從來之ヲ公私ノ團體ニ委ネテ置キマシタ、
又公私ノ團體其他ノ篤志者ニ依ツテ救護ヲ致シテ居リマシタ、併シ政府ニ於
テモ是ガ注意ヲ怠ツタ譯デハアリマセヌガ、主トシテ是等ノ救護ニ委ネテアッ
タノデアリマスガ、到底今日ノ形勢其救護ヲ以テ満足スルコトガ出來ヌノミ
ナラズ、非常ナ慘状ニ陥リ有様デ、他ニ救護方法ヲ定メナケレバナラヌ
ト云フコトニナリマシタ、是ハ御承知ノ通り屢々衆議院ニ於テモ建議案トナ
リ、又一回ハ法案トシテ通過モ致シタヤウナ次第アリマス、此度其必要ヲ
認メマシテ、茲ニ提案ヲ致シマシタ、勿論明治三十七年勅令第九十四號ニ下

士卒ノ救助令ガアリマス、併ナガラ是デモ其救護ヲ全ウスルコト能ハザルコ
トハ既ニ諸君ノ御承知ノ通リデアラウト思ヒマス、下士卒家族救助ニ關シマ
シテ斯様ニ救助令ガアリマシテモ尙ホ足ラヌノデアリマスカラ、此度ハ斯様
ナル制度ヲ設ケテ救護方法ノ備ハルヤウニ致シテ、士氣ノ振作ヲ計ラウト云
フ次第アリマス、御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス
○江木千之君 本案ニ付テチヨット伺ッテ置キタイコトガアリマス、此法案ハ
至極結構ダト考ヘマスルガ、本員ノ多年希望シテ居ツタ所デアリマスルガ、倘
之ヲ實行スル上ニ於テ唯今内務大臣ノ述ベラレタヤウニ、是マデハ公私團體
ノ施設ニ委シテ居ツタ云フコトデアリマスガ、其所謂團體ナルモノト、是ト
ノ關係ガ巧ク參ラスト、折角ノ此良イ法律ガ實施ノ結果甚ダ面白クナイヤウ
ナコトニナリハシナイカト考ヘル、今日マデ團體ノ施設ノ此法案ニアルガ如
キ輩ニ救助ヲ致シテ居ルモノガアルノデアリマスガ、其善後ハドウナサル積
リデアリマスカ、若シ今日マデノ如ク團體デ救助ヲシテ居ルモノハ團體ニ委
シテ、其上ニ此法律ニ依ツテヤルト云フコトニナッタナラバ、團體ノ事業ト云
フモノハ衰退シテシマヒハシナイカト考ヘル、ドウセ國ガヤルノデアルナラ
バ、サウ之ヲ骨ヲ折ツテ見タ所ガ、外ノ仕事ニ手ヲ出シタ方ガ宜イト云フヤ
ウニ或ハ傾キハシナイカト云フ心配ガアル、差向キ愛國婦人會トカ、軍人後
援會ノ如キモノトノ關係ハドウナルデアリマセウカ、此點ニ付テノ大體ノ御
意見ヲ伺ッテ置キタイト思フ

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 唯今江木君ノ御尋ノヤウナコトニ付キマシテ
モ考慮ヲ費シタノデアリマス、併シ眞ニ此慈善博愛ノ主義ヨリ湧イテ出タ所
ノ事實ハ國ガ之ヲ始メタカラ棄テルト云フコトハ或ル一部ニ於テハ起ルカ知
レマセヌケレドモ、アルベキ筈ハナイノデアリマスカラ、ソレ等ノモノニ對
シテハ相當ノ方法ヲ以テ此制度ガ發布セラレタ爲ニ惡影響ヲ蒙ラザルヤウニ
シタイト云フ考ヲ有ツテ居リマス、又一方ニ於テ是マデ之ニ盡力シタ公私團
體ニ相當ノ補助ヲシタラ宜カラウト云フ意見モアリマス、又ソレヲ要求シツ
ツアルモノモアリマス、是等ノコトハ能ク攻究シテ宜シキニ制シヤウト思ッテ
居リマス、是ハ茲ニ管シクハ申上ゲマセヌガ、唯政府ガソレ等ノコトハ考
慮ノ中ニ置イテ宜シキニ制スル覺悟デアリマスト云フコトヲ申上ゲテ置キマ

○阪本鉄之助君 唯今ノ御質問ニ付キマシテ尙ホ少シ補足シテ伺ヒタイト思

ヒマスルガ、現在此傷病兵ト稱スルモノガ何人モ知ッ居テルコトデアリマスルガ、市中若クハ村落等ニ參リマスルト、如何ハシイ風體ラシテ、藥ナドヲ

賣ッテ歩イテ居ル、或ハ偽物デハナイカト思フモノモアリマスガ、警察官ガ大

分取締ヲ致シテ左様ナモノハ彷徨シナイヤウニナッテ居ルダラウト思ヒマス

ガ、果シテ然ラバ矢張リ本當ノ傷病兵デアルダラウト思ヒマス、ソレガ憐レ

ナト云フ感ジヲ以テ迎ヘナクテ、民間デハ厭フベキモノデアル、甚ダウルサ

イモノデアルト云フヤウナ感情ヲ以テ此不幸ナル軍人ヲ迎ヘルヤウニナッテ

居リマスガ、如何ニモ實際サウ感ゼラレルノデアリマス、即チ此法律ガ行ハ

レマスレバ、左様ナコトハ一掃シ得ルホド優渥ナ補助ガ出來マスルノデアリ

マスガ、矢張リ政府カラ御手當ハ出ルケレドモ、甚ダ薄イカラ矢張リ食フコ

トガ出來ヌト云フ爲ニ、アア云フ者ガ相變ラズ彷徨スル譯デハアリマスマイ

カ、其邊ハ政府ハ如何ナル御所見デアリマスカ、伺ッテ置キタイト存ジマス

〔國務大臣男爵後藤新平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵後藤新平君) 本案ニ付テノ御尋ノ中ニ傷病兵ノコトヲ主トシテ御尋デアリマスルガ、傷病兵ノ家族遺族又現役ノ下士卒ノ家族遺族、之ニ對シテ軍事救護法ヲ布カレルノデアリマス、而シテ此發布ノ後ニ於テハ唯今阪本君カラ御述ベニナリマシタヤウナ如何ハシキ、社會ニ於テ忌マレルヤウナ者ハ跡ヲ絶ツカ否ヤト云フコトノ御尋デアリマスガ、若シ其者ガ軍人デアッテ、下士卒ノ類デアッテ、其痕ヲ絶ツヤウニナルコトヲ希望スル次第デアリマスガ、是ハ阪本君御自身ノ述ベラレタル通り、眞ノソレデアルヤ否ヤト云フコトノ疑ハシイコトハ何人モ思ッテ居ル所デアリマス、是ハ警察官ノ力ニ依ッテ今後一掃スルヤウニ取締ルコトモ出來ルデアリマセウ、ソレ等ノコトハ別問題ト致シマシテ、本法施行ノ上ハ從來ノ憂ヲ去ルニ足ルベキ程ニナラコトヲ希望シテ居リマス、今後ニ於テ必ズヤ此實行ノ後ニ於テハ從來ノ憂ヲ去ルデアラウト考ヘテ居リマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ハ前ノ軍人恩給法中改正法律案ノ委員ヲ指名イタシマス

大正五年法律第四號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長大岡育造

大正五年法律第四號中改正法律案

大正五年法律第四號中改正法律案

「又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得」ヲ「借入金ヲ爲シ又ハ公債ヲ發行スルコトヲ得」ニ改メ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ借入金及公債ノ額ハ通シテ三千四百萬圓以内トス

本法ニ依ル特別會計資金ノ繰替、借入金又ハ公債ヲ整理償還スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ借入金ヲ爲シ又ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(勝田主計君) 御承知ノ如クニ大正五年法律第四號ト申シマスノハ、臨時事件ニ關係イタシマスル財源調達ノ法律デアリマス、即チ此法律ニ依リマスト特別會計ノ資金ヲ繰替使用シ、又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得ルト云ハスノデ、借入金又ハ公債ト云フコトニ改正ヲ致シマスノガ一箇條デアリマス、ソレカラ從來ノ法律ニ依リマスルト借入金ト致シマシテモ其制限ガ附イテ居リマセナシダ、ソレヲ今回ハ三千四百萬圓ト云フ制限ヲ附ケマスノデ、三千四百萬圓ト申シマスノハ、四百萬圓ハ既ニ借入レテアルモノデゴザイマス、アトノ三千萬圓ハ是ハ今回追加豫算トシテ皆様ノ御協贊ヲ經ツツアル所ノモノデアリマスノデ、即チ其金額ヲ捉ヘマシテ三千四百萬圓ヲ限度トスルコトニ致シマシタ、モウ一箇條ハ從來ノ規定ニ依リマスト整理償還ノ規定ガゴザイマセナシダ、是ハ是非斯様ナル法律ニハ必要ナモノデアリマスカラシテ、整理償還ノ規定ヲ置キマシタ、是ガ法律ノ改正ノ趣旨デゴザイマス、ドウカ御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

大正五年法律第四號中改正法律案特別委員

侯爵徳川 國順君 子爵榎本 武憲君 男爵中川 興長君
男爵小早川 四郎君 男爵高橋 是清君 室田 義文君
伊澤 多喜男君 麻生 太吉君 鎌田 勝太郎君

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長大岡育造

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八、朝鮮事業公債法中改正法律案、
政府提出、衆議院送付、第一讀會

朝鮮事業公債法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

電話事業公債法
附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

事業公債條例中本法ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(勝田主計君) 本年ノ十二月一日ニナリマスト朝鮮ノ國庫債券

三千萬圓ノ償還期ガ参リマス、然ルニ朝鮮事業公債法ニ依リマスト公債ノ借替ヲスルト云フ規定ガ闕ケテ居リマスノデ、此借替ノ規定ヲ插入イタシマス

ノ國務大臣(勝田主計君) 本年ノ十二月一日ニナリマスト朝鮮ノ國庫債券
三千萬圓ノ償還期ガ参リマス、然ルニ朝鮮事業公債法ニ依リマシテ
募集スベキ公債ハ總額八千四百萬圓ト云フコトニナシテ居リマス、然ルニ豫定ノ計畫ニ依リマスト總額ガ九千六百萬圓ニナリマス、即チ千二百萬圓バカリ増加スルコトニナリマスノデ、此序ヲ以チマシテ公債發行總額ヲ改正イタシマス、是ガ此法律案ノ趣旨デゴザイマス、ドウカ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 此特別委員ハ日程第十七ノ法案ノ特別委員ト同一
ノ諸君ヲ指名イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 高木男爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ御報告

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十九、電話事業公債法案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會

電話事業公債法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依ル公債ノ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得本法ニ依ル公債又ハ借入金借換ノ爲必要アルトキ亦同シ

ニ及ビマス

〔圖書記官朗讀〕

電話事業公債法案特別委員

| | | |
|----------|-----------|---------|
| 伯爵寺島誠一郎君 | 子爵一柳末德君 | 子爵牧野忠篤君 |
| 小松謙次郎君 | 男爵日賀田種太郎君 | 男爵阪谷芳郎君 |
| 男爵本田親濟君 | 男爵本多政以君 | 中島永元君 |
| 原保太郎君 | 南弘君 | 鎌田榮吉君 |
| 日高榮三郎君 | 福島文右衛門君 | 井芹康也君 |

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十、朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案

朝鮮鐵道用品資金會計法ハ之ヲ廢止ス

本會計廢止ノ際現存スル現金ハ朝鮮總督府特別會計ノ歲入ニ繰入ルヘシ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(勝田主計君) 本案ハ朝鮮ノ鐵道ヲ南滿洲鐵道會社ニ委託經營ヲサセマスル結果ト致シマシテ、此會計法ヲ廢止スルノ必要ガゴザイマスノデ提出イタシマシタ、ドウカ御審議ノ上御協賛ヲ……

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔圖書記官朗讀〕

朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案特別委員

| | | |
|---------|---------|---------|
| 伯爵林博太郎君 | 子爵青木信光君 | 子爵池田政時君 |
| 阿部浩君 | 男爵久保田讓君 | 古市公威君 |
| 男爵神山郡昭君 | 男爵佐竹義準君 | 安田善三郎君 |

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガゴザイマセヌケレバ、議事日程第二十一、第二十二、第二十三ヲ束ネテ問題ト致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案、京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案、學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案

時局ニ關シ工科大學ノ擴張ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲帝國大學特別會計法第二條ノ金額ノ外大正六年度ニ於テ金二十一萬千七百四十圓ヲ東京帝國大學特別會計ニ、金十二萬二千七百六十六圓ヲ京都帝國大學特別會計ニ、大正七年度以後當分ノ内毎年度各金一萬五千圓以内ヲ東京帝國大學特別會計及京都帝國大學特別會計ニ一般會計ヨリ繰入ルヘシ

京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案

火災復舊ノ費用ニ充ツル爲帝國大學特別會計法第二條ノ金額ノ外大正六年度ニ於テ金三萬圓ヲ一般會計ヨリ京都帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長大岡育造

學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案

大阪高等工業學校校舍新營ノ費用ニ充ツル爲學校及圖書館特別會計ノ資金ニ屬スル同校用土地及建物ノ賣却代金中新營費ニ相當スル金額ヲ大正六年度乃至九年度ニ於テ一般會計ニ繰入ルコトヲ得

〔國務大臣岡田良平君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(岡田良平君) 唯今議題ニナッテ居リマス所ノ三案ノ第一ハ東京

帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案デゴザイマス、目下

實業ノ發展ニ伴ヒマシテ、技術者ノ必要ト云フモノガ甚ダ切實ニナッテ居リマスノハ御承知ノ通リデアリマス、其中ニ就キマシテモ採鑄治金ノ關係ノ技術者竝ニ應用化學ノ關係技術者ト云フ者ガ最モ缺乏ヲ告ゲテ居リマスノデゴ

ザイマス、ソレ故ニ今回各大學ニ於キマシテ是等ノ學科ニ付キマシテ聊カ擴張ヲ行ヒマシテ生徒ノ定員ヲ增加イタシテ、此現在ノ急ニ應ズル計畫ヲ立テマシタノデアリマス、ソレガ爲ニ此第一案ノ法律ヲ要スル次第アリマス、

第二案ハ京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案デアリマス、是ハ昨年京都帝國大學ニ於キマシテ不幸ニシテ火災ヲ起シマシテ、小兒科ノ教室ノ一部ヲ燒失イタシマシタノデアリマス、之ヲ復舊スルガ爲ニハ保險金ノ收入モゴザイマス、又京都大學ノ資金カラ支出シ得ル資金モアリマス、然ルニ其兩方面カラノ金額ニ尙ホ不足ヲ告ゲマスノデ、政府カラ別ニ支出金ヲ要スルノデ、即チ此法律ヲ提出イタシマンタ次第ゴザイマス、第三ハ學校及圖書館

特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ル件ニ關スル法律案デアリマス、是ハ大阪ノ高等工業學校ハ敷地ガ甚ダ狹隘デアリマシテ目下擴張ノ必要ガゴザイマスケレドモ、現在ノ場所ニ於テ之ヲ擴張イタスト云フコトガ出來マセヌノデゴザイマス、又此校舍ノ一部ハ既ニ腐朽イタシマシテ之ヲ改築スルノ必要ニ迫テ居リマスノデゴザイマス、是等ノ事情ガゴザイマスノデ、幸ヒ大坂方面ハ一般ノ景氣ガ甚ダ宜シクアリマシテ、現在ノ校地校舍ヲ極メテ有利ノ條件ヲ以テ賣却シ得ル狀況デゴザイマスニ依ッテ、之ヲ賣却シマシテ其金ヲ

以テ場所ヲ變更イタシマシテ、サウシテ敷地ヲ擴大イタシ、校舍ヲ改築イタスト云フ計畫デゴザイマス、是ハ少シモ政府支出金ヲ要シマセヌノデゴザイマスケレドモ、會計法ノ關係上斯ノ如キ法律ヲ提出スルノ必要ガアルノデゴザイマス、ドウゾ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔岡書記官朗讀〕

東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案外二件特別委員

侯爵德川 賴倫君 伯爵萬里小路通房君 男爵高木 兼寬君
男爵神田 乃武君 福原鐸二郎君 男爵藤堂 高成君
石井省一郎君 湯淺倉平君 堀内半三郎君

○議長(公爵德川家達君) 第二十四、農業倉庫業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

農業倉庫業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵德川家達殿

農業倉庫業法

第一條 本法ニ於テ農業倉庫業者トハ農業ヲ營ム者カ其ノ生產シタル穀物若ハ蘭ヲ、又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物ヲ所有スル場合ニ於テ其ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ之ヲ倉庫ニ保管スル者ヲ謂フ

前項ニ規定スル寄託物ニ付所有權ノ移轉アリタルトキト雖農業倉庫業者ハ其ノ寄託物ノ保管期間内ニ限リ之ヲ保管スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ他ノ農業倉庫業者カ前二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ保管スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ前三項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限リ業務規程ノ定ムル所ニ依リ前三項ノ規定ニ依ラズ物品ノ保管ヲ爲スコトヲ得

第二條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事

業ヲ爲スコトヲ得
一 受寄物ノ調製、改裝又ハ荷造ヲ爲スコト
二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ仲立ヲ爲スコト
三 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコト
四 自己ノ作成シタル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ受取リタル農業倉庫證券ヲ擔保トシ
五 他ノ農業倉庫業者カ擔保トシテ受取リタル農業倉庫證券ヲ擔保トシ
テ貸付ヲ爲スコト
第三條 農業倉庫業者ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス
第四條 產業組合、農會、農業ノ發達ヲ目的トスル公益法人並市町村及之
ニ準スヘキモノニ非サレハ農業倉庫業者タルコトヲ得ス
第五條 產業組合カ農業倉庫業者タルトキハ産業組合法ニ規定スルモノノ
外第一條及第二條ニ規定スル事業ヲ目的ト爲スコトヲ得
産業組合ハ組合員ノ爲ニ前項ノ事業ヲ爲スノ外附隨トシテ組合員ニ非サ
ル者ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四號及第五號ノ事業ニ付テハ
此ノ限ニ在ラス
農會又ハ公益法人カ農業倉庫業者タルトキハ第二條第四號及第五號ノ事
業ヲ爲スコトヲ得ス
第六條 農業倉庫業者タラムトスル者ハ業務規程ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ
受クヘシ
第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ種類及品位ノ同一ナル
寄託物ヲ混合シテ保管スルコトヲ得ス
第八條 農業倉庫業者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ農業
倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ要ス
農業倉庫業者ニ非ナル者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ
記載スルコトヲ要ス
第十條 寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六月以内トス
第一條第一項又ハ第三項ニ規定スル寄託物ニ付テハ保管期間ヲ更新スル
コトヲ得但シ寄託者ハ更新ノ際同條第一項又ハ第二項ニ掲クル者タルコ
トヲ要シ其ノ期間ハ六月ヲ超ユルコトヲ得ス

第一條第四項ニ規定スル寄託物ニ付テハ同條第一項乃至第三項ノ規定ニ
依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限り保管期間ヲ更新スルコトヲ得其ノ期間ハ
前項但書ニ同シ
第十一條 商法第三編第五章乃至第七章及第九章第二節ハ本法ニ別段ノ定
アル場合ヲ除クノ外農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス
第十二條 商法第三百七十六條ノ規定ハ受寄物ノ調製、改裝又ハ荷造ニ關
シ農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス
第十三條 農業倉庫業者業務規程ヲ變更セムトスルトキハ行政官廳ノ認可
ヲ受クヘシ
第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス
第十五條 行政官廳公益上必要ト認ムルトキハ農業倉庫業者ニ對シ其ノ指
定スル穀物又ハ繭ノ寄託ヲ受ケ、受寄物ノ檢查其ノ他ノ行爲ヲ爲スヘキ
コトヲ命スルコトヲ得
第十六條 行政官廳ハ農業倉庫業者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書
類、帳簿又ハ業務執行若ハ財產ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命
令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第十七條 行政官廳農業倉庫業者ノ業務執行若ハ財產ノ狀況ニ依リ事業ノ
繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ、農業倉庫業者ノ行爲カ法令若ハ業務規程
ニ違反シタルトキ又ハ其ノ行爲カ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ム
ルトキハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得
第十八條 農業倉庫業者タル法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者本法又ハ本法
ニ基キテ爲ス命令又ハ處分ニ違反シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料
ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準
用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 農業倉庫業法案ヲ提出ヲ致シマシタル理由ヲ申上
ゲマス、時局今日ノ場合ニ於キマシテ倉庫業ノ隆昌ヲ圖リマスコトハ固ヨリ
必要ト存ズルノデアリマス、就中國家ノ基礎トモナルベキ農村農民ノコトニ
トヲ要シ

付キマシテ此際別シテ心ヲ用ヒルベキコトト思ヒマス、農民農村ノ爲ニ生産物ニ對スル增加ノ方法ニ付キマシテ有ラユル途ヲ講ズルノモ必要デアリマス、同時ニ重要ナル農産物ノ保存、保管ニ關シマスル、及之ニ依ッテ中以下ノ農民資金利用ノ途ヲ立テマスル、及販賣等ノ點ニ付テ總テ共同運搬共同販賣ノ途ヲ付ケマス、是ハ實ニ農民ノ爲ニ必要ナ施設デアルト存ズルノデアリマス、是等ノ趣意ニ依リマシテ茲ニ農業倉庫ヲ普及ヲ致シタイト存ジマス、政府ニ於キマシテ相當ノ補助ヲ致シテ、成ルベク各地方ニ普及ノ途ヲ立テタイト存ズルノデ、今日ノ場合ニハ斯様ナ法律ヲ提案イタシマシタノハ、實ハ此事柄ハ專ラ地方農民ニ於テ其衝ニ當ルノデアリマス、國庫ハ之ニ對シテ補助ヲ致スノデアリマス、其經費ハ何レモ地方ノ府縣會ノ經費ニ計上ヲ致シテ協賛ヲ受ケル筈デアリマス、一日モ速ニ大體ノ方針ガ定マリマセヌト、各地方ニ於キマシテモ種々ノ經營上ニ差支ヲ生ジマス、是等ノ理由ヨリ誠ニ短イ時日デアリマスガ此議會ニ提案シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上協賛アラムコトヲ……

○阪本鉄之助君 唯今提案ニナツテ居リマス農業倉庫ノコトデゴザイマスガ、本員モ此事ハ嘗テ少シ調ベタコトガアルノデアリマスガ、頗ル農業ノ發達ノ上ニハ必要ナコトト信シテ居ル者デアリマスガ、然ルニ此法案ヲ拜見イタシマスト、第四條ニ「產業組合、農會ノ發達ヲ目的トスル公益法人並市町村及之ニ準スヘキモノニ非サレハ農業倉庫業者タルコトヲ得ス」ト書イテアリマス、此各種ノ者ニ非ザレバ農業倉庫ノ營業者タルコトハ出來ヌ、如何ニモ薄利ナモノデアリマシテ面倒ナ仕事デアリマスカラ營利業者トシテハ餘程ムヅカシイモノデアルカトモ存ジマスケレドモ、實際熊本縣下アタリデハ斯ウ云フモノデナクテ營業ヲシテ居ルノガアル、ナカノ巧ク行ツテ居ルヤウニ思ヒマス、然ルニ政府ハ之ニ限り、若シ普通ノ會社組織デ致シタイト云フノガアリマシテモ、之ヲ許サヌト云フ意味デアリマスカ、唯今補助云々ノ御話ガ澤山アルノデ、詰リ一種ノ農産物ノ倉庫會社デアルト云フコトハ無論含ンデ居ル品物デアリマスカラ、場合ニ依ツテハ普通ノ營利會社ニ許サレテモ差支ナイモノデアルマイカト云フコトヲ疑フノデアリマス、ソレガ一ツ、モウ一ツハ此法案ノ第五條ノ第三項ニ「農會又ハ公益法人カ農業倉庫業者タルトキ

思ヒマス

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 阪本君ノ御質問ニ御答へ致シマス、御質問ノ第一點ハ本法ノ第四條ニ於テ產業組合、農會若ハ農業ノ發達ヲ目的トスル公益法人其他、市町村等ノモノデナケレバ之ヲ營ムコトヲ得ズト、然ルニ是等ノモノデナクテモ既ニ各地方ニ於テ農業倉庫業ヲ營ンデ居ル者ガアル、是等ニ對シテハ將來ドウ云フ考ヲ有ツノデアルカト、御話ノ如クニ熊本ニ於キマスル農業倉庫ノ如キ、其他或ハ酒田、各地方ニ農業倉庫モ今日アルノデアリマスガ、此法律ヲ立テマシタ趣旨ハ專ラ農村農民ノ爲ニ、主トシテ營利ヲ目的トセズニ、公益ノ爲ニ盡ス農業倉庫ス設置シタイト考ヘルノデアリマス、即チ農村農民ノ爲デアリマスカラ、營利ヲ目的トセズシテ、主トシテ公益ヲ目的トスル爲ニ、政府ニ於テ相當ノ助成ヲ致シマス、又ソレニ付テ種々ノ特權ヲモ許スコトニナルノデアリマス、故ニ此法律ニ基ク特權ヲ得ルトカ、若クハ補助ヲ得ルト云フモノナラバ、此法律ニ基イタル公益法人デナクテハナラニモ許スコトニナルノデアリモハ、ソレニハ少シモ影響ヲ及ボサナイ、又此法律ノ規定スル特權若クハ條件ニ依ラナイモノデアリマスナラバ、是ハモウ普通ノ法律ニ基ク通常ノ倉庫デアリマス、此法律ノ立テ方ハ唯今申ス趣旨デアリマス、ソレカラ尙ホ第二ノ御問ハ第五條ニ於テ「農會又ハ公益

ハ第二條第四號及第五號ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス」トスウアリマスカラ、言ヒ換ヘテ見ルト、第四條ノ農會ト公益法人ガ此農業倉庫ヲヤリマスル時ニハ第二條ノ四號五號即チ證券ヲ擔保ト致シテ貸付ヲ爲スコトガ出來ヌ、又他ノ倉庫業者ガ發シタ所ノ證券ヲ擔保トシテ謂ハユル割引ヲ致スヤウナニ重貸ヲ致スコトガ出來ヌ、即チ此二箇條ノ事業ヲ致スコトガ出來ヌト云フ制限ヲ加ヘテ居ラレルヤウデアリマスガ、何故ニ農會又ハ公益法人ハ出來ナイカ、產業組合若クハ市町村デサヘ出來ルノデアル、產業組合ノ如キハ金融機關ヲサヘモ兼營スルコトガ出來ルノデアル、然ルニ農會トカ公益法人トカハ何故ニソレガ出來ナイカ、市町村ガ營利ノ事業ヲ致シテ居ル實例ハ澤山アルカラ、其例ニ依ツテ營利事業ヲシテモ宜イ、併シ農會トカ公益法人トカ云フモノハ性質ニ於テ金融機關ヲ扱フコトハ宜シクナイト云フコトハ一説カモ知レマセヌガ、本員等ノ見ル所デハ甚ダ權衡ヲ失シテ居ルヤウデアリマスガ、ソレ等ニ付テハ廟議ノ存スル所ハドウ云フコトデアリマスカ、御示シヲ願ヒタイト思ヒマス

法人カ農業倉庫業者タルトキハ第二條第四號及第五號ノ事業ヲ爲スコトヲ得
ス」是ニモ餘ホド注意ヲ致シタ積リデアリマス、此農業倉庫業ハ相成ルベク
ハ公益的、殊ニ農村農民ノ爲デアリマスカラ、産業組合其他農業ノ發達ヲ目
的トスルモノ、市町村等ニ於テ成ルベクハソレニ當ツテ參ルガ宜シイコトト
思フノデアリマス、併ナガラ農會其他ニ於テモ固ヨリ此農業倉庫ノ事業ヲ營
マセナイト云フノデハナイノデアリマシテ、固ヨリ之ニ當ルコトガ出來ルノ
デアリマス、成ルベクハ唯今申スヤウナ趣旨ニ依リマシテ農會其他ソレニ適
スルモノガ自ラアルノデアリマス、是等ニハ此第二條ノ第四號、即チ農業倉
庫證券ヲ發行シテ之ニ向ツテ貸付ヲ爲ス方デアルトカ、或ハ他ノ倉庫業者ガ
擔保トシテ受取ッタル證券ヲ引當トシテ貸付ヲスルコト、斯ウ云フコトハ取
扱ハセナイコトニスルノガ、農會ノ本旨ニモ適スルコトデアラウト思ヒマス、
何レ之ニ付キマシテハ取扱ハセテモ宜カラウト云フ御意見モアルカモ知レマ
セヌガ、是ハ全ク意見ニ屬スルコトデアリマス、尙ホ此案ノ内容ノ詳細ニ涉
リマシテハ、委員會等デ詳細申述ベマシタ方ガ宜シカラウト思ヒマス
○鈴木總兵衛君 農商務大臣ニチヨット伺ヒマスガ、此農業倉庫業者タルモ
ノガ此規定ニ依リマスルト多少營利的ニ關係スルコトガアル、他ニモ倉庫業
者ガアツテ營利的ニヤッテ居ル、ソレハ營業稅法ノ範圍内ニ這入ツテ居ル、是等
ノ營業稅法ノ範圍内ニ這入ルカ或ハ購買組合等ノ如ク無稅ト爲スノデアリマ
スカ、其邊ハ如何デアリマスカ

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 鈴木君ノ御質問ニ御答へ致シマス、チヨット御質問
ノ趣旨ヲ了解イタシ兼ネタノデアリマスガ、私ハ斯ウ云フ風ニ承ツタト思フ、
此法律ニ依ツテ今度出來マスル農業倉庫業ハ全ク公益的ノ倉庫ヲ造ラセル積
リデアリマス、之ニ付テハ各種ノ租稅ニ對スル免稅其他種々ノ特典ガアリマ
ス、殊ニ又此農業倉庫ノ建設ニ付キマシテハ、國家ニ於テ相當補助ヲ致ス積
リデアリマス、此方ノ農業倉庫ハサウ云フノデアリマス、ソレカラ從前行ハ
レテ居リマスモノニハ、單純ノ商業上ノ倉庫モアリマスルシ、又農業倉庫モ
アルノデアリマス、從前ノモノハ此法律ノ下ニ於テノ恩惠特典條件ヲ受ケヤ
ウトスレバ、此規定ニ從ハナケレバナラヌ、左モナイ以上ハ別段是ト關係ハ
ナイノデアリマス、ドウゾ其趣旨ニ御了解ヲ……

○鈴木總兵衛君 唯今ノ御答辯デ尙ホ盡キマセヌカラ再應伺ヒマスガ、既ニ

此第二條ノ第二ニ於テハ「受寄物ノ運送又ハ販賣ノ仲立ヲ爲スコト」第三ニ於
テ「受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコト」ト云フコトガアリマス、又金錢
ハ公益的、殊ニ農村農民ノ爲デアリマスカラ、産業組合其他農業ノ發達ヲ目
的トスルモノ、市町村等ニ於テモ固ヨリ此農業倉庫ノ事業ヲ營
マセナイト云フノデハナイノデアリマシテ、固ヨリ之ニ當ルコトガ出來ルノ
デアリマス、成ルベクハ唯今申スヤウナ趣旨ニ依リマシテ農會其他ソレニ適
スルモノガ自ラアルノデアリマス、是等ニハ此第二條ノ第四號、即チ農業倉
庫證券ヲ發行シテ之ニ向ツテ貸付ヲ爲ス方デアルトカ、或ハ他ノ倉庫業者ガ
擔保トシテ受取ッタル證券ヲ引當トシテ貸付ヲスルコト、斯ウ云フコトハ取
扱ハセナイコトニスルノガ、農會ノ本旨ニモ適スルコトデアラウト思ヒマス、
何レ之ニ付キマシテハ取扱ハセテモ宜カラウト云フ御意見モアルカモ知レマ
セヌガ、是ハ全ク意見ニ屬スルコトデアリマス、尙ホ此案ノ内容ノ詳細ニ涉
リマシテハ、委員會等デ詳細申述ベマシタ方ガ宜シカラウト思ヒマス
○鈴木總兵衛君 農商務大臣ニチヨット伺ヒマスガ、此農業倉庫業者タルモ
ノガ此規定ニ依リマスルト多少營利的ニ關係スルコトガアル、他ニモ倉庫業
者ガアツテ營利的ニヤッテ居ル、ソレハ營業稅法ノ範圍内ニ這入ツテ居ル、是等
ノ營業稅法ノ範圍内ニ這入ルカ或ハ購買組合等ノ如ク無稅ト爲スノデアリマ
スカ、其邊ハ如何デアリマスカ

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 鈴木君ノ御質問ニ御答へ致シマス、チヨット御質問
ノ趣旨ヲ了解イタシ兼ネタノデアリマスガ、私ハ斯ウ云フ風ニ承ツタト思フ、
此法律ニ依ツテ今度出來マスル農業倉庫業ハ全ク公益的ノ倉庫ヲ造ラセル積
リデアリマス、之ニ付テハ各種ノ租稅ニ對スル免稅其他種々ノ特典ガアリマ
ス、殊ニ又此農業倉庫ノ建設ニ付キマシテハ、國家ニ於テ相當補助ヲ致ス積
リデアリマス、此方ノ農業倉庫ハサウ云フノデアリマス、ソレカラ從前行ハ
レテ居リマスモノニハ、單純ノ商業上ノ倉庫モアリマスルシ、又農業倉庫モ
アルノデアリマス、從前ノモノハ此法律ノ下ニ於テノ恩惠特典條件ヲ受ケヤ
ウトスレバ、此規定ニ從ハナケレバナラヌ、左モナイ以上ハ別段是ト關係ハ
ナイノデアリマス、ドウゾ其趣旨ニ御了解ヲ……

○鈴木總兵衛君 唯今ノ御答辯デ尙ホ盡キマセヌカラ再應伺ヒマスガ、既ニ

此第二條ノ第二ニ於テハ「受寄物ノ運送又ハ販賣ノ仲立ヲ爲スコト」第三ニ於
テ「受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコト」ト云フコトガアリマス、又金錢
ノ融通ト云フコトモアリマス、是等ハ多少ノ手數料或ハ其報酬金ヲ取ッテヤ
ルカ取ラヌデヤルカト云フ、其業務ノ上ニ於テ、營業的ニナルカ公益的ニナ
ルカト云フコトハ分レルノデアリマス、其點ニ付テ明瞭ノ御答ヲ願ヒマス
〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 御答ヲ致シマス、此第二條ノ規程ニ於テ茲ニ農業
倉庫業トシテ取扱フベキ種々ノ事項ヲ定メテアリマス、而シテ是ハ營利ハ目的
ト致サナインデアリマス、主トシテ公益ヲ基トスルノデアリマス、其費用ノ
決メ方ナリ、取扱ノ方法等ハ此法律ニアリマスル如クニ「農業倉庫業者ハ業
務規程ノ定ムル所ニ依リ」ト斯ウ云フノデアリマス、其業務規定ニ於テソレ
ぐ詳細ノ規定ヲ致ス積リデアリマス、之ニ依ツテ御答ヲ致シマス

○阪本彰之助君 犀ニ御尋ヲ致シマシタトキノ大臣ノ御答辯中、少シ承ハリ
兼ネマシタ所モゴザイマスガ、第一ノ御問ニ對シテハ唯今鈴木君ヘノ御答ニ
依ツテ略々了解イタシマシタノハ、唯今マデ存立ヲ致シテ居ル會社ガヤッテ居ル
モノハ商法ノ規定ノ下ニ依ツテ居ル、斯ウ云フ御趣意ノヤウニ分リマシテゴ
ザイマスガ、第二ニ此農會ト農業ノ發達ヲ目的トスル公益法人ニハ許サナイ
ト云フコトガ性質上許サナインデアルカ、今日ノ農會及農業發達ヲ期スル公
益法人ト云フモノハ、今日ニ於テマダ幼稚デアルカライカナイト斯ウ云フノ
デアリマスカ、併シ農業ノ發達ヲ主トスル公益法人ト概括ニ書イテアレバド
ンナエライモノガアルカモ知レマセヌ、ドウモ今日ハイカナイト云フノモ、少
シ如何デアリマスカ、性質上許スベキモノデナイト云フコトハ本員等ハ甚ダ
疑フ、ドチラノ御趣意デ此法文ガ決メラレタノデアルカ、御面倒デアリマス
ガ拜聽シタイ

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(仲小路廉君) 農業倉庫業ヲ營ミマス者ノ中ニ、農會ヲ入レテ然
アルノデアリマス、從前ノモノハ此法律ノ下ニ於テノ恩恵特典條件ヲ受ケヤ
ウトスレバ、此規定ニ從ハナケレバナラヌ、左モナイ以上ハ別段是ト關係ハ
ナイノデアリマス、ソレガ直接ニ各種ノコトニ當ルト
云フノハ、ドウ云フモノデアラウカ、斯ウ云フ議論ガアツタノデゴザイマス、

唯今日マデノ現狀ニ於キマシテハ農會等ノ全ク之ヲ此ニ置クニハ及ブマ
イ、唯制限サレタ範圍ニ於テ之ニ扱ハセルガ宜カラウ、斯ウ云フ考デアリマ
ス、其意味ハ敢テ農會ガ……、今日ノ農會ガ不信用デアルトカ何トカ云フノ
デヤナイノデ、農會其物ノ性質上、第二條第四第五等ニ屬スルコトハ取扱ハ
シメナイガ宜シイ、斯ウ云フコトデアリマス、其他公益ニ關スル農業ノ發達
ヲ目的トスル公益法人云々ト云フノモ矢張リ之ト同ジ趣旨デアリマス、尙ホ
何レ此詳細ノコトハ更ニ又詳シク申上ゲテ宜シウゴザイマス

○男爵高木兼寛君 本案ノ特別委員ヲ十五名ト定メ、此選定ハ議長ニ御委任
申上ダウゴザイマス、滿場諸君ノ御賛成ヲ願ヒタウゴザイマス

○子爵青木信光君 賛成

〔其他賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 高木男爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス……特別委員ノ氏名ヲ御報
告ニ及ビマス

〔岡書記官朗讀〕

| | |
|-------------|---------|
| 農業倉庫業法案特別委員 | |
| 伯爵奥平昌恭君 | 子爵青山幸宣君 |
| 子爵片桐貞央君 | 子爵米津政賢君 |
| 男爵平野長祥君 | 田中源太郎君 |
| 磯部四郎君 | 江原芳平君 |
| 依田仙右衛門君 | 鈴木周三郎君 |

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十五、戰時海上再保險法案、政府提
出、衆議院送付、第一讀會

戰時海上再保險法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 政府ハ保険業者カ海上保険契約ニ依リ戰爭ニ因リテ生スルコトア
ルヘキ損害ノ填補ヲ約シタル場合ニ於テ其ノ損害ノ填補ニ付本法ニ依リ
再保險ヲ爲スコトヲ得

前項ノ再保險ハ日本ノ保険業者又ハ外國保険業者ノ日本ニ設ケタル支
店、事務所若ハ代理店カ主務官廳ノ定ムル海上保険料率以下ニ於テ爲シ
タル第一次ノ元受保險契約ニ付テノミ之ヲ爲ス

元受保險契約カ豫定保險ノ方法ニ依リタルモノナルトキハ海上保険料率
ニ關シテハ保險ノ各目的ニ付船舶出港ノ時ニ於テ契約ヲ爲シタルモノト
看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二條 再保險ノ目的ハ左ノ各號ノ一二該當スルモノナルコトヲ要ス

一 日本ニ船籍ヲ有スル船舶

二 日本ヨリ輸出シ若ハ之ニ輸入スル積荷又ハ前項ニ掲クル船舶ニ搭載
スル積荷

第三條 主務官廳必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ再保險ノ範圍ヲ制限スル
コトヲ得

第四條 保險業者カ本法及本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ船舶出港前再保
險ノ申込ヲ發シタルトキハ政府ハ之ヲ承諾シタルモノト看做ス

再保險ノ申込ハ其ノ申込ヲ發シタル日ノ午後十二時ニ之ヲ發シタルモノ
ト推定ス

再保險ノ申込書ニハ申込ヲ發シタル日ヲ記載スヘシ

第五條 再保險金額カ命令ニ依リテ政府ノ引受クヘキ保険金額ヲ超過スル
トキハ其ノ超過シタル部分ニ付テハ再保險ハ無效トス

同一ノ目的ニ付同時ニ數箇ノ再保險ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ保険金額
カ前項ノ保険金額ヲ超過スルトキハ各保險業者ニ對シテ引受クル金額ハ
其ノ各自ノ保険金額ノ割合ニ依ル

第六條 再保險料、再保險金額ノ支拂及豫定保險ノ方法ニ依ル再保險ニ關
スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 再保險ニ付テハ商法中保險ニ關スル規定ヲ準用ス但シ命令ヲ以テ
別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第八條 船舶ニ付政府ノ引受クヘキ保険金額ヲ査定セシムル爲戰時海上再
保險審查會ヲ置ク

戰時海上再保險審查會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 保険業者若ハ船舶所有者又ハ其ノ法定代理人、代表者若ハ從業者左ニ掲タル行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ保険業者又ハ船舶所有者ヲ五百圓以上五千圓以下ノ過料ニ處ス

一 再保險ノ目的タル要件ヲ具備セサルニ拘ラス惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ具備シタルモノトシテ再保險ノ申込ヲ爲シタルトキ

二 第四條ノ再保險ノ申込書ニ虛偽ノ日附ヲ記載シテ之ヲ發シタルトキ

三 戰時海上再保險審查會ニ對シ不正ノ文書ヲ提出シ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戰時海上保險補償法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ成立シタル保險契約ニシテ本法施行後五日迄ニ保險業者ノ責任ヲ生シタルモノニ付テハ仍戰時海上保險補償法ニ依ル其ノ保險契約ニハ

本法ヲ適用セス

〔國務大臣仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（仲小路廉君） 本案提出ノ理由ヲ説明イタシマス、今回歐羅巴ノ大戰亂ニ伴ヒマシテ、海上ノ運輸業者及海外貿易ニ從事イタシテ居リマスル者ノ安定ヲ圖リマスル爲ニ、時局開始ノ初メニ於キマシテ海上保險ニ關スル補償法ナルモノガ制定ヒラレマシテ、海上保險ニ關スル損害ノ八割マデ政府ニ於テ補償ヲ致スト云フ法律ニ依リテ今日マデ實行サレテ參ッタノデアリマス、固ヨリ此法律ノ結果ト致シマシテ海外貿易ニ從事スル者其他ハ餘程利益ハ蒙ツタニ相達ナインデアリマス、併ナガラ戰局以來今日マデ實際海上ノ保險ノ損害ニ基キマシテ、政府ガ補償イタシテ居リマスル高ハ既ニ千七百万圓近クノ多キニ達シテ居ルノデアリマス、當初豫想イタシマシタコトヨリモ意外ノ多額ニ達シテ居リマス、而カモ戰局ハ漸次擴大ヲ致シマシテ、此後海上ニ於ケル損失損害ガドレ程ノ程度ニ達シマスルヤラ、測リ知レナイ今日デアリマス、是マデノ法律ハ政府ハ常に損害ノ八割マデハ之ヲ補償イタシテ居リ、總テ之ヲ引受ケテ居ル、而シテ一面ニハ何等ノ利益ヲ見マセヌガ、唯危險ニ

對スル損害ノ負擔ノミデアリマス、其上ニ尙ホ戰局ノ擴大ニ伴ヒマシテ、益、海上ノ損失ガ多クナルニ至リマシテハ、國庫ノ上ヨリ考ヘマシテ、茲ニ餘程將來攻究イタサネバナラヌノデアリマス、殊ニ又保險ノ海外ニ賣出サレテ居ル等ノ點、其他各種ノ點ヨリ考ヘマシテ、ドウモ今日マデ行ハレテ居リマシタ戰時海上補償法ハ戰局擴大ノ今日ニハ適シナイ、今回之ヲ改メマシテ、海

ニナル、是等ノ道ニ依リマシテ海上運送業者ノ爲メ竝ニ海外貿易業者ニ差支ハナクシテ、而シテ一面國庫ノ大ナル負擔ヲ幾何タリトモ減少スルコトガ出來ルコトハ甚ダ得策デアルト存ジマシテ、茲ニ今回ノ法律案ヲ提案イタシタ次第デアリマス、何卒御審査ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵高木兼寛君 本案ノ特別委員ヲ十五名ト定メ、其選定ハ議長ニ御委任申上ゲタウゴザイマス、ドウゾ各位ノ御賛成ヲ願ヒマス
○男爵武井守正君 賛成
○子爵青木信光君 賛成

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵德川家達君） 高木男爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長（公爵德川家達君） 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔岡書記官朗讀〕

戰時海上再保險法案特別委員

| | | |
|----------|----------|----------|
| 伯爵松浦 厚君 | 子爵松平 直平君 | 子爵本多 忠鋒君 |
| 男爵武井 守正君 | 男爵肝付 兼行君 | 男爵宮原 二郎君 |
| 男爵毛利 五郎君 | 男爵楠本 正敏君 | 富井 政章君 |
| 福永 吉之助君 | 木場 貞長君 | 桑田 熊藏君 |
| 瀧川 辨三君 | 廣瀬 滿正君 | 尼崎 伊三郎君 |

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ガナケレバ、議事日程第二十六第二十七ヲ束ネテ問題ニ供シマス

○議長（公爵德川家達君）臨時國庫證券法案、臨時國庫證券收入金特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
臨時國庫證券法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正六年七月七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長大岡育造

臨時國庫證券法

第一條 政府ハ輸出爲替資金ノ疏通ヲ圖リ又ハ聯合國ニ對スル輸出軍需品代金ノ決済ヲ便ニスル爲運用資金ノ必要アリト認ムルトキハ五年内ノ期限ヲ以テ臨時國庫證券ヲ發行スルコトヲ得其ノ借換ノ爲必要アルトキ亦同シ

第二條 臨時國庫證券ノ最高發行額ハ二億圓トス但シ借換ノ爲發行スルモノハ此ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

第三條 臨時國庫證券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得
前項ノ臨時國庫證券ニ關シテハ大藏省證券條例第四條第二項及第五條以下ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
前項ノ臨時國庫證券ニ關シテハ大藏省證券條例第四條第二項及第五條以下ノ規定ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正六年七月七日

衆議院議長大岡育造

貴族院議長公爵德川家達殿

臨時國庫證券收入金特別會計法

第一條 臨時國庫證券ノ發行ニ依ル收入金ノ會計ハ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 本會計ノ資金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有シ其ノ他確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用ス

前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第三條 本會計ハ臨時國庫證券ノ發行ニ依ル收入金、運用利殖金及附屬雜費及損失金ヲ以テ其ノ歲出トス
第四條 臨時國庫證券ノ償還金、利子、割引料及其ノ發行償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ
第五條 本會計ノ資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次翌年度へ繰越スヘシ

本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 本會計終結ノ場合ニ於テ剩餘アルトキハ之ヲ一般會計ニ繰入レ不足アルトキハ之ヲ一般會計ヨリ繰入レ補充スヘシ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣勝田主計君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（勝田主計君）本案ハ先刻大體ノ趣旨ハ申上ゲテ置キマシタ如クデアリマシテ、今日ノ狀況ニ於キマシテ外國爲替ノ片爲替ニナリマスルモノヲ調節シ、並ニ軍需品ノ財源ノ調達ヲ滑ニスルト云フコトニ付キマシテハ啻ニ之ヲ民間ノ力ニダケ依頼シテ居ル譯ニ行キマセヌノデ、ソレデ今回政府ニ於キマシテハ短期ノ國庫證券ヲ發行イタシマシテ、即チ五年以内ノ期限ノ國庫證券ヲ發行イタシマシテ、民間ノ資金ヲ是デ以テ吸收イタシマシテ、サウシテ唯今申上ゲマシタ所ノ二箇ノ目的ヲ達シタイ、斯ウ考ヘルノデアリマス、其最高額ヲ二億圓ト致シマシテ、此外之ヲ整理……借替スル爲ニハ尙ホ其以上發行スルコトノ出來ルト云フコトニ決定ヲ致シマシタ、尙ホ此臨時國庫證券ヲ發行イタシマシテ、唯今ノ如キ目的ヲ達シマスルニハドウシテモ運用ノ機關ガナクテハナリマセヌノデ、即チ之ヲ一般會計ニ於テ運用スルコトハ到底出來マセヌノデ、特別會計ヲ設ケマシテ、或ハ其會計ニ於キマシテ外國ノ證券ヲ引受ケ運用イタシマスルトカ、或ハ正貨ヲ買ツテ運用イタシマスルトカ云フコトニ致シマシテ、此目的ヲ達シタイト考ヘテ居リマス次第ニアリマス、要シマスルニ此時局ニ對シマシテ一日モ棄置キ難イ法案デゴザイマスカ

ラ、ドウカ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔岡書記官朗讀〕

臨時國庫證券法案外一件特別委員

伯爵柳原 義光君

男爵尾崎 三良君

子爵稻垣 太祥君

仁尾 惟茂君

美馬儀一郎君

木村督太郎君

若槻禮次郎君

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事ノ日程ハ決定次第本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會

午後二時五十五分散會

